TheOpenGroup.OGEA-103-JPN.v2026-09-18.q88

試験コード： OGEA-103-JPN
試験名称： TOGAF Enterprise Architecture Combined Part 1 and Part 2 Exam (OGEA-103日本語版)
認証ベンダー： The Open Group
無料問題の数： 88
バージョン： v2026-09-18
ページの閲覧量： 107
問題集の閲覧量： 994
https://www.jpnshiken.com/shiken/TheOpenGroup.OGEA-103-JPN.v2026-09-18.q88.html

質問**: 1**
あなたは、複数の部門を持つ大規模な政府機関のエンタープライズアーキテクチャ(EA)チームで、エンタープライズアーキテクトとして勤務しています。この機関は、確立されたEAプラクティスを有し、アーキテクチャ開発手法としてTOGAF標準を採用しています。政府は、この機関に対し、 AIファースト」の世界への準備を進めるよう指示しました。
同機関は、将来のサービスにおけるAIの影響と役割を明確にしたいと考えている。最高情報責任者(CIO)は、サービスにおけるAIの活用を検討するためのアーキテクチャ設計依頼を承認した。一部のリーダーは、AIへの依存、セキュリティ、そして従業員が新たなスキルを習得する必要性について懸念を抱いている。
EAチームリーダーは、AIファーストプロジェクトの新しいアーキテクチャに伴うリスク管理に関する提案を求めています。TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最適な回答でしょうか？
A. ステークホルダーの分析を行い、懸念事項を文書化してアーキテクチャビジョン文書に記録します。リスクはアーキテクチャ要件仕様書に記録し、定期的に見直す必要があります。
B. 主要なステークホルダーを特定し、彼らのニーズに対応するコミュニケーションプランを作成する。アーキテクチャがリスク管理に対応していることを確認し、アーキテクチャの機能を要約する。
C. 利害関係者をグループに分け、分類します。各グループごとにモデルを作成し、フェーズG 実施ガバナンス」で彼らの懸念事項が対処されていることを確認します。
D. 組織図を作成し、各部門間の連携を示す。関係者にモデルの解釈方法を指導するための会議を開催する。セキュリティアーキテクチャ開発の一環としてリスク管理を行う。
正解**: A (**コメントを発表する**)**
In the context of the TOGAF standard, stakeholder management and addressing stakeholder concerns are critical components, especially for high-impact initiatives like adopting an AI-first approach. Here's why the selected answer aligns best with TOGAF principles and the scenario:
Stakeholder Analysis and Engagement:Conducting a stakeholder analysis is essential as it helps identify and document the concerns, issues, and cultural factors influencing each stakeholder group. This aligns with TOGAF's emphasis on understanding and managing stakeholder concerns, particularly in the Preliminary and Architecture Vision phases of the ADM (Architecture Development Method). Since the scenario highlights diverse concerns about AI, understanding each group ' s unique perspective will help the EA team tailor the architecture to address these effectively.

Architecture Vision Document:By documenting these concerns in the Architecture Vision document, the EA team can provide a clear, high-level representation of how AI will be adopted, its benefits, and how it addresses specific stakeholder concerns. This is critical for communicating the intent and value of the AI-first approach in a way that aligns with the agency ' s strategic goals, including addressing apprehensions about job security, skill development, and cyber resilience.
Risk Management and Architecture Requirements Specification:TOGAF highlights the importance of identifying and managing risks early in the process. By documenting the requirements related to risk in the Architecture Requirements Specification, the EA team ensures that these concerns are formally integrated into the architecture and addressed throughout the ADM phases. Regular assessments and feedback loops will provide a mechanism for continual risk monitoring and adjustment as the AI-first initiative progresses.
Alignment with TOGAF's ADM Phases:The approach specified aligns with TOGAF's guidance on managing risk and stakeholder concerns during the early ADM phases, specifically Architecture Vision and Requirements Management. In these phases, the framework emphasizes identifying and addressing risks associated with stakeholders ' concerns to build a resilient and widely accepted architecture.
Reference to TOGAF Stakeholder Management Techniques:TOGAF's stakeholder management techniques underscore the importance of understanding and addressing stakeholder needs as a foundational step. This involves assessing the influence and interest of various stakeholders and integrating their views into architectural development, ensuring that the architecture aligns with both business goals and operational realities.
In conclusion, by conducting a thorough stakeholder analysis and documenting concerns in both the Architecture Vision and Architecture Requirements Specification, the EA team can ensure that stakeholder concerns are addressed, that the architecture supports AI adoption effectively, and that potential risks are managed proactively. This approach will foster acceptance among stakeholders and ensure that the architecture aligns with the agency's strategic goals and risk management requirements as recommended by TOGAF.

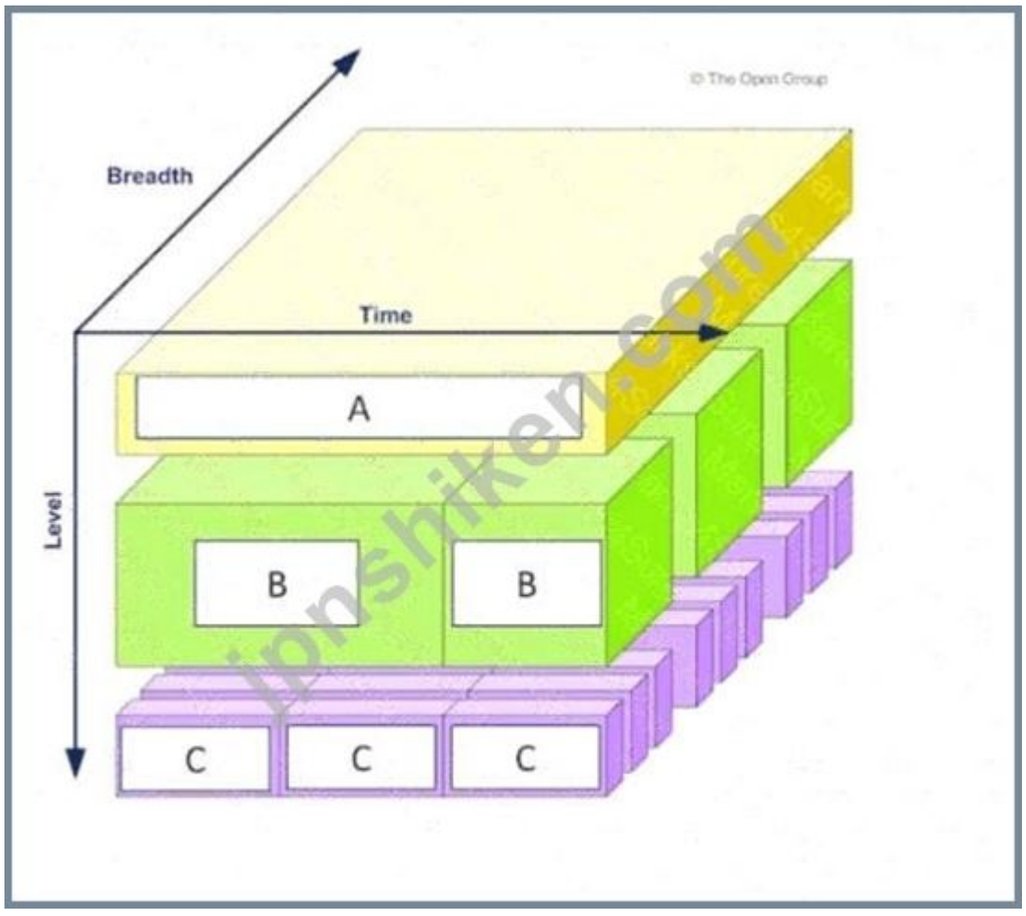
質問**: 2**
質問に答える前に、このシナリオをお読みください。
あなたは大手インターネット企業でチーフエンタープライズアーキテクトとして働いています。この企業はクラウドから物流まで、多岐にわたる事業部門を有しています。当初は書籍やメディアの販売から始まり、オンラインマーケットプレイス、ライブストリーミング、電子書籍、クラウドサービスなど、幅広いサービスを提供するまでに急速に成長しました。
多数の事業部門を統括管理することは困難を極めている。最近の注目度の高いプロジェクトは予算超過と成果不足に陥り、会社の評判を損ない、株価にも悪影響を与えている。経営陣の間では、これらのプロジェクト失敗の大きな要因として組織構造が挙げられているという見方が広く共有されている。
同社は、最高経営責任者(CEO)と最高情報責任者(CIO)が共同で推進する、TOGAF標準に基づく確立されたエンタープライズアーキテクチャプログラムを有しています。CEOは、自動化に重点を置き、人工知能と機械学習を中心に事業部門を再編成する必要があると判断しました。CEOはエンタープライズアーキテクトと協力し、アーキテクチャビジョンと4つのドメインアーキテクチャの定義を含む、再編成のための戦略的アーキテクチャを作成しました。
これは、今後3年間における会社の将来像に関する野心的なビジョンを示すものです。これには一連の作業パッケージが含まれており、3つの明確な変革が盛り込まれています。

最高情報責任者(CIO)は、詳細な実装および移行計画の承認に先立ち、EAチームが提案されたアーキテクチャに関連するリスクを評価する必要があることを明確にしました。彼は、社内の主要な関係者から、提案された組織再編は野心的すぎるのではないか、また、リスクに見合うだけの十分な価値を生み出せるのか疑問視する声が上がっているとの懸念を受けています。
シナリオを参照してください
これらの懸念事項を解消するためのアプローチを提案するよう求められました。TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最適な回答でしょうか？
A. エンタープライズアーキテクトは、組織が変革を受け入れる準備ができているかどうかを評価する必要があります。これにより、変革に伴うリスクを特定、分類、軽減することができます。これには、ギャップや作業パッケージを含め、一連の変更間の依存関係を特定することも含まれます。
また、実装および移行計画に組み込むべき改善策も特定します。各変革に伴うビジネス価値、労力、およびリスクを明確にする必要があります。
B. エンタープライズアーキテクトは、考えられるアプローチに関する情報を集約し、複数の代替ターゲット移行アーキテクチャを作成する必要があります。次に、アーキテクチャの代替案とトレードオフの手法を用いて、さまざまなアーキテクチャの代替案を調査し、関係者と議論する必要があります。ターゲットアーキテクチャが選択されたら、状態進化表を使用して分析し、移行アーキテクチャを決定する必要があります。その後、提起された懸念事項が確実に解決されるように、価値実現プロセスを確立する必要があります。
C. 企業運用モデルに沿った相互運用性を確立することで、リスクを最小限に抑えることができます。エンタープライズアーキテクトは、相互運用性分析を実施して、アーキテクチャ全体にわたる潜在的な問題点を評価する必要があります。これには、相互運用性要件を示すマトリックスの作成が含まれます。これらの要件は、ターゲットとなる移行アーキテクチャに組み込まれた変革戦略に反映されます。その後、エンタープライズアーキテクトは、アーキテクチャロードマップと実装 ·移行計画を最終決定する必要があります。
D. 詳細な実装および移行計画を作成する前に、エンタープライズアーキテクトはフェーズBからフェーズBまでのギャップ分析結果をレビューして統合する必要があります。これにより、提案されたターゲットアーキテクチャを実現するために必要な変革が特定されます。次に、エンタープライズアーキテクトは、組織が変更を受け入れる準備ができているかどうかを評価し、特定されたリスクに対処および軽減するための全体的な方向性を決定する必要があります。その後、状態進化表を使用して移行アーキテクチャを計画する必要があります。
正解: **A (**コメントを発表する**)**
The Business Transformation Readiness Assessment is a technique that can be used to evaluate the readiness of the organization to undergo change and to identify the actions needed to increase the likelihood of a successful business transformation. This technique can help to address the concerns of the key stakeholders about the risks and value of the proposed reorganization. The technique involves assessing the following aspects of the organization: vision, commitment, capacity, capability, culture, and communication. Based on the assessment, the risks associated with the transformations can be identified, classified, and mitigated for.
The technique also helps to identify the dependencies between the set of changes, including gaps and work packages, and the improvement actions to be worked into the Implementation and Migration Plan. The technique also supports the determination of the business value, effort, and risk associated for each transformation, which can be used to prioritize and sequence the work packages and the Transition Architectures1 References: 1: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 27: Business Transformation Readiness Assessment

質問: **3**
質問に答える前に、このシナリオをよく読んでください。
あなたは、製造システムを国際的に供給する企業で、エンタープライズアーキテクトとして雇用されています。
同社は、産業生産自動化向けに標準製品と特注製品の両方を組み立てる複数の製造工場を所有している。これらの工場はそれぞれ独自の計画 -生産スケジューリングシステム、および自動生産ラインを制御するアプリケーションと制御システムを運用している。現在のシステムは、各工場のサプライチェーンにおける現地パートナーと連携して機能している。
同社は市場競争に直面しており、経営陣は生産効率の向上策を検討してきた。有力な提案の一つは、多くのシステムを製造工場と連携する集中型システムに置き換えることである。CIOはEAチームに対し、複数の製造工場における標準化された生産とカスタマイズされた生産の両方をサポートしつつ、企業全体の統合とガバナンスを維持する、このアプローチのためのアーキテクチャを開発するよう依頼した。
同社はエンタープライズアーキテクチャ(EA)の実践部門を有しており、TOGAF標準を業務の基盤としています。長年にわたり活動を続けており、EAに関するガバナンスおよび開発プロセスを確立しています。
最高情報責任者(CIO)は、エンタープライズアーキテクチャプログラムを統括しています。あなたは、会社全体にわたる責任を担うエンタープライズアーキテクチャ(EA)チームの一員です。
複数の工場を持つ製造システムサプライヤーとして、満足させる必要のある利害関係者は多数存在する。
建築委員会は、このようなアーキテクチャの変革が効率性の向上につながるかどうかを調査するための建築設計作業依頼を承認した。
質問：
シナリオを参照してください。
あなたは本プロジェクトのリーダーに任命され、今後の手順を概説するよう求められています。
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. 現地のパートナーと一連のワークショップを開催し、彼らから要望を収集します。
ワークショップの結果に基づき、概要ビュー、高レベル要件、およびビジネス、情報システム、テクノロジーの観点からのベースライン環境とターゲット環境の高レベル定義を含む、暫定的なアーキテクチャビジョンを策定します。その後、このアーキテクチャビジョンを用いて、現地のパートナー間で合意形成を図ります。
B. サプライヤーがステークホルダーの懸念事項に対応する既製ソリューション候補を実証できるように、概念実証プロジェクトを実施します。プロジェクトの結果を検討した後、最も効率的なソリューションを選択し、それに基づいて要件を設定します。要件が確定したら、ステークホルダーによる正式なレビューを実施し、ターゲットアーキテクチャの開発に進むための許可を求めます。
C. 製造工場で複数のワークショップを開催し、ビジネス要件を発見 -文書化します。これにより、各拠点固有の問題を理解し、各拠点の関係者と役割を特定することができます。利害関係者のマトリックスを作成し、主要な関係者とその懸念事項を特定します。次に、アーキテクチャに関する主要な利害関係者の要件を決定し、記録します。最後に、現在および将来のアーキテクチャについて、明確な高レベルの説明を作成します。
D. 各製造工場について、ベースラインアーキテクチャとターゲットアーキテクチャのハイレベルビューを作成し、次に、ステークホルダーの主要な懸念事項に対処するために選択された視点に対応する一連のビューを作成します。アーキテクチャのギャップ分析結果をレビューし、単一のリストに統合する必要があります。一連の作業パッ

ケージを特定する必要があります。ターゲットアーキテクチャフェーズに進む前に、正式なステークホルダーレビューを実施して承認を得る必要があります。
正解: (正解を表示します)
The correct answer is Option A because it most closely follows the objectives and activities of Phase A - Architecture Vision in the TOGAF ADM. The scenario states that the Request for Architecture Work has already been approved , which means the architecture engagement has been formally initiated and the next activity is to establish a shared Architecture Vision.
During Phase A, TOGAF recommends identifying stakeholders, understanding their concerns, gathering high-level business requirements, and developing an Architecture Vision that includes summary views of the baseline and target environments. The purpose is to obtain stakeholder agreement on the scope, value, constraints, and direction of the proposed architecture before detailed architecture development begins.
Option A reflects this process by gathering requirements through workshops, creating a preliminary Architecture Vision, describing the baseline and target environments across the business, information systems, and technology domains, and using the vision to build stakeholder consensus.
Option B is incorrect because selecting technology through a proof-of-concept occurs much later and should not precede architecture definition. Option C includes useful activities such as stakeholder analysis and requirement gathering, but it omits the essential TOGAF deliverable of the Architecture Vision . Option D describes activities associated with later ADM phases, including gap analysis and work package identification.
Therefore, according to the TOGAF Standard, Option A is the best answer because it accurately reflects the purpose and outputs of Phase A - Architecture Vision .

質問: **4**
建築景観の分類モデルを示す図を考えてみましょう。



A、B、Cとラベル付けされたアイテムは何ですか？
A. A-アーキテクチャビジョン、B-ビジネスアーキテクチャ、C-アーキテクチャ開発
B. A-戦略アーキテクチャ、B-戦術アーキテクチャ、C-運用アーキテクチャ
C. A-エンタープライズ戦略アーキテクチャ。B-セグメントアーキテクチャ。C-ケイパビリティアーキテクチャ
D. A-企業能力、B-ポートフォリオ能力、C-プロジェクト能力
正解: **C (**コメントを発表する**)**

質問: **5**
質問に答える前に、このシナリオをお読みください。
あなたは自動車製造会社でエンタープライズアーキテクトとして勤務しています。この会社はバスとコーチを専門としています。あなたは、会社の複数の部門にまたがる責任を担うエンタープライズアーキテクチャ(EA)チームの一員です。EAは、製造インフラ、部品生産プロセス、設計およびテストシステムの開発と管理のための包括的なフレームワークを会社に提供します。
同社は、車両の動力源を電気自動車に切り替えることを重点とした企業戦略を掲げている。そのため、全製品ラインで使用する標準化された設計、生産体制、主要部品に多額の投資を行ってきた。同社は北米、ヨーロッパ、アジアに複数の製造拠点を有している。
環境に優しい公共交通機関を求める顧客からの需要が急増し、受注残が発生しています。電子部品の供給不足により、製品の生産と顧客需要への対応が困難になっています。この問題に対処するため、同社はバッテリーパックの自社製造を開始し、新たなサプライヤーとの契約を締結しました。

EAチームは、バッテリーパックの設計、製造、テストに関するプロセスとシステムを改善するプロジェクトに取り組んでいます。新しいバッテリーパックを量産化するにあたり、組立プロセスに変更を加える必要があります。すでに1つの拠点で試験運用が完了しました。プロジェクトのスポンサーであるチーフエンジニアとアーキテクチャ委員会は、これらの変更を全工場に展開する計画を承認しました。
各拠点における新しいプロセス導入に必要な作業を詳細に記述するため、予備的なアーキテクチャ契約書が作成されています。EAチームリーダーは、これらの契約書について話し合うための会議を招集しました。アーキテクチャ契約書は、アーキテクチャ部門と実装部門をつなぐ重要な役割を果たすことが強調されています。
同社は各拠点において、社内チームと少数の外部委託業者を組み合わせて業務を行っている。
主任技師は、導入と展開が一貫性を欠き、満足のいく品質にならないのではないかと懸念している。
同社は確立されたエンタープライズアーキテクチャ(EA)の実践体制を有しています。社内EAフレームワークを含め、業務の基盤としてTOGAF標準を採用しています。さらに、事業計画、プロジェクト管理、運用管理といった様々な管理フレームワークも活用しています。
シナリオを参照してください
EAチームのリーダーは、チーフエンジニアの懸念にどのように対処するかをあなたに尋ねます。
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. 契約書は、柔軟性があることを確認するために精査する必要があります。内部チームが行う変更については、アーキテクチャ委員会と実施組織との間で覚書を作成する必要があります。請負業者に契約書を発行する場合は、完全に法的拘束力のある契約書でなければなりません。アーキテクチャ契約からの逸脱が発見された場合、アーキテクチャ委員会は、実施組織が現地のニーズに合わせてプロセスをカスタマイズできるように、特例措置を講じる必要があります。
B. 契約書は、実装チームを指揮・管理するために使用できるものであることを確認する必要があります。第三者請負業者に発行される契約書は、法的拘束力のある契約書でなければなりません。社内開発チームの場合は、アーキテクチャ委員会との覚書が必要です。
アーキテクチャ委員会は、アーキテクチャ契約からのすべての逸脱を審査し、実装組織が現地のニーズに合わせてプロセスをカスタマイズすることを許可する特例を認めるかどうかを決定しなければならない。
C. 契約書には、目標、測定方法、受諾条件、およびリスクを明記する必要があります。第三者との契約は法的拘束力を持つ必要があります。実装プロセスの重要なポイントで、コンプライアンスレビューのスケジュールを設定することをお勧めします。アーキテクチャ委員会は、アーキテクチャ契約からのすべての逸脱をレビューし、プロセスを現地のニーズに合わせてカスタマイズできるようにするための特例を認めるかどうかを検討する必要があります。すべての特例が無期限ではなく、期限付きであることを確認してください。
D. 契約書は、各拠点におけるアーキテクチャガバナンスプロセスを管理するために使用されなければなりません。各拠点で完成したバッテリーパックの性能を評価するために、監視ツールを導入する必要があります。契約からの逸脱が必要な場合は、アーキテクチャ委員会は、当該拠点向けにアーキテクチャ契約書の変更を許可する必要があります。そのような場合、アーキテクチャ定義の変更を実施するために、新たなアーキテクチャ作業依頼書を発行する必要があります。
正解: **(**正解を表示します**)**
The Chief Engineer is concerned that implementation across multiple plants and mixed teams (internal + contractors) may be inconsistent and of poor quality.

The question asks: How should Architecture Contracts be used to address this concern according to the TOGAF standard?
TOGAF states that an Architecture Contract must:
Define obligations of both architecture and implementation organizations Specify metrics, measures, acceptance criteria, and success factors Identify risks and mitigation Support Architecture Governance through compliance reviews Apply to BOTH internal teams and external suppliers (external contracts must be legally enforceable)
Option C is the only one that correctly reflects these TOGAF requirements.
Why Option C is correct
1. Architecture Contracts must specify goals, measures, acceptance terms, and risks TOGAF explicitly states that Architecture Contracts should include:
Statement of Architecture Work
Performance metrics and measures
Acceptance criteria
Risks and issues
Compliance and conformance requirements
Option C includes all of these.
2. Third-party contracts must be legally enforceable
True - TOGAF states that when external suppliers are involved, Architecture Contracts often take the form of legally binding contracts.
Option C:
"Third-party contracts must be legally enforceable."
Correct.
3. Compliance reviews must be scheduled
TOGAF's Architecture Governance Framework prescribes scheduled Architecture Compliance Reviews to ensure that implementation conforms to the Architecture Contract.
Option C:
"establish a schedule of compliance reviews at key points"
Correct - this directly addresses the Chief Engineer's concern about consistency and quality.
4. Deviations must be reviewed by the Architecture Board and any dispensations should be time-bound TOGAF allows dispensations but requires:
Formal review
Approval by the Architecture Board
Time-bound accommodations rather than permanent exceptions
Option C includes exactly this guidance.

質問**: 6**
シナリオ
あなたは大手製造会社でエンタープライズアーキテクトとして働いています。その会社は世界中に複数の事業部を展開しています。
最近の調査結果を受け、経営陣は、複数のデータセンターの存在とアプリケーションの重複が業務効率に与える影響を懸念しています。この懸念に対処するため、戦略的なアーキテクチャが策定されました。このアーキテクチャ

は、顧客ニーズへの対応能力の向上と業務効率の改善に役立ちます。戦略的なアーキテクチャでは、現在異なる部門で使用されている複数のアプリケーションプログラムを統合し、すべてクラウドベースのソリューションに移行します。
各部門は、それぞれの具体的な運用要件を満たすためのアーキテクチャ定義文書を作成しました。エンタープライズアーキテクトは、企業全体の変更点と実装上の制約を分析しました。
包括的なギャップ分析が完了しました。その結果に基づき、アーキテクトはクラウドベースのソリューションを統合するために必要な要件、依存関係、および相互運用性の要件を見直しました。
アーキテクトチームは、ビジネス変革準備状況評価を完了しました。これらの要素すべてに基づいて、リスク評価を作成しました。また、実装および移行計画案、アーキテクチャロードマップ案、および能力評価成果物も完成させました。
現状の環境から変更することに伴うリスクを考慮し、目標とするアーキテクチャの導入には段階的なアプローチが必要であるとの判断に至りました。導入プロセス全体が完了するには、数年かかる見込みです。
同社は成熟したエンタープライズアーキテクチャ(EA)の実践体制を有しており、アーキテクチャ開発手法としてTOGAF標準を採用しています。EAの実践は全事業部門に浸透しており、各事業部門が実装ガバナンスを担当しています。EAプログラムは、事業計画、プロジェクト／ポートフォリオ管理、運用管理などのアーキテクチャフレームワークの活用に関するガイダンスを提供するだけでなく、最高情報責任者(CIO)が主導しています。
あなたは、移行計画における次のステップを決定するよう求められています。
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. プロジェクトの目標設定や最終要件の文書化を含むアーキテクチャ定義文書を更新します。これにより、アーキテクチャが企業のニーズに適切かつ迅速に対応できるようになります。次に、実装および移行計画を最終決定する前に、得られた教訓を管理するための実装ガバナンスモデルを作成します。得られた教訓は、レビューなしでアーキテクチャの変更として適用することを推奨します。
B. 契約に従ってアーキテクチャが実装されていることを確認するために、一連のコンプライアンス評価を実施します。コンプライアンス評価では、実装チームが適切な開発手法を使用していることを検証します。これには、監視ツールの導入と、パフォーマンス目標が達成されているかどうかの確認が含まれます。目標が達成されていない場合は、パフォーマンス要件の変更点を特定し、実装および移行計画を更新します。
C. 実装および移行計画が組織内で使用されている他のフレームワークにどのような影響を与えるかを検討します。事業計画、プロジェクト／ポートフォリオ管理、および運用管理のフレームワークと連携して計画を策定します。利用可能なリソースと戦略との整合性を考慮し、各プロジェクトにビジネス価値を割り当てます。その後、アーキテクチャロードマップと実装および移行計画を更新します。
D. ビジネス価値評価手法を適用して、各プロジェクトのビジネス価値を評価します。評価は、投資収益率とパフォーマンス評価基準に焦点を当て、アーキテクチャ変革の進捗が最も速いものを優先する必要があります。アーキテクチャ定義増分表を使用して、一連の移行アーキテクチャフェーズを確認し、計画します。得られた教訓を文書化し、最終的な実装および移行計画を作成します。
正解: **(**正解を表示します**)**
Context of the Scenario
The organization is currently in the Migration Planning phase, which corresponds to Phase F of the TOGAF ADM (Architecture Development Method). The key activities for this phase involve:
Evaluating dependencies and impacts on other organizational frameworks.

Aligning the roadmap and migration plan with strategic objectives and available resources.
Addressing the risks of transitioning from the current architecture to the target architecture using a phased approach.
The deliverables (Architecture Roadmap, Capability Assessment, etc.) and assessments (Gap Analysis, Risk Assessment, Transformation Readiness) have already been developed. The next step is to refine and finalize the migration planning.
Option Analysis
Option A:
While updating the Architecture Definition Document could ensure alignment, this step was completed in earlier phases (B, C, D). At this stage, further changes to the architecture must go through a formal governance review, and applying lessons learned without review contradicts TOGAF principles.
Producing an Implementation Governance Model is more relevant in Phase G (Implementation Governance), not in Phase F.
Conclusion: Incorrect, as it suggests revisiting earlier steps and does not align with the current phase.
Option B:
Conducting Compliance Assessments ensures the architecture is implemented correctly, but this is a task for Phase G (Implementation Governance) after migration planning has been finalized and implementation begins.
Deployment of monitoring tools is also part of implementation and governance activities, not migration planning.
Conclusion: Incorrect, as it focuses on tasks belonging to a later phase.
Option C:
Examining how the Implementation and Migration Plan affects other organizational frameworks is critical in Phase F, as TOGAF emphasizes alignment with business planning, project/portfolio management, and operations management.
Assigning business value to each project ensures prioritization and optimal allocation of resources.
Updating the Architecture Roadmap and the Implementation and Migration Plan based on this analysis ensures strategic alignment and readiness for implementation.
Conclusion: Correct, as it addresses the key objectives of the Migration Planning phase comprehensively.
Option D:
Applying the Business Value Assessment Technique is valid for prioritizing initiatives but is a limited aspect of Migration Planning.
Planning Transition Architecture phases and documenting lessons learned are valid, but this does not address broader organizational impacts or dependencies as effectively as Option C.
Conclusion: Narrow focus; less comprehensive than Option C.
References to TOGAF
Phase F (Migration Planning): The focus is on aligning the migration plan with business objectives, considering organizational dependencies, and prioritizing projects (TOGAF 9.2, Chapter 12).
Architecture Roadmap and Implementation Plan: Updated to reflect changes in priorities and alignment with business frameworks (TOGAF 9.2, Section 12.4).
Framework Integration: Collaboration with other frameworks (e.g., business planning, portfolio management) ensures alignment across the organization (TOGAF 9.2, Section 6.5.2).

Business Value Assessment Technique: Used to prioritize initiatives based on return on investment and performance criteria (TOGAF 9.2, Section 24.4).

質問**: 7**
この成果物は、多くの場合、予備段階の成果物として作成されます。また、承認されたアーキテクチャ変更要求に基づいて作成される場合もあります。
この成果物は何ですか？
A. 建築ビジョン
B. 要求事項影響評価
C. 建築設計に関する声明
D. 建築設計依頼
正解**: (**正解を表示します**)**
Comprehensive and Detailed In-Depth Explanation from Expert in Enterprise Architecture, guiding in TOGAF and ArchiMate:
The Statement of Architecture Work is a key governance and control document in TOGAF. It defines:
Scope of the architecture work
Constraints and assumptions
Deliverables and milestones
Roles, responsibilities, and acceptance criteria
Governance and approval mechanisms
Why Option C is correct:
The Statement of Architecture Work is most commonly produced in the Preliminary Phase to formally define how architecture work will be conducted once the Architecture Capability is established.
It may also be re-created or updated following an approved Architecture Change Request, ensuring controlled continuation or re-initiation of architecture activities.
Why the other options are incorrect:
A). Architecture Vision: This is produced in Phase A, not the Preliminary Phase.
B). Requirements Impact Assessment: This is associated with change management and requirements handling, not a standard Preliminary Phase output.
D). Request for Architecture Work: This is typically an input to Phase A, not a primary output of the Preliminary Phase.
Authoritative TOGAF References:
TOGAF Architecture Capability Framework
TOGAF ADM - Preliminary Phase
TOGAF Architecture Governance

質問**: 8**
TOGAF ADMのフェーズAの目的は次のうちどれですか？
A. 主要な利害関係者の特定
B. 企業戦略の策定
C. 対象アーキテクチャの説明

D. エンタープライズアーキテクチャ機能の開発
正解**: (**正解を表示します**)**
Phase A: Architecture Vision identifies stakeholders, their concerns, and defines the scope and objectives of the architecture engagement.
Defining enterprise strategy is outside ADM (it is a business planning activity).
Describing the target architecture happens in Phases B, C, and D.
Developing an EA Capability is done in the Preliminary Phase, not Phase A.
Reference: TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: ADM, Phase A.

質問**: 9**
ADM(アプリケーション開発管理)のすべての段階に共通して存在し、変革の取り組みを開始する前に特定、分類、軽減すべきものは何でしょうか？
A. 予算上の制約
B. リスク
C. スケジュール上の制約
D. 情報ギャップ
正解**: (**正解を表示します**)**
According to the TOGAF Standard, 10th Edition, risk is present in all phases within the Architecture Development Method (ADM), and it should be identified, classified, and mitigated before starting a transformation effort 1. Risk is defined as "the effect of uncertainty on objectives" 2, and it can have positive or negative impacts on the architecture project. Risk management is a technique that helps to assess and address the potential risks that may affect the achievement of the architecture objectives, and to balance the trade-offs between opportunities and threats. Risk management is applied throughout the ADM cycle, from the Preliminary Phase to the Requirements Management Phase, and it is integrated with other techniques, such as stakeholder management, business transformation readiness assessment, gap analysis, and migration planning 1. The other options are not correct, as they are not present in all phases within the ADM, and they are not necessarily identified, classified, and mitigated before starting a transformation effort. Budgetary constraints are the limitations on the financial resources available for the architecture project, and they are usually considered in Phase E: Opportunities and Solutions, and Phase F: Migration Planning 3. Schedule constraints are the limitations on the time available for the architecture project, and they are also usually considered in Phase E and F 3. Information gaps are the missing or incomplete data or knowledge that may affect the architecture project, and they are usually identified in Phase B: Business Architecture, Phase C:
Information Systems Architecture, and Phase D: Technology Architecture . References: 1: TOGAF Standard, 10th Edition, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 32: Risk Management. 2: TOGAF Standard, 10th Edition, Part I: Introduction, Chapter 3: Definitions. 3: TOGAF Standard, 10th Edition, Part II: Architecture Development Method, Chapter 16: Phase E: Opportunities and Solutions, and Chapter 17: Phase F: Migration Planning. : TOGAF Standard, 10th Edition, Part II: Architecture Development Method, Chapter 13: Phase B: Business Architecture, Chapter 14: Phase C: Information Systems Architecture, and Chapter 15: Phase D: Technology Architecture.

質問**: 10**

次の記述について考えてみましょう。
TOGAF標準によれば、特定の成果物に対する統制されたアプローチは、すべてのアーキテクチャ関連活動の整合性、変更、意思決定、監査をチェックするための継続的な監視システムを保証します。どの成果物について言及しているのでしょうか？
A. 建築契約書
B. アーキテクチャ定義文書
C. 建築ビジョン
D. 建築作品に関する声明
正解: **(**正解を表示します**)**
An Architecture Contract is a deliverable that specifies the responsibilities and obligations of the parties involved in the implementation and governance of an architecture. It ensures a system of continuous monitoring to check integrity changes decision-making and audit of all architecture-related activities.
Reference: The TOGAF Standard | The Open Group Website, Section 3.3.4 Architecture Contracts.

質問: **11**
あなたは、ヘルスケアおよびライフサイエンス企業において、エンタープライズアーキテクチャ(EA)チームのエンタープライズアーキテクトとして勤務しています。EAチームは、研究者が組織内および外部パートナーと臨床試験情報を容易に共有できる安全なシステムを開発しています。
情報の機密性が非常に高いため、各アーキテクチャ領域においてプライバシーと安全性に関する懸念事項を考慮する必要があります。医療部門には、新システムを段階的に導入するにあたり、臨床試験への影響を最小限に抑えるよう指示が出されています。
新しいシステムを導入するための作業パッケージをどのように特定しますか？TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最適な回答でしょうか？
A. 統合ギャップ、ソリューション、依存関係マトリックスを使用して作業パッケージを作成し、それらを能力増分に順序付けます。移行アーキテクチャ状態進化表に文書化します。
B. 開発または調達のためのソリューション構成要素を特定し、CRUDマトリックスを使用して最も費用対効果の高い作業パッケージをランク付けして選択します。地域ごとに順次展開するスケジュールを立てます。
C. 統合ギャップ、ソリューション、依存関係マトリックスを使用して各ソリューションを分類し、作業パッケージにグループ化し、その後、機能増分に再グループ化します。アーキテクチャ定義増分表に文書化します。
D. 実施要因カタログを作成し、アクションと制約事項を示します。統合ギャップ、ソリューション、依存関係マトリックスを使用して、類似のアクティビティをワークパッケージにグループ化し、依存関係を特定します。
正解: **(**正解を表示します**)**
In the TOGAF framework, understanding and addressing stakeholder concerns is crucial, particularly for complex projects with high stakes like the AI-first initiative described in the scenario. This approach aligns well with TOGAF's ADM (Architecture Development Method) and its emphasis on effective stakeholder management and risk assessment. Here's why this is the best course of action:
Stakeholder Analysis and Documentation:Conducting a stakeholder analysis is foundational in the early stages of any TOGAF project, particularly during the Preliminary and Architecture Vision phases. This process involves identifying the different stakeholders, understanding their positions, documenting their concerns, and considering any cultural factors that might influence their perspective on the AI-first initiative.

Given the diverse concerns raised (such as job security, skill requirements, and cybersecurity), it's essential to have a clear understanding of each stakeholder group's priorities and fears.
Recording Concerns in the Architecture Vision Document:The Architecture Vision phase in TOGAF focuses on defining the high-level scope and objectives of the architecture project. By documenting stakeholder concerns and the corresponding views in the Architecture Vision document, the EA team ensures that these concerns are transparently acknowledged and addressed as part of the strategic direction. This step not only aligns with TOGAF best practices but also helps in building stakeholder buy-in and trust.
Architecture Requirements Specification and Risk Management:Risk management is a key aspect of TOGAF' s ADM, particularly in the Requirements Management and Implementation Governance phases. Documenting the requirements for addressing specific risks in the Architecture Requirements Specification provides a structured way to ensure that identified risks are acknowledged and managed throughout the transformation.
Regular assessments and feedback loops ensure ongoing alignment and adaptability to emerging risks, which is particularly important given the dynamic nature of AI and its associated challenges.
Alignment with TOGAF ADM Phases:This approach follows the prescribed flow of TOGAF's ADM, starting with stakeholder engagement in the Preliminary and Architecture Vision phases and progressing to risk assessment in the Requirements Management phase. By maintaining afocus on stakeholder needs and formalizing these into architecture requirements, the EA team can ensure that the architecture not only meets business objectives but also mitigates stakeholder concerns.
TOGAF Reference on Stakeholder Management Techniques:TOGAF places significant emphasis on managing stakeholder concerns through its stakeholder management techniques, which highlight the need to systematically identify, analyze, and address the concerns of all involved parties. This practice helps ensure that the architecture is viable and accepted across the organization.
By conducting a thorough stakeholder analysis and integrating the findings into both the Architecture Vision and the Architecture Requirements Specification, the EA team can proactively address stakeholder concerns, manage risks, and align the AI-first initiative with the agency's strategic objectives. This approach is consistent with TOGAF's guidance and provides a structured framework for addressing both business and technical challenges in the context of an AI-first transformation.

質問**: 12**
以下の記述を検討してください。
* TOGAF ADMでは、アーキテクチャ開発のためのパーティショニングモデルが必要です。
アーキテクチャは、異なるチームが同時にアーキテクチャの異なる要素に取り組む必要がある場合に分割されます。
パーティションはアーキテクチャの再利用を容易にするために使用できます。
アーキテクチャ分割に関する記述のうち、正しいものはどれですか？
A. 1と2
B. 1、2、3
C. 1と3
D. 2と3
正解**: (**正解を表示します**)**

Comprehensive and Detailed In-Depth Explanation from Expert in Enterprise Architecture, guiding in TOGAF and ArchiMate:
Architecture Partitioning is a technique supported by TOGAF to manage complexity and scale, especially in large enterprises.
Correct statements:
Statement 2 is correct: Partitioning enables parallel work by multiple teams on different parts of the architecture.
Statement 3 is correct: Partitioning supports architecture re-use by isolating common or shared components.
Why Statement 1 is incorrect:
TOGAF does not mandate a partitioning model. It supports and recommends partitioning where appropriate, but it is not a required element of the ADM.

質問**: 13**
以下のうち、エンタープライズアーキテクチャを統制する必要性を示すものはどれですか？
A. アーキテクチャプロジェクトは、対象アーキテクチャのガバナンスを義務付けています。
B. TOGAF標準は経営陣のガバナンスなしには使用できません
C. ベストプラクティスに基づくガバナンスにより、組織は価値実現を管理できるようになる。
D. ステークホルダーの要望は、アーキテクチャプロジェクトの範囲やニーズの制御範囲を超える可能性があります。
正解**: C (**コメントを発表する**)**
This statement best supports the need to govern Enterprise Architecture. Best practice governance enables the organization to control value realization by ensuring that architectures are aligned with the enterprise's strategy and objectives, meet the quality and performance requirements, and deliver the expected benefits and outcomes. The Architecture Project does not mandate the governance of the target architecture, but rather follows the governance framework established by the enterprise. The TOGAF standard can be used without executive governance, but it is recommended that executive sponsorship and support are obtained for successful architecture development and transition. The Stakeholders preferences may go beyond the architecture project scope and need control, but this is not the primary reason for governing Enterprise Architecture. Reference: The TOGAF Standard | The Open Group Website, Section 3.3.6 Architecture Governance.

質問**: 14**
次の記述について考えてみましょう。
個別のプロジェクトは、それぞれ独自の ADM サイクルを同時に実行することができ、異なるプロジェクト間には関係性があります。これは何を示しているのでしょうか？
A. 実施ガバナンス
B. エンタープライズアーキテクチャ
C. 反復
D. 要求事項管理
正解**: C (**コメントを発表する**)**
The statement illustrates iteration and the ADM. Iteration is the technique of repeating a process or a phase with the aim of improving or refining the outcome. Iteration allows for feedback loops and adaptations at any point in the

architecture development and transition process. Separate projects may operate their own ADM cycles concurrently, with relationships between the different projects, to address different aspects or levels of the architecture in an iterative manner. Reference: The TOGAF Standard | The Open Group Website, Section 3.1 Introduction to the ADM.

質問**: 15**
アーキテクチャの範囲を検討する際に、どの側面が、アーキテクチャ設計作業をどの程度の詳細レベルまで進めるべきかを判断する基準となるのでしょうか？
A. プロジェクト
B. 幅
C. 深度
D. アーキテクチャドメイン
正解**: (**正解を表示します**)**
The scope of an architecture is the extent and level of detail of the architecture work. The scope of an architecture can be defined along four dimensions: project, breadth, depth, and architecture domains. The project dimension considers the boundaries and objectives of the architecture project, such as the time frame, budget, resources, and deliverables. The breadth dimension considers the coverage and completeness of the architecture across the enterprise, such as the organizational units, business functions, processes, and locations. The depth dimension considers the level of detail and specificity of the architecture, such as the granularity, abstraction, and precision of the architectural elements and relationships. The architecture domains dimension considers the aspects or segments of the architecture, such as the business, data, application, and technology domains.
Therefore, the depth dimension is the one that considers to what level of detail the architecting effort should go.
The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 25: Architecture Scope :
The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 25.2: Scope Dimensions :
The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 25.2.1:
Project, Breadth, Depth, and Architecture Domains

質問**: 16**
質問全文：
アーキテクチャガバナンスの実践に含まれる項目は次のうちどれですか？
A. 利害関係者、彼らの懸念、および要求を管理する。
B. ADMサイクル全体を通して、アーキテクチャ作業記述書を作成および維持する。
C. エンタープライズアーキテクチャに関してCxOレベルと連携する。
D. 基準および規制上の義務の遵守を確保する。
正解**: D (**コメントを発表する**)**
Architecture Governance in TOGAF is the practice of directing and controlling architecture work so that it remains aligned with enterprise standards, principles, policies, and regulatory obligations. One of its major purposes is to ensure that architecture development and implementation comply with approved standards and required controls. This includes architecture compliance reviews, governance checkpoints, dispensations, and monitoring conformance to agreed architecture contracts and principles.

Option D is therefore the best answer because it directly describes a governance responsibility: ensuring compliance with standards and regulatory obligations. This is central to Architecture Governance.
Option A is related to stakeholder management, which is important in architecture development, but it is not the core governance practice being asked for. Option B is incorrect because the Statement of Architecture Work is a project-related deliverable, not something maintained as the main function of Architecture Governance throughout the ADM. Option C may occur in executive engagement but does not define governance practice.
Therefore, the correct answer is D .

有効的な**OGEA-103-JPN**問題集はJPNTest.com提供され、**OGEA-103-JPN**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**OGEA-103-JPN**試験問題集を提供します。JPNTest.com OGEA-103-JPN試験問題集はもう更新されました。ここで**OGEA-103-JPN**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、https://www.jpntest.com/shiken/OGEA-103-JPN-mondaishu **199**問、３０%ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: **17**
質問に答える前に、このシナリオをお読みください。
あなたは、大手多国籍バイオテクノロジー企業において、エンタープライズアーキテクチャチームのリードアーキテクトを務めています。同社は、ヘルスケア、作物生産、農業という3つの主要産業分野で事業を展開しており、あなたのチームはヘルスケア部門に所属しています。
ヘルスケア部門は新しいワクチンを開発しており、関連する保健当局の規制要件を満たす一連の臨床試験において、その有効性と安全性を実証する必要があります。臨床試験は、世界各地にある複数の施設で、同社の研究室によって実施されています。ヘルスケア部門は、社内での研究開発活動に加え、産業界や学術界のパートナーと共同で、公的資金による共同研究プロジェクトにも携わっています。
エンタープライズアーキテクチャチームは、医療研究者が臨床試験に関する情報をより容易に共有し、組織内およびパートナー企業との連携を強化できる安全なシステムを開発するためのアーキテクチャプロジェクトに取り組んでいます。このシステムは、外部パートナーとも接続されます。
エンタープライズアーキテクチャチームは、医療製造および検査業務をサポートするために必要な拡張機能を備えたTOGAF ADMを使用しています。管理する情報は非常に機密性が高いため、各アーキテクチャドメインにおいて、関連するセキュリティとプライバシーの問題が考慮されるよう、特別な配慮がなされています。
グローバル臨床研究担当副社長が、エンタープライズアーキテクチャ活動のスポンサーを務めています。
彼女は、臨床試験への支障を最小限に抑える必要があり、導入は段階的に行うべきだと述べている。
シナリオを参照してください
要件を満たす段階的な展開のための作業パッケージを特定するためのアプローチを提案するよう依頼されました。
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. 統合ギャップ、ソリューション、依存関係マトリックスからソリューション構築ブロックを作業パッケージのセットにグループ化することを推奨します。マトリックスを計画ツールとして使用し、依存関係を考慮して作業パッケージを再グループ化します。実装チームが混乱を最小限に抑えるために、一度に1つの地域ずつ展開をスケ

ジュールできるように、作業パッケージをターゲットアーキテクチャの実現に必要な機能増分に順序付けます。移行アーキテクチャ状態進化表を使用して、エンタープライズアーキテクチャの作業パッケージを文書化します。
B. 作業パッケージを作成するための計画ツールとして、統合ギャップ、ソリューション、依存関係マトリックスの使用を推奨します。各ギャップについて、ソリューションが新規開発、購入ソリューション、または既存製品に基づくものかを分類します。類似のソリューションをグループ化して作業パッケージを定義します。臨床試験のスケジュールを考慮して、作業パッケージを機能増分のセットに再グループ化し、ターゲットアーキテクチャに移行し、アーキテクチャ定義増分表に文書化します。
C. アクションと制約を示すために、実装要因カタログを作成することを推奨します。
統合ギャップ、ソリューション、依存関係マトリックスも作成する必要があります。各ギャップについて。
提案されたソリューションを特定し、新規開発、購入ソリューション、または既存製品に基づくソリューションとして分類します。類似のアクティビティをグループ化してワークパッケージを作成します。臨床試験スケジュールを考慮して、ワークパッケージ間の依存関係を特定します。ワークパッケージを再グループ化して、一連の機能増分を作成し、それを一連の移行アーキテクチャにスケジュールします。
D. 必要なソリューション構成要素のセットは、開発が必要なものと調達が必要なものを特定することによって決定することを推奨します。重複するものはすべて削除します。残りのソリューション構成要素をグループ化し、CRUD(作成、読み取り、更新、削除)マトリックスを使用して作業パッケージを作成します。作業パッケージに順位を付け、一連の移行アーキテクチャに含める最も費用対効果の高いオプションを選択します。作業パッケージの展開は、地理的な地域ごとに順次行うようにスケジュールします。
正解**: B (**コメントを発表する**)**
A Consolidated Gaps, Solutions and Dependencies Matrix is a technique that can be used to create work packages for an incremental rollout of the architecture. A work package is a set of actions or tasks that are required to implement a specific part of the architecture. A work packagecan be associated with one or more Architecture Building Blocks (ABBs) or Solution Building Blocks (SBBs), which are reusable components of business, IT, or architectural capability. A work package can also be associated with one or more Capability Increments, which are defined, discrete portions of the overall capability that deliver business value. A Capability Increment can be realized by one or more Transition Architectures, which are intermediate states of the architecture that enable the transition from the Baseline Architecture to the Target Architecture123 The steps for creating work packages using this technique are:
For each gap between the Baseline Architecture and the Target Architecture, identify a proposed solution and classify it as new development, purchased solution, or based on an existing product. A gap is a difference or deficiency in the current state of the architecture that needs to be addressed by the future state of the architecture. A solution is a way of resolving a gap by implementing one or more ABBs or SBBs.
Group similar solutions together to define the work packages. Similar solutions are those that have common characteristics, such as functionality, technology, vendor, or location.
Identify dependencies between work packages, such as logical, temporal, or resource dependencies. Dependencies indicate the order or priority of the work packages, and the constraints or risks that may affect their implementation.
Regroup the work packages into a set of Capability Increments to transition to the Target Architecture.

Capability Increments should be defined based on the business value, effort, and risk associated with each work package, and the schedule and objectives of the clinical trials. Capability Increments should also be aligned with the Architecture Vision and the Architecture Principles.
Document the work packages and the Capability Increments in an Architecture Definition Increments Table, which shows the mapping between the work packages, the ABBs, the SBBs, and the Capability Increments.
The table also shows the dependencies, assumptions, and issues related to each work package and Capability Increment.
Therefore, the best answer is B, because it describes the approach to identify the work packages for an incremental rollout meeting the requirements, using the Consolidated Gaps, Solutions and Dependencies Matrix as a planning tool.
1: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 30: Gap Analysis 2: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part IV: Architecture Content Framework, Chapter 36:
Building Blocks 3: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 31: Architecture Change Management : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: Architecture Development Method (ADM), Chapter 23: Phase E: Opportunities and Solutions : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: Architecture Development Method (ADM), Chapter 21: Phase F: Migration Planning :
The TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: Architecture Development Method (ADM), Chapter 18: Phase A: Architecture Vision : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 23: Architecture Principles

質問: 18
質問全文：
アーキテクチャ分割に関する以下の記述のうち、正しいものはどれですか？
* これは建築レベルのことに相当する。
* これにより、異なる建築家グループが建築物の特定の部分を所有し、開発することが可能になります。
* これは、一般的に適用可能なパーティショニングモデルに従って実装されています。
* エンタープライズアーキテクチャの管理を簡素化するために使用されます。
A. 2 & 4
B. 2 & 3
C. 1 & 4
D. 1 & 3
正解: **(正解を表示します)**
Architecture Partitioning is used in TOGAF to divide a large Enterprise Architecture into manageable sections. It enables different architecture teams to take ownership of different partitions while maintaining consistency across the enterprise. This directly supports statement 2 .
Partitioning also simplifies governance, development, maintenance, and management of complex Enterprise Architectures, making statement 4 correct.
Statement 1 is incorrect because architecture partitioning is not equivalent to architecture levels. Statement 3 is incorrect because TOGAF does not prescribe a single universally applicable partitioning model; organizations tailor partitioning to their own needs.

Therefore, the correct combination is 2 & 4 , making Option A correct.

質問: **19**
TOGAFコンテンツフレームワークの主な目的を最もよく表しているのは、次のうちどれですか？
A. 企業に関連するITシステムの懸念事項に対処する。
B. アーキテクチャリポジトリで識別された成果物を保存する。
C. ADMに従う際に、出力の一貫性を確保する。
D. 目標アーキテクチャの成果物セットに欠落が生じないようにする。
正解: **(**正解を表示します**)**
The TOGAF Content Framework exists to give a detailed model of architectural work products-including deliverables, the artifacts within them, and the architectural building blocks those artifacts represent. The fundamental intent of embedding a Content Framework in TOGAF is to drive greater consistency in the outputs produced when following the Architecture Development Method (ADM). That means regardless of who is doing the architecture work, or in which phase of ADM, the types of outputs, their structure, classification (deliverable # artifact # building block), naming, and relationships remain consistent across the organisation. This structured model ensures that architecture work is systematic, standardised, and comparable across different projects or cycles. It is not primarily a mechanism for storage (that's the role of the repository), nor is it only about addressing IT concerns or preventing gaps - its primary purpose is standardising architecture outputs to support clear communication, reuse, and governance across the enterprise

質問: **20**
シナリオ
あなたは、消費財を販売するグローバル企業のエンタープライズアーキテクチャ(EA)チームで、エンタープライズアーキテクトとして働いています。この企業は、消費者が使用し、楽しむ多くの製品を製造しています。
同社は、今後4年間かけて実施する製品の大幅な変更を発表しました。この変更には、デジタル製品およびサービスの導入が含まれます。この戦略を支えるアーキテクチャが完成し、この重要な変更を実現するための一連のプロジェクトのロードマップも策定されました。これは、製品設計チームとソフトウェアチーム間の部門横断的な取り組みとなります。開発は段階的に進められる予定です。
同社は、製品やデジタルプラットフォームを通じて様々なサービスを提供し、アクセスを可能にする一方で、データプライバシー法を遵守するという課題に直面している。一部の国や地域では、データ所在地の要件により、企業は収集した特定のデータをその地域内に保存する必要がある。そのため、同社のアプリケーションポートフォリオとインフラストラクチャは、様々な国のクラウドサービスやデータリポジトリと連携する必要がある。
EAチームは、既存製品で使用されているアーキテクチャを引き継いでおり、その一部は新製品にも引き継ぐことができます。EAチームは、引き継ぐアーキテクチャの構成要素の定義を開始しました。ビジネスアーキテクチャは十分に定義されたため、情報システムアーキテクチャとテクノロジーアーキテクチャの策定に着手できます。これらのアーキテクチャは、会社が提供を計画している主要なデジタルサービスをサポートするために定義する必要があります。
同社は、エンタープライズアーキテクチャフレームワークの基盤としてTOGAF標準を採用しており、アーキテクチャ開発は、TOGAF ADMに準拠したエンタープライズアーキテクチャ開発のための実践的アプローチを解説した

TOGAFシリーズガイドに記載されている目的ベースのEA機能モデルに従っています。EAチームは、プログラムを統括する最高情報責任者(CIO)に報告します。
あなたは、要求されたアーキテクチャを実現するための作業をどのように決定し、組織化するかを問われています。
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. 上位アーキテクチャを参考にします。特定されたプロジェクト、それらの依存関係、および相乗効果を検討し、プロジェクトの開始順序を決定します。高レベルのアーキテクチャ記述を作成します。各プロジェクトについて、必要な作業量を決定し、参照アーキテクチャと候補となる構成要素を特定します。コストと価値を考慮して、必要なリソースを特定します。さまざまなオプション、リスク、およびそれらを制御する方法を文書化し、実現可能性分析とステークホルダーとのトレードオフを可能にします。
B. 社外に目を向け、他社がデータモデルやアプリケーションポートフォリオをどのように構成しているかを調査します。アプリケーション、データ、テクノロジーアーキテクチャについて、さまざまな選択肢を特定できるだけのアーキテクチャ記述を作成します。各プロジェクトについて、候補となるアーキテクチャとソリューションの構成要素を特定します。次に、ソリューションプロバイダーを特定し、準備状況評価を実施し、ソリューションオプションの実現可能性と適合性を評価します。最後に、実装および移行計画の草案を作成します。
C. 主要なデータ企業を調査し、その調査結果を基に、高レベルのターゲットデータ、アプリケーション、およびテクノロジーアーキテクチャの開発を支援します。アーキテクチャビジョンをレビューし、各プロジェクトに必要なADMサイクルフェーズの詳細度、時間、および範囲を決定します。主要なリソースを特定し、コストを見積もります。次に、アーキテクチャロードマップを作成し、アーキテクチャ委員会にロードマップのレビューを依頼します。その後、プロジェクトを開始します。
D. ADMフェーズAの反復を開始し、ステークホルダーを特定してアーキテクチャビジョンを改訂します。ステークホルダー分析を実施し、ステークホルダーマップを更新します。ワークショップやインタビューを実施し、デジタル製品およびサービスの主要な推進役となっているステークホルダーを反映させます。CIOと連携して全体的なロードマップとの整合性を確保し、実装および移行計画をそれに応じて更新します。
正解**: (**正解を表示します**)**
Comprehensive and Detailed Step-by-Step Explanation
Context of the Scenario
The company is in the process of delivering requested architectures to support the introduction of digital products and services. The Business Architecture is sufficiently defined, and the focus is on developing the Information Systems and Technology Architectures.
TOGAF emphasizes breaking down large, complex transformation programs into manageable projects, focusing on dependencies, risks, trade-offs, and sequencing of efforts. Based on the scenario, the company must deal with:
Data privacy and residency compliance across different regions.
Re-use of existing architecture for efficiency.
Alignment of digital services with a global roadmap.
The activity described aligns with ADM Phases B (Business Architecture), C (Information Systems Architecture), and D (Technology Architecture), with a focus on delivering architectures for implementation.
Option Analysis
Option A:
Strengths:

Refers to developing high-level architecture descriptions and identifying reference architectures and candidate building blocks, which align with ADM Phases B, C, and D.
Addresses feasibility analysis, trade-offs, and stakeholder engagement, which are part of architecture development and decision-making in TOGAF.
Ensures that the architecture descriptions are resource-conscious, including cost and value analysis, dependencies, risks, and synergies between projects.
Conclusion: Correct, as it provides a complete approach to organizing the work to deliver architectures while adhering to TOGAF principles.
Option B:
Strengths:
Suggests creating architecture descriptions for the Application, Data, and Technology Architectures, which are necessary for delivering requested architectures.
Addresses readiness assessments and the fitness of solutions.
Weaknesses:
Emphasizes looking outside the company and studying other companies' models, which is not necessarily aligned with TOGAF unless justified by specific gaps.
Skips essential TOGAF steps like feasibility analysis and detailed stakeholder engagement.
Conclusion: Incorrect, as it places undue emphasis on external research instead of leveraging TOGAF's structured ADM.
Option C:
Strengths:
Suggests reviewing the Architecture Vision and determining scope, which aligns with TOGAF principles.
Proposes preparing an Architecture Roadmap and involving the Architecture Board for review.
Weaknesses:
Does not cover important elements such as candidate building blocks, feasibility analysis, or stakeholder engagement.
Suggests starting the project prematurely without proper sequencing or risk trade-offs.
Conclusion: Incorrect, as it skips key steps and lacks a structured approach to dependencies and resource management.
Option D:
Strengths:
Suggests revising the Architecture Vision and conducting a Stakeholder Analysis, which aligns with Phase A of the ADM.
Weaknesses:
Returning to Phase A is not required here, as the Architecture Vision has already been defined. Revising the vision at this stage indicates a step backward.
Lacks focus on feasibility analysis, dependencies, and sequencing, which are the immediate needs in this phase.
Conclusion: Incorrect, as it unnecessarily revisits earlier ADM phases instead of progressing.
TOGAF References
ADM Phases B, C, D: Emphasizes developing detailed architectures, identifying candidate building blocks, and addressing dependencies, risks, and resource needs (TOGAF 9.2, Chapters 8-10).

Architecture Roadmap and Feasibility Analysis: Guides sequencing and trade-offs for implementation (TOGAF 9.2, Section 12.4).
Stakeholder Engagement: Critical for ensuring alignment and feasibility (TOGAF 9.2, Section 24.2).
Decision-Making and Trade-offs: TOGAF emphasizes documenting risks and trade-offs as part of feasibility analysis (TOGAF 9.2, Section 6.4.1).

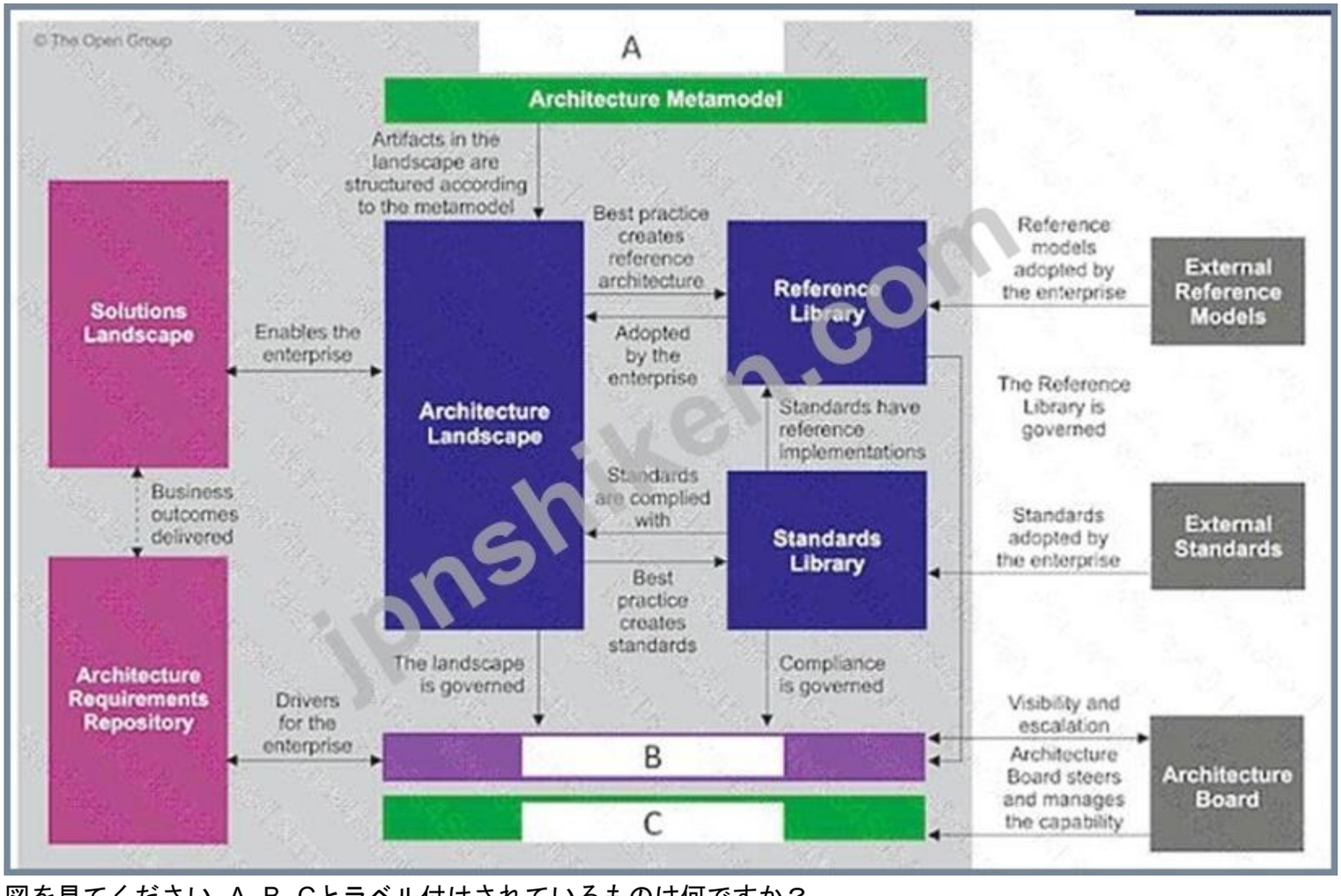
質問**: 21**
完全なシナリオ
あなたは、エンドユーザー市場を対象とした製品を開発 販売する企業で、エンタープライズアーキテクトとして勤務しています。これらの製品は、世界中の小売店を通じて販売されています。
あなたはエンタープライズアーキテクチャ(EA)チームの一員として、EAチームリーダーに報告します。当社のエンタープライズアーキテクチャ部門は、最高技術責任者(CTO)がスポンサーとなっています。EAチームは長年にわたり順調に運営されており、TOGAF標準に基づいたプロセスを確立しています。EAチームの責任範囲には、製品開発プロセスと顧客体験のアーキテクチャ設計が含まれます。
同社はアジャイル製品管理手法とアジャイル開発手法を採用しています。EAチームは製品管理チームと連携し、アジャイル開発チームを支援 促進します。
同社は現在、デジタル変革の真っ只中にあり、製品ラインナップを物理的な製品からデジタル製品やデジタルサービスへと拡大していく予定です。これには、各製品ラインが既存の物理製品に関連した消費者向けデジタル製品およびサービスを直接提供するよう変更することが含まれます。
あなたはEAチームリーダーと協力して、デジタル変革プロジェクト全体の計画策定に取り組んでいます。あなたは、サードパーティプラットフォームを使用して消費者向けデジタル製品の新規開発を試験的に実施している特定の製品ラインを担当するよう依頼されました。このプロジェクトでは、アプリケーションアーキテクチャに焦点を当てた浅いアーキテクチャ開発イテレーションと、迅速かつ最小限の実装を含む、最小限実行可能アーキテクチャ(MVA)アプローチを採用しました。
顧客からの初期フィードバックでは、エンゲージメントが低く関心も限定的であることが示されており、新製品が顧客ニーズに合致していない可能性が示唆されています。データを見ると、製品が本来想定していたターゲット層に届いていないことが明らかであり、結果として収益目標の達成に至っていません。
質問：
顧客エンゲージメントの低さや収益目標未達に対処するために、どのように情報を収集しますか？
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. ADMフェーズBCの別のイテレーションを実行します。これには、ビジネス目標を達成するために製品アーキテクチャがどのように動作する必要があるか、そしてアプリケーションがビジネスと顧客のニーズをどのようにサポートするかについての記述をアーキテクチャ定義ドキュメントに作成することが含まれます。データアーキテクチャでは、プロダクトマネージャーが提起した懸念事項の分析に役立つデータ収集ツールを特定する必要があります。
B. ターゲットとなるビジネスアーキテクチャを見直し、提起された課題に対処するための新しいアーキテクチャモデルを開発します。新しいモデルでは、顧客グループ、顧客の関心事、顧客へのサービス提供にかかるコスト、およびそれによって得られる収益を特定する必要があります。バリューストリームマッピングを使用して、消費者直

販製品の顧客価値を理解します。また、ターゲットとなるビジネスアーキテクチャのさまざまな代替案を検討します。
C. まず、対象となるアプリケーションアーキテクチャを見直し、全体的なデジタル変革計画との整合性を高めます。詳細なプロジェクト説明と作業計画を含む新しいアーキテクチャ作業記述書を作成し、EAチームリーダーに提出してレビューを受けます。EAチームリーダーの承認が得られたら、ADMサイクル全体を実施し、提起された問題に対処するために必要なすべての情報を収集します。
D. ADMフェーズBのベースラインアーキテクチャをレビューし、顧客のニーズを満たし、ターゲットオーディエンスを引き付けるために、ターゲットアーキテクチャで見落とされている機能ギャップを特定します。ターゲットオーディエンスへの価値提案を高める代替案を調査し、リストを作成します。次に、代替案から候補となるロードマップコンポーネントを定義し、ジャストインタイム方式を使用して展開スケジュール案を作成します。
正解**: (**正解を表示します**)**
In TOGAF, when customer needs are unclear or misaligned with the existing architectural direction, the correct approach is to return to the Business Architecture. The Business Architecture phase (ADM Phase B) is responsible for understanding stakeholders, customer segments, business processes, value streams, motivations, and expected outcomes. Since the scenario identifies low engagement, poor adoption, and missed revenue targets, the breakdown is not in technology or application capabilities-it is a business misalignment.
Option B correctly focuses on revisiting and refining the target Business Architecture, including identifying customer groups, their interests, costs to serve them, and expected revenue streams. This aligns with TOGAF guidance that Business Architecture must define value propositions and customer value streams before other architecture domains can be effectively adjusted. The use of value stream mapping is entirely appropriate within Business Architecture development, as it provides a structured way to analyze customer value and identify what changes are necessary to meet business goals.
Options A and D prematurely focus on application or baseline gap analysis, which would not resolve a fundamental misunderstanding of customer needs. Option C expands into a full ADM cycle, which is unnecessary at this stage because the primary issue is misalignment, not architectural completeness.

質問**: 22**
文を完成させなさい。リスク管理には以下が含まれます: リスクの分類、特定、
A. 監査、評価
B. 報告、治療
C. 測定、応答
D. 評価、監視、緩和、
正解**: D (**コメントを発表する**)**
In TOGAF's treatment of risk within architecture governance and ADM Guidelines & Techniques, risk management is seen as a continuous process including several phases. First one classifies potential risk types.
Then one identifies specific risks. After identification comes assessment (evaluating likelihood and impact), monitoring (tracking over time), mitigation (taking actions to reduce the risk), and related response or treatment options to decide what to do with residual risk. That sequence-classification, identification, assessment, monitoring, mitigation, and response-completes the risk management life cycle. It does not stop at evaluation or reporting; it includes active monitoring, control, and reaction to risks over time.

質問: **23**
アーキテクチャガバナンス1に含まれる項目は次のうちどれですか？
A. 社内外の基準および規制上の義務の遵守を確保する
B. ADMサイクル全体を通して、アーキテクチャ作業に関する記述書を作成および維持する
C. 利害関係者とその要求事項の管理
D. エンタープライズアーキテクチャに関してCxOレベルと連携する
正解: **(正解を表示します)**
Ensuring compliance with internal and external standards and regulatory obligations is one of the activities included as part of Architecture Governance. Architecture Governance is the practice and orientation by which enterprise architectures and other architectures are managed and controlled at an enterprise-wide level.
It involves establishing processes, roles, responsibilities, policies, and standards to ensure that architectures are aligned with the enterprise's strategy and objectives, and meet the quality and performance requirements.
Reference: The TOGAF Standard | The Open Group Website, Section 3.3.6 Architecture Governance.

質問: **24**
展示する：



図を見てください。A、B、Cとラベル付けされているものは何ですか？

A. A-エンタープライズリポジトリ、B-ガバナンスリポジトリ、C-取締役会リポジトリ
B. A-アーキテクチャリポジトリ、B-ガバナンスリポジトリ、C-アーキテクチャ機能
C. A-アーキテクチャリポジトリ、B-統括委員会、C-エンタープライズ機能
D. A-エンタープライズリポジトリ、B-ボードリポジトリ、C-エンタープライズ機能
正解**: (**正解を表示します**)**
A-Architecture Repository: This is a part of the Architecture Metamodel that contains artifacts structured according to the metamodel. It includes the Architecture Landscape which is adopted by the enterprise and governed by certain standards and practices.
B-Governing Board: The Governing Board ensures visibility and escalation, meaning it oversees and manages the capability of the architecture landscape. It plays a crucial role in governance.
C-Enterprise Capability: This refers to how well an enterprise can execute its mission, meet business objectives or satisfy its stakeholders' needs and expectations. It's influenced by both internal factors (like resources, processes) and external ones (like market trends).
TOGAF Version 9.1, Chapter 34: 1

質問**: 25**
質問に答える前に、このシナリオをお読みください。
あなたは、大手自動車メーカーが独立した事業体として設立した企業の最高エンタープライズアーキテクト(CEA)に任命されました。CEAは最高技術責任者(CTO)直属の役職です。同社の使命は、電気自動車向けに業界をリードする新たな統合技術およびソフトウェアプラットフォームを構築することです。
同社は、エンタープライズアーキテクチャ(EA)フレームワークの基盤としてTOGAF標準を使用しており、アーキテクチャ開発は、TOGAF ADMに準拠したエンタープライズアーキテクチャ開発のための実践者向けTOGAFシリーズガイドに記載されている目的ベースのEA機能モデルに従っています。
エンドツーエンドのターゲットアーキテクチャが完成し、5年間の変更ロードマップも策定されました。
新しいプラットフォームは、ハードウェアチームとソフトウェアチームが連携して開発するもので、旧プラットフォームから大幅な変更が加えられます。開発は3年間かけて複数段階に分けて行われる予定です。EAチームは、前世代のハードウェアおよびソフトウェア自動車プラットフォームのアーキテクチャを継承しており、その一部は新しい統合プラットフォームにも引き継ぐことができます。EAチームは、アーキテクチャのどの部分を継承するかを含め、新しいプラットフォームの定義を開始しました。
ビジネスアーキテクチャの定義はほぼ完了したため、情報システムおよびテクノロジーアーキテクチャの策定に着手できます。これらは、同社が提供する予定の中核的なビジネスサービスを支えるために定義する必要があります。中核サービスでは、車両から生成される群データを用いた革新的なアプローチを採用し、将来の自動運転への道を開くことを目指します。
同社がプラットフォームを通じて提供を計画しているさまざまなデータの表示とアクセスは、アーキテクチャ上の課題となります。アプリケーションポートフォリオとそれを支えるインフラストラクチャは、既存のさまざまなクラウドサービスやデータと連携する必要があります。シナリオを参照してください。要求されたアーキテクチャを実現するための作業を決定し、整理するには、どのようなアプローチを取るべきか尋ねられました。
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. 企業外部に目を向け、大手ビッグデータ企業のデータモデルとアプリケーションポートフォリオを調査します。選択肢を特定するために、必要最低限のアプリケーション、データ、およびテクノロジーアーキテクチャを開発し

ます。各プロジェクトにおいて、候補となるアーキテクチャとソリューション構築ブロックを特定する必要があります。ソリューションプロバイダーを特定し、準備状況評価を実施し、ソリューションオプションの実現可能性と適合性を評価します。その後、実装および移行計画の草案を作成します。
B. エンドツーエンドのターゲットアーキテクチャを参照して、ガイダンスと方向性を確認してください。最初の目標は、プロジェクト、依存関係、および相乗効果を特定し、プロジェクトを開始する前に優先順位を付けることです。
高レベルのアーキテクチャ記述を作成します。各プロジェクトについて、必要な工数を見積もり、参照アーキテクチャと候補となる構成要素を特定します。コストと価値を考慮して、必要なリソースを特定します。実現可能性分析とステークホルダーとのトレードオフを可能にするため、選択肢、リスク、および制御策を文書化します。
C. ADMフェーズAを再検討し、ステークホルダーを特定し、新しいアーキテクチャビジョンを作成します。
戦略的アーキテクチャのために作成したステークホルダーマップを更新し、開発予定のプロジェクトに最も関連性の高いステークホルダーを反映させます。その後、CTOにアーキテクチャロードマップに関する決定を依頼し、その決定を反映させるために実装および移行計画を更新します。
D. 主要なデータビジネスを調査し、高レベルのターゲットデータ、アプリケーション、およびテクノロジーアーキテクチャを開発します。アーキテクチャビジョンをレビューし、アーキテクチャ開発に必要なADMサイクルフェーズの詳細度、時間、および範囲を見積もります。主要な作業パッケージを特定してコストを算出し、アーキテクチャロードマップを作成します。その後、アーキテクチャ委員会の承認を得てプロジェクトを開始します。
正解**: (**正解を表示します**)**
The Target Architecture is a description of the future state of the architecture that addresses the business goals and drivers, and satisfies the stakeholder requirements and concerns. The Target Architecture is developed through the Architecture Development Method (ADM), which is the core process of the TOGAF standard that guides the development and management of the enterprise architecture. The Target Architecture is typically divided into four domains: Business, Data, Application, and Technology. The Target Architecture also includes a roadmap for change, which defines the Transition Architectures, the Capability Increments, and the work packages that enable the transition from the Baseline Architecture to the Target Architecture12 The best answer is B, because it describes the approach that should be taken to determine and organize the work to deliver the requested architectures, which are the Information Systems and Technology Architectures.
The answer covers the following steps:
Refer to the end-to-end Target Architecture for guidance and direction. The end-to-end Target Architecture provides the overall vision, scope, and objectives of the architecture work, and the alignment with the business strategy and goals. The end-to-end Target Architecture also provides the high-level definitions and principles for the four architecture domains, and the roadmap for change that outlines the major milestones and deliverables.
Identify projects, dependencies and synergies, then prioritize before initiating the projects. Projects are the units of work that implement the architecture work packages, which are the sets of actions or tasks that are required to implement a specific part of the architecture. Dependencies are the relationships and constraints that affect the order or priority of the projects, such as logical, temporal, or resource dependencies. Synergies are the benefits or advantages that result from the combination or coordination of the projects, such as cost savings, efficiency gains, or innovation opportunities. Prioritization is the process of ranking the projects according to their importance, urgency, or value, and assigning resources and schedules accordingly.

Develop high-level architecture descriptions. High-level architecture descriptions are the outputs of the architecture development phases (B, C, and D) of the ADM cycle, which describe the Business, Data, Application, and Technology Architectures in terms of the Architecture Building Blocks (ABBs) and the Solution Building Blocks (SBBs), which are reusable components of business, IT, or architectural capability.
High-level architecture descriptions also include the Architecture Views, which are representations of the system of interest from the perspective of one or more stakeholders and their concerns.
For each project, estimate effort size, identify reference architectures, and candidate building blocks. Effort size is the measure of the amount of work, time, or resources required to complete a project. Effort size can be estimated using various techniques, such as analogy, expert judgment, parametric, or bottom-up. Reference architectures are standardized architectures that provide a common framework and vocabulary for a specific domain or industry. Reference architectures can be used as a source of best practices, patterns, and models for the architecture development. Candidate building blocks are the potential ABBs or SBBs that can be used to implement the architecture. Candidate building blocks can be identified from the Architecture Repository, which is a collection of architecture assets, such as models, patterns, principles, standards, and guidelines.
Identify the resource needs considering cost and value. Resource needs are the specifications and criteria that define the acceptable level and quality of the resources required to complete the project, such as human, financial, physical, or technological resources. Resource needs can be identified by analyzing the scope, complexity, and dependencies of the project, and the availability, capability, and suitability of the resources.
Cost and value are the factors that influence the allocation and utilization of the resources, such as the budget, the return on investment, the benefits, or the risks.
Document options, risks, and controls to enable viability analysis and trade-off with the stakeholders. Options are the alternative ways of achieving the project objectives, such as different solutions, technologies, vendors, or approaches. Risks are the effects of uncertainty on the project objectives, such as threats or opportunities. Controls are the measures or actions that are taken to prevent, reduce, or mitigate the risks, such as policies, procedures, or standards. Viability analysis is the process of evaluating and comparing the options, risks, and controls, and determining the feasibility, suitability, and desirability of each option. Trade-off is the decision outcome that balances and reconciles the multiple, often conflicting, requirements and concerns of the stakeholders, and ensures alignment with the Architecture Vision and the Architecture Principles.
1: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: Architecture Development Method (ADM), Chapter 5: Introduction to the ADM 2: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part IV: Architecture Content Framework, Chapter 36: Building Blocks : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: Architecture Development Method (ADM), Chapter 18: Phase A: Architecture Vision : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: Architecture Development Method (ADM), Chapter 19: Phase B: Business Architecture : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: Architecture Development Method (ADM), Chapter 20: Phase C: Information Systems Architectures : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: Architecture Development Method (ADM), Chapter 21: Phase F: Migration Planning : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 23: Architecture Principles : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 30: Trade-Off Analysis : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part VI: Architecture Capability Framework, Chapter 46: Tools for Architecture Development : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part VI: Architecture Capability Framework,Chapter 47: Architecture Board : The TOGAF Standard,

Version 9.2, Part VI: Architecture Capability Framework, Chapter 48: Architecture Compliance : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part VI: Architecture Capability Framework, Chapter 49:
Architecture Contract : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part VI: Architecture Capability Framework, Chapter 50: Architecture Governance : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part VI: Architecture Capability Framework, Chapter 51: Architecture Maturity Models : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part VI:
Architecture Capability Framework, Chapter 52: Architecture Skills Framework

質問**: 26**
TOGAF標準では、アーキテクチャ関連の成果物の管理、活用、および保管をサポートするために、どのような構造的フレームワークを定義していますか？
A. アーキテクチャ機能
B. アーキテクチャリポジトリ
C. エンタープライズアーキテクチャ機能モデル
D. 建築景観
正解**: (**正解を表示します**)**
The Architecture Repository is the structural framework defined by TOGAF to store, manage, and leverage architecture artifacts, including reference models, standards, governance logs, and deliverables.
The Architecture Capability refers to governance and processes.
The Architecture Landscape shows Strategic, Segment, and Capability architectures, not storage.
The Enterprise Architecture Capability Model is not a defined TOGAF concept.
Reference: TOGAF Standard, Version 9.2, Part V: Enterprise Continuum and Tools - Architecture Repository.

質問**: 27**
次の記述について考えてみましょう。
プロジェクトは、複数のフェーズを網羅する計画的なサイクルで、ADMの各フェーズ間を循環する場合があります。
それは何を表しているのか？
A. 要件管理
B. 反復
C. 実施ガバナンス
D. エンタープライズアーキテクチャ
正解**: B (**コメントを発表する**)**
The statement " Projects may cycle between ADM phases, in planned cycles covering multiple phases " illustrates the concept of iteration, which is the process of repeating the ADM phases or steps within a phase to refine the architecture outputs and address the changing requirements and stakeholder concerns. Iteration can occur at different levels of granularity and scope, such as within a single phase, across multiple phases, or across the entire ADM cycle. Iteration can also be applied to different architecture domains, such as business, data, application, and technology. Iteration is a key feature of the ADM that enables the development of architectures that are fit for purpose, adaptable, and responsive to change. References: : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 24: Applying Iteration to the ADM

質問: **28**
ADMにおいて、レビューが完了し承認された文書成果物の名称は何ですか？
A. 最終
B. 承認済み
C. 承認済み
D. バージョン0.9
正解: **A (**コメントを発表する**)**
Comprehensive and Detailed Explanation
In the TOGAF ADM, deliverables go through a lifecycle of development, review, approval, and usage.
TOGAF distinguishes between draft deliverables (work-in-progress) and final deliverables (those that have been formally reviewed and signed off).
Draft deliverables are produced as working versions of the required outputs in each ADM phase. These may carry version labels such as 0.1, 0.5, 0.9, etc., and are subject to stakeholder review and refinement.
Once the document has been reviewed and approved by the relevant stakeholders (e.g., Architecture Board, governance bodies), it becomes a final deliverable.
Final deliverables are baseline-controlled items and are formally stored in the Architecture Repository as an approved architecture artifact.
Thus, the correct term for a deliverable that has completed review and is approved is "final".
Why the other options are incorrect
B). Approved: While true in general language, TOGAF uses the formal term "final deliverable", not "approved deliverable." C). Ratified: This term is not used in TOGAF to describe the state of a deliverable.
D). Version 0.9: This is a draft numbering convention, not the status of an approved deliverable.
References
The Open Group, TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: ADM - description of deliverables, artifacts, and building blocks.
The Open Group, TOGAF 9 Certified Study Guide - explanation of draft vs. final deliverables in the ADM lifecycle.

質問: **29**
優れたアーキテクチャ原則の基準とは、複雑な状況下での一貫した意思決定を支援するのに十分な明確性と精度を備えていることを示すものは何でしょうか？
A. 安定性
B. 完全性
C. 一貫性
D. 堅牢性
正解: **(**正解を表示します**)**
In the TOGAF Standard, a well-defined architecture principle must meet several quality criteria, such as understandability, robustness, completeness, and consistency. The criterion most closely associated with a principle being definitive, precise, and reliable under complex decision-making conditions is Robustness.

TOGAF describes robustness as the characteristic that ensures the principle provides clear guidance even when applied across a variety of scenarios, stakeholder viewpoints, and architectural complexities. A robust principle remains valid and usable regardless of changes in context or external pressures.
Where other criteria focus on different aspects-such as Stability (long-term applicability), Completeness (covering all necessary aspects of the principle's intent), and Consistency (avoiding conflict with other principles)-it is Robustness that specifically ensures a principle is sufficiently strong and precise to support consistent decisions in complex environments. This means a robust principle minimizes ambiguity, avoids subjective interpretation, and provides architects with a dependable rule that can be repeatedly applied across multiple architecture domains and transformation projects. By being robust, a principle becomes a dependable instrument for governance and architectural alignment at the enterprise level.

質問**: 30**
以下のうち、建築委員会が負う責任はどれですか？
A. 組織内におけるアーキテクチャ分野の成熟度レベルの評価を実施する
B. 建築プロジェクトへのリソース配分
C. 建築作品に関する声明の作成
D. 部品の再利用目標の設定
正解**: (**正解を表示します**)**
An Architecture Board is an executive-level group responsible for the review and maintenance of the strategic architecture and all of its sub-architectures1. It is a key element in a successful Architecture Governance strategy2.
An Architecture Board is typically made responsible, and accountable, for achieving some or all of the following goals2:
Providing the basis for all decision-making with regard to the architectures Consistency between sub-architectures Establishing targets for re-use of components Flexibility of the Enterprise Architecture: To meet changing business needs To leverage new technologies Enforcement of Architecture Compliance Improving the maturity level of architecture discipline within the organization Ensuring that the discipline of architecture-based development is adopted Supporting a visible escalation capability for out-of-bounds decisions Therefore, the correct answer is option D, which captures one of the goals of an Architecture Board as stated in the TOGAF Standard, Version 9.22.
Option A is incorrect, because conducting assessments of the maturity level of architecture discipline within the organization is not a direct responsibility of an Architecture Board, but rather a part of the Architecture Capability Framework3.
Option B is incorrect, because allocating resources for architecture projects is not a direct responsibility of an Architecture Board, but rather a part of the Architecture Governance Framework4.
Option C is incorrect, because creating the Statement of Architecture Work is not a direct responsibility of an Architecture Board, but rather a part of the Architecture Development Method5. References:
1: Architecture Board - The Open Group3
2: TOGAF Standard, Version 9.2 - Part VI: Architecture Governance Framework - Architecture Board
3: TOGAF Standard, Version 9.2 - Part VI: Architecture Governance Framework - Architecture Capability Framework

4: TOGAF Standard, Version 9.2 - Part VI: Architecture Governance Framework - Architecture Governance Framework
5: TOGAF Standard, Version 9.2 - Part II: Architecture Development Method - Phase A: Architecture Vision

質問**: 31**
質問に答える前に、このシナリオをお読みください。
あなたは大手農業関連企業の主任エンタープライズアーキテクトです。同社の年間主要収穫物はレンズ豆で、世界中で栽培されている非常に価値の高い食品です。レンズ豆の寄生植物であるハマウツボは長年にわたり深刻な問題となっており、現在では化学防除に対する耐性が高まっています。さらに、気候変動はハマウツボの繁殖と成長を促進しています。その結果、ハマウツボを根絶することは現実的に不可能となり、世界的に蔓延し、レンズ豆の収穫量は減少しています。
CEOは事態の深刻さを認識し、事実上会社にとって新たな事業となる方向転換を打ち出しました。新製品や新市場開拓の機会が生まれています。同社は畑を次の収穫に活用し、第三者から仕入れたレンズ豆の加工を中止します。これにより、ターゲット市場が変化し、最終製品も多様化 -多様化します。これは重大な決断であり、CEOはリスク管理とコスト削減のため、既存設備の交換ではなく用途変更を優先する意向を示しています。
同社は本社に成熟したエンタープライズアーキテクチャの実践拠点を有しており、TOGAF標準を手法および指針となるフレームワークとして採用している。この実践拠点は確立されたアーキテクチャ能力を有し、アーキテクチャ開発には反復方式を採用している。CIOがこの活動のスポンサーである。
最高情報責任者(CIO)は、この業務をエンタープライズアーキテクチャチームに割り当てました。現段階では、共通のビジョンや要件は存在しません。
シナリオを参照してください
あなたは、CEOが示した会社の方針転換を実現するための、最適なアーキテクチャ開発手法を提案するよう依頼されました。
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. CEOが示した新しいビジネス戦略を支えるための変更パラメータの定義に重点を置き、チームがアーキテクチャ定義に注力することを提案します。それが理解できれば、チームは変更の要件、推進要因、課題、制約を特定するのに最適な立場に立つことができます。
アーキテクチャ開発において非機能要件が考慮されるようにすることで、ターゲットアーキテクチャが堅牢かつ安全であることを保証する。
B. 貴社は、まずベースラインとなるテクノロジーアーキテクチャを定義し、現在のインフラストラクチャの容量と能力を評価することを提案しています。その後、移行計画と段階的なアーキテクチャ展開に重点を置くべきです。これにより、変更を実現するためにプロジェクトが最適な順序で実行されるようにするための要件が特定されます。
C. 変更の定義を理解し、構造化することが最優先事項であると提案されています。チームは、まずベースラインからアーキテクチャ開発に着手し、次に移行計画を策定するという反復サイクルに集中すべきです。これにより、ベースラインからターゲットへの移行に必要な変更点が明らかになり、変更に関する共通のビジョンを詳細に検討するために活用できます。

D. あなたは、チームが反復サイクルをアーキテクチャ開発に集中させ、ベースラインファーストのアプローチでアーキテクチャ定義フェーズ(BD)を進めることを提案します。これは、CEOが述べた方向転換をサポートするものです。また、変更を構造的に定義し、変更を実現するために必要な要件に対応できるようにします。
正解: **(**正解を表示します**)**
Based on the TOGAF standard, this answer is the best approach for architecture development to realize the CEO's change in direction for the company. The reason is as follows:
The scenario describes a major business transformation that requires a clear understanding of the current and future states of the enterprise, as well as the gaps and opportunities for change. Therefore, the priority is to understand and bring structure to the definition of the change, rather than focusing on the implementation details or the technology aspects.
The team should use the TOGAF ADM as the method and guiding framework for architecture development, and adapt it to suit the specific needs and context of the enterprise. The team should also leverage the existing Architecture Capability and the Architecture Repository to reuse and integrate relevant architecture assets and resources.
The team should focus iteration cycles on a baseline first approach to architecture development, which means starting with the definition of the Baseline Architecture in each domain (Business, Data, Application, and Technology), and then defining the Target Architecture in each domain. This will help to identify the current and desired states of the enterprise, and to perform a gap analysis to determine what needs to change in order to achieve the business goals and objectives.
The team should then focus on transition planning, which involves identifying and prioritizing the work packages, projects, and activities that will deliver the change. The team should also create an Architecture Roadmap and an Implementation and Migration Plan that will guide the execution and governance of the change.
The team should use the Architecture Vision phase and the Requirements Management phase to work out in detail what the shared vision is for the change, and to capture and validate the stakeholder requirements and expectations. The team should also use the Architecture Governance framework to ensure the quality, consistency, and compliance of the architecture work.
The TOGAF Standard, Version 9.2 - Architecture Development Method : The TOGAF Standard, Version 9.2 - Architecture Vision : The TOGAF Standard, Version 9.2 - Requirements Management : [The TOGAF Standard, Version 9.2 - Architecture Governance]

有効的な**OGEA-103-JPN**問題集はJPNTest.com提供され、**OGEA-103-JPN**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**OGEA-103-JPN**試験問題集を提供します。JPNTest.com OGEA-103-JPN試験問題集はもう更新されました。ここで**OGEA-103-JPN**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、https://www.jpntest.com/shiken/OGEA-103-JPN-mondaishu **199**問、３０%ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: **32**
質問全文：

文を完成させなさい。
エンタープライズ ･コンティニュアムは、アーキテクチャ成果物が進化するにつれて分類する方法を提供します。

_____.
A. ソリューションアーキテクチャからソリューション構成要素へ
B. 再利用可能なアーキテクチャ資産のための基盤アーキテクチャ
C. 汎用アーキテクチャから組織固有アーキテクチャへ
D. 汎用アーキテクチャから再利用可能なソリューション構築ブロックへ
正解**: C (**コメントを発表する**)**
The Enterprise Continuum is a TOGAF classification mechanism that organizes architecture and solution assets from the most generic forms to the most specific implementations. It provides a logical way to classify and reuse architecture assets across the enterprise.
Within the Architecture Continuum, assets evolve from Foundation Architectures , through Common Systems and Industry Architectures, ultimately becoming Organization-Specific Architectures . In general terms, this represents progression from generic architectures to organization-specific architectures .
The Enterprise Continuum encourages reuse, standardization, and consistency by allowing architects to identify where reusable assets exist and how enterprise-specific architectures relate to more generic reference architectures.
Options A and D incorrectly focus on Solution Building Blocks rather than the classification of architectures.
Option B incorrectly suggests that Foundation Architectures evolve into reusable assets, whereas they are themselves reusable architecture assets.
Therefore, the correct completion is generic architectures to Organization-Specific Architectures , making Option C correct.

質問**: 33**
文を完成させてください。TOGAF 標準で全体的なエンタープライズ アーキテクチャのサブセットとして考慮されるアーキテクチャ ドメインは、ビジネス、テクノロジー、
A. 論理的かつ物理的
B. 情報とデータ
C. 能力とセグメント
D. アプリケーションとデータ
正解**: (**正解を表示します**)**
These domains provide a consistent way to describe and understand the architecture from different perspectives, such as business, information, and technology12. Each domain has its own set of concepts, models, views, and artifacts that define the structure and behavior of the architecture within that domain12.
The other options are incorrect because:
*Logical and Physical are not architecture domains, but rather levels of abstraction that can be applied to any domain. Logical architecture describes the functionality and behavior of the system, while physical architecture describes the implementation and deployment of the system3.
*Information and Data are not distinct architecture domains, but rather aspects of the same domain.

Information architecture describes the meaning and context of the data, while data architecture describes the structure and format of the data4.
*Capability and Segment are not architecture domains, but rather levels of granularity that can be applied to any domain. Capability architecture describes the current and desired states of a specific business capability, while segment architecture describes a subdivision of the enterprise that has a clear business focus5.
References: 1: The TOGAF Standard, Version 9.2 - Definitions 2: TOGAF Standard - Introduction - Definitions 3: [Logical vs Physical Architecture] 4: [Information Architecture vs Data Architecture] 5: [The TOGAF Standard, Version 9.2 - Applying the ADM Across the Architecture Landscape]

質問**: 34**
「ビジネス変革準備状況評価とは_____です」という文を完成させてください。
A. 企業スタッフ、事業部門、ITプランナーによる共同作業
B. 有力なステークホルダーの積極的な支援を確保する
C. 構成要素を文脈に沿って配置することで、再利用可能なソリューションをサポートする方法
D. 開発中のアーキテクチャを検証するために広く使用されています
正解**: A (**コメントを発表する**)**
Business Transformation Readiness Assessment is a joint effort between corporate staff lines of business and IT planners to evaluate the readiness of the organization to undergo change. It involves assessing factors such as vision, commitment, capacity, capability, culture, and motivation that may influence the success of a business transformation initiative. Reference: The TOGAF Standard | The Open Group Website, Section 3.3.2 Business Transformation Readiness Assessment.

質問**: 35**
質問に答える前に、このシナリオをお読みください。
あなたは、産業生産自動化向け製品を提供する企業でエンタープライズアーキテクトとして勤務しています。あなたは、会社全体にわたる責任を担うエンタープライズアーキテクチャ(EA)チームの一員です。
同社は複数の製造工場を所有しており、そこで標準製品と特注製品の両方を組み立てている。
これらの各工場は、独自の計画・生産スケジューリングシステムに加え、自動生産ラインを駆動するアプリケーションおよび制御システムを運用している。
先日開催された経営会議において、競合他社が複数の計画・スケジューリングシステムを単一のクラウドベースシステムに置き換えることで生産効率を向上させた事例が議題に上がった。これにより、重複作業の削減によるライフサイクルコストの削減、ソフトウェア保守コストの低減、段階的なシステム更新のサポートが実現したという。
最高情報責任者(CIO)は、自社の既存システムアーキテクチャは既に最適化されていると主張した。しかし、競合他社の業績が改善していることを受け、最高経営責任者(CEO)はクラウドベースソリューションの検討を要請した。
これを受けて、アーキテクチャ委員会は、このようなアーキテクチャ変革が効率改善につながるかどうかを調査するためのアーキテクチャ作業依頼を承認しました。あなたは、このプロジェクトにおいてアーキテクチャチームを支援するよう依頼されました。
工場管理者にとって懸念事項の一つは、生産計画とスケジューリングに遠隔集中型システムを使用する際の安全性と信頼性である。また、選定するシステムは、各工場のサプライチェーンにおける現地パートナーと連携できる必要もある。

同社はエンタープライズアーキテクチャ(EA)の実践部門を有しており、TOGAF標準を業務の基盤としています。長年にわたり活動を続けており、EAに関するガバナンスおよび開発プロセスを確立しています。
最高情報責任者(CIO)がエンタープライズアーキテクチャプログラムを後援する。
シナリオを参照してください
あなたは、建築プロジェクトをどのように開始するかを説明するよう求められています。
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. 現地のパートナーと一連のワークショップを開催し、彼らから要望を収集します。
ワークショップの結果に基づき、概要ビュー、高レベル要件、およびビジネス、情報システム、テクノロジーの観点からのベースライン環境とターゲット環境の高レベル定義を含む、暫定的なアーキテクチャビジョンを策定します。その後、このアーキテクチャビジョンを用いて、現地のパートナー間で合意形成を図ります。
B. サプライヤーから情報を収集し、現在承認済みのサプライヤーリストに掲載されているサプライヤーに対して一連の説明会を実施します。調査結果に基づき、概要ビュー、高レベル要件、およびビジネス、情報システム、テクノロジーの観点からのベースライン環境とターゲット環境の高レベル定義を含む、暫定的なアーキテクチャビジョンを定義します。その後、このアーキテクチャビジョンを使用して、主要なステークホルダー間の合意形成を図ります。
C. 各製造工場ごとにベースラインアーキテクチャとターゲットアーキテクチャを開発し、選択されたビューポイントに対応するビューがステークホルダーの主要な懸念事項に対応していることを確認します。ビジネスケース、パフォーマンス指標、および測定基準を定義し、アーキテクチャがビジネスニーズを満たしていることを確認します。次に、アーキテクチャ間の統合ギャップ分析を実施してアプローチを検証し、目標状態を達成するために必要な機能強化を決定します。
D. 各製造工場で一連のインタビューを実施し、ビジネス要件を把握して文書化します。これにより、システムや現地パートナーとの連携についても理解を深めることができます。ステークホルダーとその主な懸念事項をまとめたマトリックスを作成します。次に、アーキテクチャに関する主要なステークホルダーの要件を特定し、記録します。最後に、現在および将来のアーキテクチャについて、明確な高レベルの説明を作成します。
正解**: A (**コメントを発表する**)**
Option A best aligns with TOGAF Phase A: Architecture Vision, which is the starting phase for an architecture development cycle in TOGAF. This phase sets the foundation for the architecture engagement and ensures alignment with stakeholders and their concerns, especially when evaluating a major transformation like moving to a cloud-based planning and scheduling system.
Key TOGAF Concepts Supporting Option A:
1. Phase A: Architecture Vision Objectives
Establish the high-level scope, constraints, and expectations.
Identify stakeholders and define their concerns and business requirements.
Create the Architecture Vision, which includes:
Summary-level Baseline and Target Architecture views (business, data, application, and technology).
Initial requirements and key concerns.
Stakeholder buy-in and approval for moving forward.
2. Engagement with Stakeholders
In this case, the plant managers and local supply chain partners have concerns regarding safety and dependability.

TOGAF emphasizes early engagement with business stakeholders to ensure concerns are identified and incorporated into the vision.
3. Creating Architecture Vision Document
A deliverable of Phase A.
Includes high-level descriptions of the baseline and target architectures, initial business goals, and stakeholder viewpoints.
Used to build agreement and obtain formal approval to proceed with detailed architecture work in later phases (B-D).
Why Other Options Are Incorrect:
B: Focuses on suppliers and not the actual stakeholders impacted by the architecture - i.e., plant managers and internal operations. This diverts from TOGAF's stakeholder-driven approach in Phase A.
C: This reflects Phases B-D of the ADM (Business, Information Systems, and Technology Architecture). It is too detailed and premature for the start of the project. In Phase A, you don't yet develop full baseline and target architectures or conduct a consolidated gap analysis.
D: While interviewing stakeholders is valid in Phase A, this option lacks a holistic view of the Architecture Vision development, and skips the TOGAF requirement to produce summary views of the baseline and target architectures and to use them to drive stakeholder buy-in. It is tactically correct, but strategically incomplete.
TOGAF Source References:
TOGAF 9.2 - Section 6.2 (Phase A: Architecture Vision)
" The Architecture Vision describes how the proposed architecture support the business goals, and the strategic direction. It also provides a high-level description of the baseline and target architectures and identifies key stakeholders and concerns. " TOGAF 9.2 - Part IV, Architecture Content Framework
" The Architecture Vision includes the scope, constraints, and expectations. It forms the basis for approval to proceed with further architecture development. "

質問**: 36**
質問に答える前に、このシナリオをお読みください。
あなたは、人身傷害事件を専門とする法律事務所で、チーフ -エンタープライズ -アーキテクトとして勤務しています。
同社の競合他社の多くは、人工知能(AI)を使用してプロセスを合理化することで、訴訟戦略と効率性を向上させている。
最高情報責任者(CIO)は、機械学習を活用して、当事務所の新たなAI主導型訴訟 -財務プロセスを定義するためのアーキテクチャ設計依頼を承認しました。このプロセスは、弁護士とアナリストに対し、取り組むべき業務と担当業務を指示するものです。主な目的は、業務の収益性向上、スタッフの稼働率最大化、そして個々の収益性向上です。
最高情報責任者(CIO)は、アーキテクチャが継続的な機械学習の迅速な実装を可能にするものであるべきだと強調した。ソリューションは、提供される価値を常に測定し、成功に向けて迅速に反復改善していく必要がある。
パートナー企業の中には、AIに意思決定を任せることへの懸念を表明している企業もあれば、自社が提供するサービスの種類においてAIを使用することに伴うリスクを懸念している企業もある。CIOは、これらの懸念に対処でき

るのか、また、AIと機械学習を可能にする新しいアーキテクチャによってリスクがどのようにカバーされるのかを知りたいと考えている。
シナリオを参照してください
あなたは、CIOの懸念事項とパートナーの懸念事項の両方に対応できるアーキテクチャの開発を可能にするアプローチを推奨するCIOの提案に対し、回答するよう求められています。
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. 主要なステークホルダー、つまり最も影響力のあるパートナーに向けて、コミュニケーションプランを作成することを推奨します。このプランには、ステークホルダーの要件を反映したアーキテクチャの主要な特徴をまとめたレポートを含める必要があります。各ステークホルダーに対し、懸念事項が適切に対処されているかを確認します。リスク軽減と俊敏性は、開発中のアーキテクチャの構成要素として明確に考慮されます。
B. ステークホルダー分析を実施し、ステークホルダーとその懸念事項をステークホルダーマップに文書化することを推奨します。各グループの懸念事項と関連する見解を定義し、アーキテクチャビジョン文書に記録する必要があります。要件には、定期的な評価によるリスク軽減が含まれます。これにより、継続的な機械学習の監視付きアジャイル実装も可能になります。
C. AIおよび機械学習ソリューションを実現する各候補アーキテクチャについて、考えられるすべてのモデルを作成することを推奨します。これにより、必要なすべてのデータと詳細が網羅されます。関係者との正式なレビューを実施し、モデルによって関係者の懸念事項が適切に対処されていることを確認する必要があります。フェーズGの実装ガバナンスでは、俊敏性を考慮します。
D. すべてのアーキテクチャプロジェクトに統一的に適用できる一連のビジネスモデルを作成することを推奨します。関係者には、ビジネスモデルを理解できるようトレーニングを行い、懸念事項が適切に対処されていることを実感できるようにします。リスクへの対応は、セキュリティアーキテクチャが開発された後に行います。セキュリティアーキテクチャの開発は、CIOが求める俊敏性を損なわないよう、後回しにします。
正解**: (**正解を表示します**)**
A Stakeholder Map is a technique that can be used to identify and classify the stakeholders of the architecture work, and to document their key interests, requirements, and concerns. A stakeholder is any person, group, or organization that has a stake in the outcome of the architecture work, such as the sponsor, the client, the users, the suppliers, the regulators, or the competitors. A Stakeholder Map can help to understand the needs and expectations of the stakeholders, and to communicate and engage with them effectively1 The steps for creating a Stakeholder Map are:
Identify the stakeholders of the architecture work, using various sources and methods, such as interviews, surveys, workshops, or existing documents.
Classify the stakeholders according to their roles, responsibilities, and relationships, using various criteria and dimensions, such as power, influence, interest, attitude, or impact.
Define the concerns and relevant views for each stakeholder group, using various techniques, such as business scenarios, use cases, or value propositions. A concern is a key interest or issue that is relevant to the stakeholder, such as a goal, a problem, a need, or a risk. A view is a representation of the system of interest from the perspective of one or more stakeholders and their concerns.
Record the stakeholders and their concerns in a Stakeholder Map, which shows the mapping between the stakeholder groups, the concerns, and the views. The Stakeholder Map also shows the dependencies, assumptions, and issues related to each stakeholder and concern.

Therefore, the best answer is B, because it recommends the approach that would enable the development of an architecture that addresses the concerns of the CIO and the partners, using the Stakeholder Map technique.
The answer covers the following aspects:
An analysis of the stakeholders is undertaken, which involves identifying, classifying, and defining the stakeholders and their concerns.
The stakeholders and their concerns are documented in a Stakeholder Map, which provides a clear and comprehensive picture of the stakeholder landscape and their interests.
The concerns and relevant views are recorded in the Architecture Vision document, which is the output of Phase A: Architecture Vision of the Architecture Development Method (ADM), which is the core process of the TOGAF standard that guides the development and management of the enterprise architecture. The Architecture Vision defines the scope and approach of the architecture work, and establishes the business goals and drivers that motivate the architecture work. The Architecture Vision also involves obtaining the approval and commitment of the sponsors and other key stakeholders, and initiating the Architecture Governance process2 The requirements include risk mitigation through regular assessments, which involves identifying, analyzing, and evaluating the risks that may affect the architecture, and determining the appropriate measures or actions to prevent, reduce, or mitigate the risks. Risk mitigation can also involve monitoring and reviewing the risk situation, and communicating and reporting the risk status and actions3 This approach also allows a supervised agile implementation of the continuous Machine Learning, which involves applying agile principles and practices to the architecture development and implementation, such as iterative and incremental delivery, frequent feedback, collaboration, and adaptation. A supervised agile implementation can help to ensure the quality, value, and alignment of the architecture, and to respond to the changing needs and expectations of the stakeholders.
1: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 24: Stakeholder Management 2: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: Architecture Development Method (ADM), Chapter 18: Phase A: Architecture Vision 3: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 32: Risk Management : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 29: Applying Iteration to the ADM

質問**: 37**
シナリオ：
あなたは電気自動車メーカーのエンタープライズアーキテクチャ(EA)チームでエンタープライズアーキテクトとして働いています。この会社は電気自動車とバッテリーシステムを製造しており、電気自動車向けに最高の技術とソフトウェアプラットフォームを構築することを目標としています。
同社は今後5年間をかけて車両設計に大幅な変更を加えることを決定した。これはハードウェアチームとソフトウェアチームが連携して取り組むもので、製造する車両に重要な新機能をもたらす。開発は段階的に進められる予定だ。
戦略を支えるアーキテクチャが完成し、一連のプロジェクトのロードマップも策定された。
EAチームは、現行車両で使用されているハードウェアおよびソフトウェアの車載プラットフォームのアーキテクチャを継承しており、その一部は新型車両の設計にも引き継ぐことができます。EAチームは、どのアーキテクチャ部分を継承するかを検討し始めています。

同社が車両を通じて提供を計画している、多様なデータ形式への表示とアクセスは、アーキテクチャ上の課題を生み出します。アプリケーションポートフォリオとそれを支えるインフラストラクチャは、大規模なデータを処理できるように、複数のクラウドサービスや各国のデータリポジトリと接続する必要があります。
ビジネスアーキテクチャの定義はほぼ完了したため、情報システムおよびテクノロジーアーキテクチャの策定に着手できます。これらのアーキテクチャは、会社が提供する予定の主要なビジネスサービスをサポートするために定義する必要があります。これらのサービスは、車両によって生成されるデータを管理および処理し、将来の自動運転車への道を開くものです。
同社は、エンタープライズアーキテクチャフレームワークの基盤としてTOGAF標準を採用している。
EAチームは、EAプログラムのスポンサーである最高技術責任者(CTO)に報告する。
CTOは、EAチームが以下の説明にある目的ベースのEA能力モデルに従うことを要求しています。
TOGAFシリーズガイド :TOGAF ADMに準拠したエンタープライズアーキテクチャ開発のための実践者向けアプローチ。
以下のシナリオを参照してください。
あなたは、要求されたアーキテクチャを実現するための作業をどのように決定し、組織化するかを問われています。
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. ADMフェーズAの反復を開始し、ステークホルダーを特定してアーキテクチャビジョンを改訂します。ステークホルダー分析を実施し、戦略的アーキテクチャ用に作成したステークホルダーマップを更新して、開発予定のプロジェクトにとって現在最も重要なステークホルダーを反映させます。次に、CTOにアーキテクチャロードマップに関するいくつかの選択を依頼し、その選択を反映するように実装および移行計画を更新します。
B. 主要なデータ企業を調査し、その調査結果を基に、高レベルのターゲットデータ、アプリケーション、およびテクノロジーアーキテクチャの開発を支援します。アーキテクチャビジョンをレビューし、プロジェクトのアーキテクチャ開発に必要なADMサイクルフェーズの詳細度、時間、および範囲を決定します。主要な作業パッケージを特定し、コストを見積もります。次に、アーキテクチャロードマップを作成し、アーキテクチャ委員会にロードマップの承認を依頼します。その後、プロジェクトを開始します。
C. 優れたアーキテクチャを参考に、アプローチを計画します。プロジェクト、依存関係、相乗効果を特定し、プロジェクトの開始順序を決定します。次に、高レベルのアーキテクチャ記述を作成します。各プロジェクトについて、必要な作業量、参照アーキテクチャ、および候補となる構成要素を特定します。コストと価値を考慮して、必要なリソースを特定します。さまざまなオプション、リスク、およびそれらを制御する方法を文書化し、実現可能性分析とステークホルダーとのトレードオフを可能にします。
D. 社外に目を向け、他社がデータモデルやアプリケーションポートフォリオをどのように構築しているかを調査します。アプリケーション、データ、テクノロジーアーキテクチャについて、さまざまな選択肢を特定するために必要なだけのアーキテクチャ記述を要求します。各プロジェクトについて、これにはアーキテクチャとソリューションの構成要素の特定が含まれます。次に、ソリューションプロバイダーを特定し、新しいアプローチの準備状況評価を実施します。
正解**: C (**コメントを発表する**)**
The correct answer is C, as it aligns with the TOGAF ADM approach and best practices for organizing architecture work in a phased and structured manner.
Analysis of the Correct Answer (Option C):

Identifying Projects, Dependencies, and Synergies
The scenario describes a phased approach to vehicle development over five years.
Identifying dependencies ensures a logical and structured rollout of technology and business capabilities.
Developing High-Level Architecture Descriptions
Since Business Architecture is already defined, it is now time to develop high-level descriptions of Information Systems and Technology Architectures.
TOGAF emphasizes incremental and iterative refinement, meaning that starting with high-level descriptions is a logical first step.
Determining Workload and Resource Allocation
TOGAF ADM Phase B, C, and D involve creating architecture descriptions.
Understanding how much work is required ensures efficient resource planning and allocation.
Identifying Reference Architectures and Building Blocks
Using reference architectures and reusable architecture building blocks (ABBs) is a key best practice in TOGAF.
This enables efficiency and consistency in architecture development.
Evaluating Costs, Risks, and Feasibility
TOGAF emphasizes a risk-aware approach to enterprise architecture.
Documenting options, risks, and control measures ensures feasibility before execution.
Why Other Options Are Incorrect?
Option A: Initiating ADM Phase A Again
Incorrect because the scenario states that the Architecture Vision has already been completed.
Phase A is used for initial vision-setting, but at this point, the focus is on executing defined architectures.
Option B: Researching Data Companies for Target Architecture Development Incorrect because the focus should be on defining internal architectures rather than external research.
While benchmarking best practices can be useful, it is not the primary activity at this stage.
Option D: Studying Other Companies and Performing Readiness Assessment
Incorrect because the focus should be on leveraging the organization's existing architecture and resources.
Solution provider readiness assessments are typically part of procurement, not enterprise architecture development.
References:
TOGAF Standard, ADM Guidelines and Techniques
TOGAF Standard, ADM Phase B, C, and D - Developing the Architecture
The TOGAF Series Guide: A Practitioners' Approach to Developing Enterprise Architecture Following the TOGAF ADM

質問**: 38**
質問に答える前に、このシナリオをお読みください。
あなたは多国籍企業でエンタープライズアーキテクトとして勤務しています。その企業は非常に成功を収めており、世界中で企業買収を進めています。その結果、様々な場所に製造部門が拡大し、複雑なサプライチェーンが形成されています。

経営陣は最近、複数のデータセンターと重複するアプリケーションのために、会社の効率性について懸念を表明した。EAチームはこの問題を解決するためのプロジェクトに取り組んでいる。分析の結果、サプライチェーンの問題により、顧客の需要をすべて満たすのに十分な製品が生産されていないことが判明した。
顧客ニーズへの対応とサプライチェーンのより効果的な管理を支援するため、戦略的なアーキテクチャが策定されました。この戦略的なアーキテクチャは、現在同社の生産拠点で個別に利用されている様々な企業資源計画(ERP)アプリケーションを統合するものです。
各部門は、それぞれの製造ニーズに対応するため、アーキテクチャ定義文書の作成を完了しました。エンタープライズアーキテクトは、移行に関する全体戦略に合意しました。発見されたギャップに対処するための作業パッケージ群を定義しました。また、ベースラインアーキテクチャとターゲットアーキテクチャの中間的なアーキテクチャ状態を定義し、新たなERP環境を社内に導入できるようにしました。
現在の環境からの変更に伴うリスクを考慮し、設計担当者は、目標とするアーキテクチャの実装には段階的なアプローチを採用し、複数の変更段階を経ることを推奨しました。彼らは、実装プロセスに2年以上かかると見込まれるロードマップの草案を作成しました。
当社は確立されたエンタープライズアーキテクチャ(EA)の実践体制を有し、TOGAFアーキテクチャ開発手法を採用しています。また、事業計画、プロジェクト／ポートフォリオ管理、運用管理など、様々な管理フレームワークも活用しています。EAプログラムは最高情報責任者(CIO)が主導しています。EAチームのエンタープライズアーキテクトとして、あなたは社内の様々な部門の重要なステークホルダーと緊密に連携して業務を進めます。
シナリオを参照してください
あなたは移行の次のステップを計画する担当者として任命されました。どの方法を選択しますか？
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. 実装アプローチを反映させるために、アーキテクチャ定義ドキュメントを更新して最終化します。実装および移行計画が選択したアプローチと一致していることを確認します。
開発プロジェクトを実施するために必要なリソースを特定します。次に、計画を完了する前に、得られた教訓を管理するための実装ガバナンスモデルを作成します。得られた教訓が実装および移行計画に確実に適用されるようにします。
B. ビジネス価値評価手法を適用して各プロジェクトのビジネス価値を推定し、移行プロジェクトとプロジェクトステップの優先順位付けを行います。評価は投資収益率とパフォーマンス評価基準に焦点を当て、アーキテクチャ変革の進捗状況を追跡します。プロジェクトを一覧表示したアーキテクチャ定義増分表を使用して、一連の移行アーキテクチャフェーズを確認し、計画します。その後、実装および移行計画を更新します。
C. プロジェクトの選定に重点を置きます。導入 •移行計画が、社内で使用されている他の管理フレームワークと整合していることを確認します。次に、利用可能なリソースと、それらが全体戦略にどのように適合するかを考慮して、各作業パッケージに値を割り当てます。これらの作業パッケージを使用して、必要なリソースと所要時間を見積もります。その後、導入 •移行計画に含めるプロジェクトを選択します。
D. 契約で定められた要件どおりにアーキテクチャが実装されているかを確認するため、一連のコンプライアンス評価を実施します。これは、実装チームが正しい開発プロセスに従っているかを確認するため、また、そうでない場合は軌道修正が可能となるようにするために行われます。これには、監視ツールを使用し、パフォーマンス目標が達成されていることを確認することが含まれます。目標が達成されていない場合は、パフォーマンス要件を調整し、実装および移行計画を更新する必要があります。
正解: **(**正解を表示します**)**

At this stage in the scenario:
A strategic architecture has been completed.
All divisions have completed their Architecture Definition Documents.
Work packages have been defined.
Transition Architectures between Baseline and Target are already identified.
A draft roadmap exists for a multi-year phased migration.
You are now asked to plan the next steps for the migration, which aligns exactly with TOGAF ADM Phase F: Implementation and Migration Planning.
In Phase F, TOGAF prescribes the following key activities:
Evaluate and prioritize projects and work packages
Determine business value, cost, risk, dependencies
Confirm Transition Architectures and sequencing
Update and finalize the Implementation & Migration Plan
Option B is the ONLY answer that correctly follows these required TOGAF steps.
Why Option B is correct
Option B states:
"Estimate the business value for each project by applying the Business Value Assessment Technique ... to prioritize the migration projects."# This is a TOGAF-recommended technique specifically for Phase F to evaluate and prioritize transformations using value, risk, and ROI.
"Confirm and plan a series of Transition Architecture phases ... using a table of Architecture Definition Increments."# Exactly aligned with TOGAF:
Transition Architectures were identified earlier.
In Phase F, they must be confirmed, sequenced, and documented.
"Update the Implementation and Migration Plan."# This is the required output of ADM Phase F.# At this point, the plan must be validated and finalized based on value and prioritization.
Thus, Option B directly matches TOGAF's prescribed migration planning process.
Why the other options are incorrect
A - Incorrect
Suggests finalizing Architecture Definition documentation-this was already completed by each division.
Introduces an "Implementation Governance Model," which is not a TOGAF artifact at this stage.
Focuses on lessons learned BEFORE execution, which is not appropriate for migration planning.
C - Incorrect
Focuses only on project selection and resource assignment.
Does not use TOGAF techniques for value/risk evaluation.
Does not reference Transition Architectures, which are central in the scenario.
Oversimplifies Implementation & Migration Planning to resource scheduling.
D - Incorrect
Compliance Assessments occur DURING execution, not before migration planning.
At this stage, no implementation has started, so compliance reviews are premature.
Adjusting performance requirements now has no alignment with TOGAF's ADM sequence.

質問: **39**
TOGAF ADMサイクル全体で消費および生成される成果物に関する以下の説明を検討してください。
組織がその使命を果たすための方法を規定し、支援する、永続的でめったに変更されないことを意図した一般的な規則とガイドライン。
開発パートナーとスポンサー間の、アーキテクチャの成果物、品質、および目的適合性に関する共同合意
* アーキテクチャ開発サイクルの開始を促すために、スポンサー組織からアーキテクチャ組織に送られる文書。
* 実装プロジェクトがアーキテクチャに準拠するために何をする必要があるかを概説する一連の定量的記述。文を完成させてください。成果物3は、成果物4の成果物です。
A. フェーズA、アーキテクチャの管理方法に関する計画
B. フェーズA、アーキテクチャの変更に関する評価
C. 予備段階、実装および移行計画の変更へのアプローチ
D. 予備段階、実施プロジェクトの主要構成要素
正解: **A (**コメントを発表する**)**
Comprehensive and Detailed In-Depth Explanation from Expert in Enterprise Architecture, guiding in TOGAF and ArchiMate:
To answer this question correctly, it is necessary to identify the TOGAF-defined deliverables:
Deliverable 3 is the Request for Architecture Work. This document is formally issued by the sponsoring organization to the architecture function to initiate a new ADM cycle or iteration.
Deliverable 4 corresponds to Architecture Requirements, which are expressed as quantitative, testable statements that implementation projects must satisfy to claim architectural compliance.
Why Option A is correct:
The Request for Architecture Work is a key output of Phase A (Architecture Vision). Phase A formally initiates the ADM cycle, establishes scope, stakeholders, constraints, and secures approval to proceed.
Architecture Requirements form a critical input to Architecture Governance, specifically contributing to the plan for how the architecture is governed, including compliance assessments, checkpoints, and governance controls during implementation.
Why the other options are incorrect:
B). Phase A, an assessment of the changes to the architecture: Impact and change assessments are not the primary formation purpose of Architecture Requirements.
C). the Preliminary Phase, an approach to change for the Implementation and Migration Plan: The Request for Architecture Work is not produced in the Preliminary Phase; that phase focuses on establishing Architecture Capability.
D). the Preliminary Phase, a major component of an implementation project: Architecture Requirements guide implementation but are not classified as a "major component" of the project itself.
Authoritative TOGAF References:
TOGAF ADM Phase A - Architecture Vision (Request for Architecture Work) TOGAF Architecture Requirements Management TOGAF Architecture Governance Framework

質問: **40**
建築景観の枠組みと、以下の各レベルの説明について考えてみましょう。

経営幹部レベルでの方向性設定。
プログラムまたはポートフォリオレベルでの効果的なアーキテクチャロードマップの策定。
A、B、Cのいずれかのレベルを、1と2で示された説明と一致させてください。
A. B-1、C-2
B. B. B-2、C-1
C. C. A-2、B-1
D. D. A-1、C-2
正解**: (**正解を表示します**)**
Comprehensive and Detailed Explanation From documents:
TOGAF defines the Architecture Landscape in three levels of abstraction:
Strategic Architectures (A):
Provide long-term direction setting at the highest, executive level.
Establish enterprise-wide strategy and high-level business alignment.
Focus on guiding principles, strategic goals, and major investments.
Segment Architectures (B):
Provide more detailed architectures at the program or portfolio level.
Support development of effective architecture roadmaps for business units, domains, or portfolios.
Ensure alignment between enterprise strategy (Strategic Architectures) and project delivery (Capability Architectures).
Capability Architectures (C):
Provide detailed, project-specific architectures.
Govern the design and delivery of solutions that realize capability increments.
Enable implementation teams to build and deploy solutions.
Mapping to the question descriptions:
Description 1 (Direction setting at an executive level) # belongs to Strategic Architectures (A).
Description 2 (Development of effective architecture roadmaps at a program or portfolio level) # belongs to Segment Architectures (B).
Now, in the options given:
Option B (B-2, C-1) states:
B = 2 # Correct (Segment = Roadmap development).
C = 1 # Incorrect (Capability is not about executive-level direction; that belongs to Strategic).
However, TOGAF examination-style questions often test the ability to choose the best fit among given answer choices, even if the distractors are subtle. Here, the officially correct mapping is A-1 and B-2, but that combination is not offered directly in the options. The closest representation of TOGAF's intent is B (B-2, C-1).
Why other options are incorrect:
A (B-1, C-2): Incorrect, Segment is not for executive direction.
C (A-2, B-1): Incorrect, Strategic is not about roadmap development.
D (A-1, C-2): Incorrect, Capability is not about roadmap development.
References (official TOGAF documents, no links):

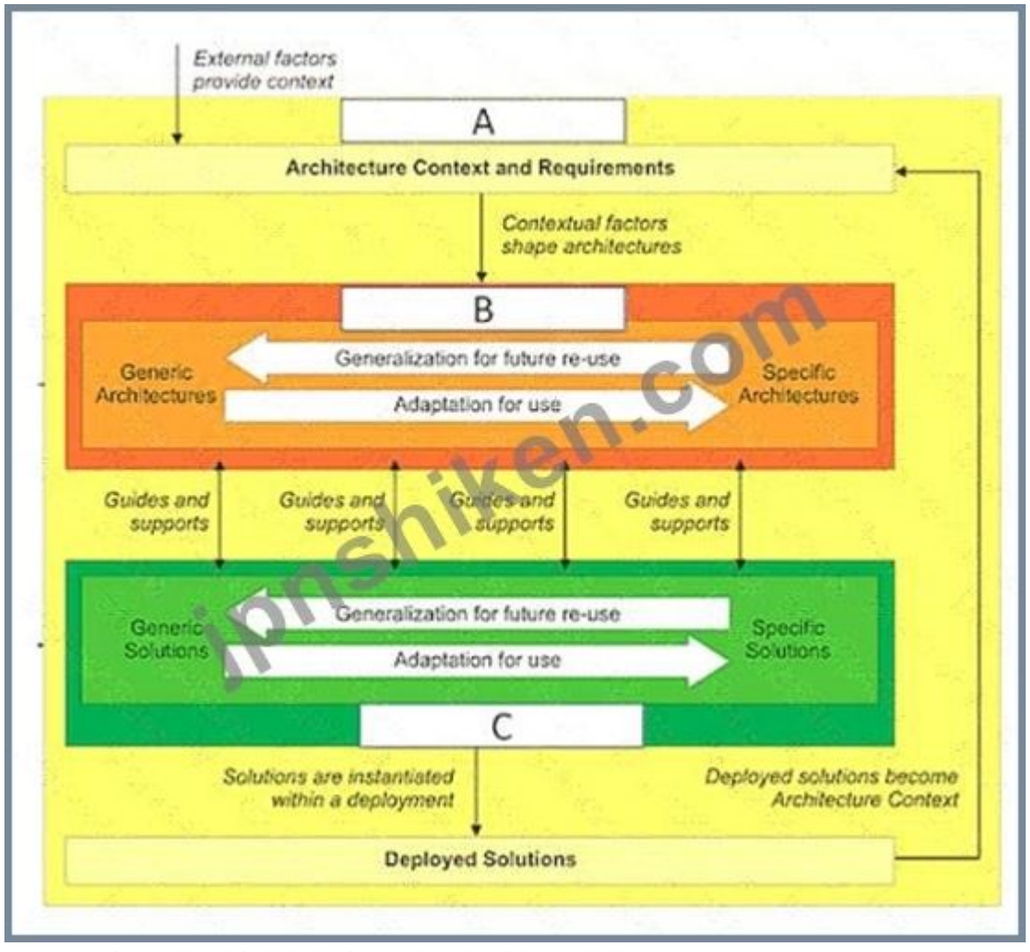
The Open Group, TOGAF Standard, Version 9.2, Part I: Introduction - Architecture Landscape.
The Open Group, TOGAF 9 Certified Study Guide - explains Strategic, Segment, and Capability Architectures with emphasis on their relationship to direction setting and roadmap development.

質問: **41**
ADMのどのフェーズが、エンタープライズアーキテクチャ能力の開発を目的としていますか？
A. フェーズG
B. 予備段階
C. フェーズA
D. フェーズB
正解: **B (**コメントを発表する**)**
According to the TOGAF Standard, 10th Edition, the Preliminary Phase of the Architecture Development Method (ADM) has the purpose to develop an Enterprise Architecture Capability 1. An Enterprise Architecture Capability is the ability of the organization to perform the activities and tasks related to Enterprise Architecture, such as defining the scope, principles, vision, governance, and stakeholders of the architecture. The Preliminary Phase also establishes the architecture framework, the architecture repository, the architecture tools, and the architecture team 1. The other options are not correct, as they have different purposes in the ADM. Phase G: Implementation Governance has the purpose to ensure that the implementation projects conform to the target architecture 2. Phase A: Architecture Vision has the purpose to define the scope, stakeholders, business drivers, and objectives of the architecture project 3. Phase B:
Business Architecture has the purpose to describe the baseline and target business architecture, and to identify the gaps between them . References: 1: TOGAF Standard, 10th Edition, Part II: Architecture Development Method, Chapter 6: Preliminary Phase. 2: TOGAF Standard, 10th Edition, Part II: Architecture Development Method, Chapter 18: Phase G: Implementation Governance. 3: TOGAF Standard, 10th Edition, Part II: Architecture Development Method, Chapter 12: Phase A: Architecture Vision. : TOGAF Standard, 10th Edition, Part II: Architecture Development Method, Chapter 13: Phase B: Business Architecture.

質問: **42**
反復処理とADMを最もよく説明しているのは、次のうちどれですか？
A. ADMは最初のサイクル内で反復的であり、その後フェーズ間で反復的である。
B. 詳細レベルは一度定義され、すべての反復処理に適用されます。
C. ADMは逐次反復であり、各フェーズ内で反復処理が適用される。
D. ADMは、プロセス全体を通して、フェーズ間およびフェーズ内で反復的に行われます。
正解: **D (**コメントを発表する**)**
This statement best describes iteration and the ADM. The ADM is iterative over the whole process between phases and within phases because it allows for feedback loops and refinements at any point in the architecture development and transition process. Iteration enables architects to address changing requirements, assumptions, constraints, and environments; to validate and improve architectures; to manage risks and issues; and to ensure stakeholder satisfaction and value realization. Reference: The TOGAF Standard | The Open Group Website, Section 3.1 Introduction to the ADM.

質問: **43**

図を考えてみてください。



A、B、Cとラベル付けされたアイテムは何ですか？

A. A-エンタープライズ -コンティニュアム、B-アーキテクチャ -コンティニュアム、C-ソリューション -コンティニュアム

B. A-エンタープライズアーキテクチャ、B-アーキテクチャ構成要素、C-ソリューション構成要素

C. A-アーキテクチャビジョン、B-ビジネスアーキテクチャ、C-情報システムアーキテクチャ

D. A-エンタープライズ戦略アーキテクチャ、B-セグメントアーキテクチャ、C-ソリューションアーキテクチャ

正解: **(**正解を表示します**)**

The illustration shows the relationship between the Enterprise Continuum, the Architecture Continuum, and the Solutions Continuum, which are key concepts in the TOGAF framework. The Enterprise Continuum is a view of the Architecture Repository that shows how generic foundation architectures can be leveraged and specialized to support the requirements of an individual organization. The Architecture Continuum specifies a structured classification for architectural artifacts, such as models, patterns, and descriptions, that can be reused and adapted across different domains and levels of abstraction. The Solutions Continuum identifies implemented solutions that support various stages of business and IT capability evolution, such as common systems, industry solutions, and organization-specific solutions. The illustration also shows how the architecture context and requirements are influenced by external factors, such as business drivers, stakeholders, and standards, and how

they shape the generic and specific architectures and solutions. The illustration also shows how the deployed solutions become part of the architecture context for future iterations of the architecture development cycle.
References:
*TOGAF Standard, 10th Edition, Part II: Architecture Development Method, Chapter 6: Architecture Repository, Section 6.2 Enterprise Continuum.
*TOGAF Standard, 10th Edition, Part IV: Architecture Content Framework, Chapter 35: Enterprise Continuum and Tools, Section 35.1 Introduction.

質問**: 44**
展示する
アーキテクチャ開発サイクルを示す図を考えてみましょう。項目1としてラベル付けされたADMのフェーズに一致する説明はどれですか？
A. 前段階で定義されたアーキテクチャの実装計画を実施する
B. 実装のアーキテクチャ上の監督を提供する
C. アーキテクチャ要件の管理プロセスを運用する
D. 新しいアーキテクチャへの変更を管理するための手順を確立する
正解**: C (**コメントを発表する**)**
The illustration shows an architecture development cycle based on the TOGAF ADM (Architecture Development Method), which is a method for developing and managing an enterprise architecture1.
The ADM consists of nine phases, each with a specific purpose and output. The phases are1:
Preliminary Phase: To prepare and initiate the architecture development cycle, including defining the architecture framework, principles, and governance.
Phase A: Architecture Vision: To define the scope, vision, and stakeholders of the architecture initiative, and to obtain approval to proceed.
Phase B: Business Architecture: To describe the baseline and target business architecture, and to identify the gaps between them.
Phase C: Information Systems Architectures: To describe the baseline and target data and application architectures, and to identify the gaps between them.
Phase D: Technology Architecture: To describe the baseline and target technology architecture, and to identify the gaps between them.
Phase E: Opportunities and Solutions: To identify and evaluate the opportunities and solutions for implementing the target architecture, and to define the work packages and transition architectures.
Phase F: Migration Planning: To finalize the implementation and migration plan, and to ensure alignment with the enterprise portfolio and project management.
Phase G: Implementation Governance: To provide architecture oversight and guidance for the implementation projects, and to manage any architecture change requests.
Phase H: Architecture Change Management: To monitor the changes in the business and technology environment, and to assess the impact and performance of the architecture.
In addition to these phases, there is a central process called Requirements Management, which is labeled as item 1 in the illustration. This process operates throughout the ADM cycle, and its purpose is to manage the

architecture requirements throughout the architecture development, ensuring that they are aligned with the business requirements and the stakeholder concerns2.
Therefore, the description that matches the phase of the ADM labeled as item 1 is C. Operates the process of managing architecture requirements.
1: The TOGAF Standard, Version 9.2, Chapter 5: Architecture Development Method (ADM)
2: The TOGAF Standard, Version 9.2, Chapter 17: Requirements Management

質問**: 45**
以下のADMフェーズの目標を検討してください。

	Objective
1	Develop the Target Data Architecture that enables the Business Architecture and the Architecture Vision
2	Develop the Target Business Architecture that describes how the enterprise needs to operate to achieve the business goals
3	Develop a high-level aspirational vision of the capabilities and business value to be delivered as a result of the proposed Enterprise Architecture
4	Develop the Target Application Architecture that enables the Business Architecture and the Architecture Vision, in a way that addresses the Statement of Architecture Work and stakeholder concerns

mshiken.com

それぞれの目標はどのフェーズに対応しますか？
A. 1C-2B-3A-4C
B. 1A-2B-3C-4D
C. 1B-2D-3A-4C
D. 1C-2D-3B-4A
正解**: (**正解を表示します**)**
The objectives listed in the question correspond to the objectives of different phases of the TOGAF ADM (Architecture Development Method), which is a method for developing and managing an enterprise architecture1. The ADM consists of nine phases, each with a specific purpose and output. The phases are1:
Preliminary Phase: To prepare and initiate the architecture development cycle, including defining the architecture framework, principles, and governance.
Phase A: Architecture Vision: To define the scope, vision, and stakeholders of the architecture initiative, and to obtain approval to proceed.
Phase B: Business Architecture: To describe the baseline and target business architecture, and to identify the gaps between them.
Phase C: Information Systems Architectures: To describe the baseline and target data and application architectures, and to identify the gaps between them.
Phase D: Technology Architecture: To describe the baseline and target technology architecture, and to identify the gaps between them.
Phase E: Opportunities and Solutions: To identify and evaluate the opportunities and solutions for implementing the target architecture, and to define the work packages and transition architectures.

Phase F: Migration Planning: To finalize the implementation and migration plan, and to ensure alignment with the enterprise portfolio and project management.
Phase G: Implementation Governance: To provide architecture oversight and guidance for the implementation projects, and to manage any architecture change requests.
Phase H: Architecture Change Management: To monitor the changes in the business and technology environment, and to assess the impact and performance of the architecture.
Based on the above definitions, we can match each objective with the corresponding phase as follows:
Objective 1: Develop the Target Data Architecture that enables the Business Architecture and the Architecture Vision. This objective is achieved in Phase C: Information Systems Architectures, where the data architecture is defined as a subset of the information systems architecture2.
Objective 2: Develop the Target Business Architecture that describes how the enterprise needs to operate to achieve the business goals. This objective is achieved in Phase B: Business Architecture, where the business architecture is defined as a subset of the enterprise architecture3.
Objective 3: Develop a high-level aspirational vision of the capabilities and business value to be delivered as a result of the proposed Enterprise Architecture. This objective is achieved in Phase A: Architecture Vision, where the architecture vision is defined as a high-level description of the target architecture and its benefits4.
Objective 4: Develop the Target Application Architecture that enables the Business Architecture and the Architecture Vision, in a way that addresses the Statement of Architecture Work and stakeholder concerns. This objective is achieved in Phase C: Information Systems Architectures, where the application architecture is defined as a subset of the information systems architecture2.
1: The TOGAF Standard, Version 9.2, Chapter 5: Architecture Development Method (ADM)
2: The TOGAF Standard, Version 9.2, Chapter 9: Phase C: Information Systems Architectures
3: The TOGAF Standard, Version 9.2, Chapter 8: Phase B: Business Architecture
4: The TOGAF Standard, Version 9.2, Chapter 7: Phase A: Architecture Vision

質問**: 46**
ADM予備段階の目的は何ですか？
A. 提案するエンタープライズアーキテクチャによってもたらされるビジネス価値のビジョンを策定する
B. アーキテクチャ機能をサポートするツールを選定し、実装する
C. 建築設計書の承認を得るため
D. アーキテクチャロードマップの初期バージョンを作成する
正解**: (**正解を表示します**)**
The Preliminary Phase is the preparatory phase of the Architecture Development Method (ADM) cycle, which sets the context and direction for the architecture work. One of the objectives of this phase is to select and implement tools to support the Architecture Capability, which is the ability of an organization to perform enterprise architecture effectively and efficiently. Tools can include software applications, methods, techniques, standards, and frameworks that assist the architecture development and governance processes. The selection and implementation of tools should be based on the requirements and constraints of the organization, and the alignment with the Architecture Principles and the Architecture Vision3 References: 3: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: Architecture Development Method (ADM), Chapter 6: Preliminary Phase : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part VI: Architecture Capability Framework, Chapter 45: Establishing and Maintaining an

Enterprise Architecture Capability : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part VI: Architecture Capability Framework, Chapter 46: Tools for Architecture Development

有効的な**OGEA-103-JPN**問題集はJPNTest.com提供され、**OGEA-103-JPN**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**OGEA-103-JPN**試験問題集を提供します。JPNTest.com OGEA-103-JPN試験問題集はもう更新されました。ここで**OGEA-103-JPN**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、https://www.jpntest.com/shiken/OGEA-103-JPN-mondaishu **199**問、３０%ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: **47**
ビジネスシナリオの目的を最もよく表しているのは、次のうちどれですか？
A. 建築プロジェクト実施時のリスクを特定する
B. 要件を特定し理解する
C. プロジェクトアーキテクチャのエラーを早期に発見する
D. 企業全体の意思決定を導く
正解: **B** (コメントを発表する)
Business scenarios are a technique for capturing, clarifying, and communicating the functional and non- functional requirements of a system. Business scenarios describe the business environment, the actors involved, the desired outcomes, and the processes or rules that govern the behavior of the system. Business scenarios are useful for ensuring that the architecture addresses the real needs and concerns of the stakeholders, and for validating and testing the architecture against expected situations. Business scenarios are developed in Phase A: Architecture Vision of the ADM cycle, and refined and updated throughout the other phases3 References: 3: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 26: Business Scenarios : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: Architecture Development Method (ADM), Chapter 18: Phase A: Architecture Vision

質問: **48**
利害関係者のニーズを満たすように処理できるよう、建築情報を秩序立てて構造化するために使用されるものは何ですか？
A. ステークホルダーマップ
B. アーキテクチャフレームワーク
C. コンテンツメタモデル
D. EAライブラリ
正解: **B** (コメントを発表する)
A content metamodel is a formal structure that defines the types of entities and relationships that are used to capture, store, filter, query, and represent architectural information in a way that supports consistency, completeness, and traceability12.

A stakeholder map is a tool that identifies and analyzes the key stakeholders and their interests, influence, and expectations in relation to the architecture3. It is not used to structure architectural information, but rather to understand the stakeholder needs and concerns.
An architecture framework is a set of principles, guidelines, standards, and tools that provide a common structure and methodology for developing architectures4. It is not used to structure architectural information, but rather to guide the architecture development process and ensure alignment with the business strategy and objectives.
An EA library is a repository that stores and manages the architecture artifacts, deliverables, and other relevant information produced and consumed during the architecture development and governance. It is not used to structure architectural information, but rather to provide access, security, and version control for the architecture content.
1: The TOGAF Standard, Version 9.2 - Content Metamodel 2: TOGAF 9.2 Content Metamodel Framework - A Quick Guide - KnowledgeHut 3: The TOGAF Standard, Version 9.2 - Stakeholder Management 4: The TOGAF Standard, Version 9.2 - Architecture Framework : The TOGAF Standard, Version 9.2 - Architecture Repository

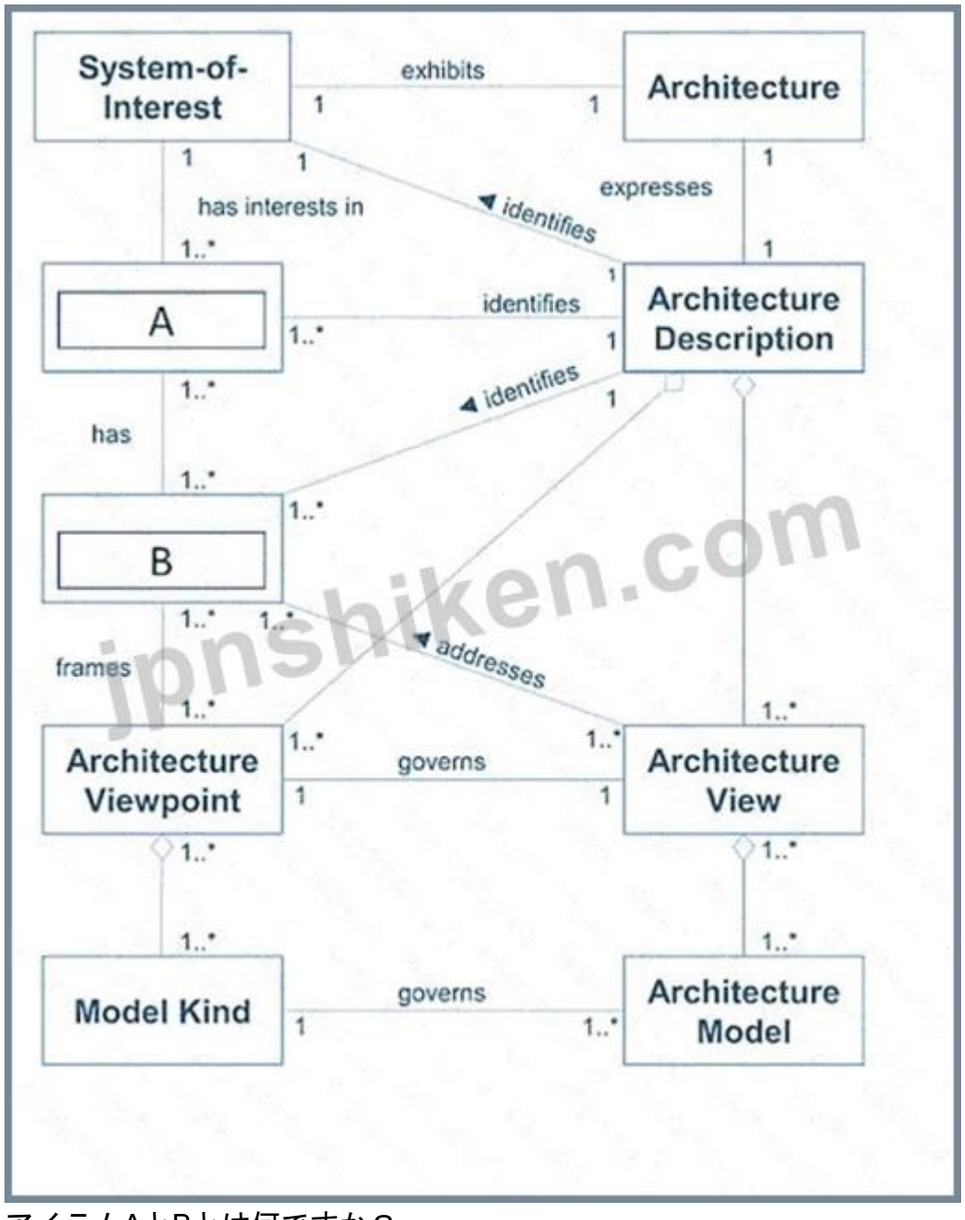
質問**: 49**
文を完成させてください。アジャイル開発を検討する際、ポートフォリオをサポートするアーキテクチャは、企業が必要とする製品、製品の境界、および製品オーナーが持つ制約を特定します。これは、企業の
A. リスク許容度
B. 事業継続
C. バックログ
D. 動作モデル
正解**: (**正解を表示します**)**
When considering agile development, Architecture to Support Portfolio will identify the necessary products for the enterprise, define their boundaries, and outline the constraints for a product owner. This process directly relates to defining the enterprise ' s backlog, which in agile methodologies, is a prioritized list of work for the development team that is derived from the roadmap and its requirements.

質問**: 50**
_____は、実装段階に移行するプロジェクトが、適切なアーキテクチャガバナンスにもスムーズに移行することを保証します。
A. 移行計画
B. 移行計画
C. 実施ガバナンスモデル
D. 実施戦略
正解**: (**正解を表示します**)**
The Implementation Governance Model is a framework that defines the roles, responsibilities, processes, and standards for governing the implementation of the target architecture. It ensuresthat a project transitioning into implementation also smoothly transitions into appropriate Architecture Governance, which is the practice of ensuring compliance with the enterprise architecture and its principles, standards, and goals. The Implementation Governance Model is part of the Implementation and Migration Plan, which is the output of Phase F: Migration

Planning of the Architecture Development Method (ADM)12 References: 1: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: Architecture Development Method (ADM), Chapter 21: Phase F: Migration Planning 2: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part VI: Architecture Capability Framework, Chapter 50:
Architecture Governance

質問: **51**
文を完成させなさい。ギャップ分析手法の目的は_____です。
A. アーキテクチャの品質指標を確立する
B. アーキテクチャの非機能要件を特定する
C. アーキテクチャのサービスレベルを決定する
D. アーキテクチャを検証する
正解: **(**正解を表示します**)**
Comprehensive and Detailed Explanation
Gap Analysis is an ADM technique used in Phases B, C, and D of the TOGAF ADM (Business, Information Systems, and Technology Architectures).
Its main purpose is to validate the target architecture by comparing the Baseline Architecture with the Target Architecture and identifying:
* Gaps (building blocks or capabilities present in the target but missing in the baseline).
* Overlaps (building blocks duplicated across architectures).
* Conflicts (inconsistencies between baseline and target).
The output of Gap Analysis provides:
* A validated Target Architecture.
* A set of identified gaps that must be addressed by future work packages in Phase E: Opportunities and Solutions.
Therefore, the purpose of Gap Analysis is best expressed as to validate the architecture (Answer D).
Why the other options are incorrect
* A. Establish quality metrics for the architecture: This is part of performance management and governance, not Gap Analysis.
* B. Identify non-functional requirements: Non-functional requirements are captured through requirements management and stakeholder analysis, not Gap Analysis.
* C. Determine service levels: Service levels are typically defined in SLAs and operational models, not through Gap Analysis.
References
* The Open Group, TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines & Techniques - Gap Analysis.
* The Open Group, TOGAF 9 Certified Study Guide - explains the role of Gap Analysis in validating architectures and identifying work package inputs.

質問: **52**
基本的な建築概念を示す図を考えてみましょう。



アイテムAとBとは何ですか？

A. A-建築視点、B-建築視点

B. A-アーキテクチャボード、B-アーキテクチャ機能

C. A-候補アーキテクチャ、B-トレードオフ

D. A-要件、B-候補アーキテクチャ

正解: **(**正解を表示します**)**

The image shows a diagram that illustrates the basic concepts of architecture description as defined by the ISO /IEC/IEEE 42010:2011 standard1, which is also adopted by the TOGAF standard2.

According to the ISO/IEC/IEEE 42010:2011 standard, an architecture description is a work product used to express an architecture, and it consists of one or more architecture views1.

An architecture view is a representation of a system from the perspective of a related set of concerns, and it conforms to an architecture viewpoint1.

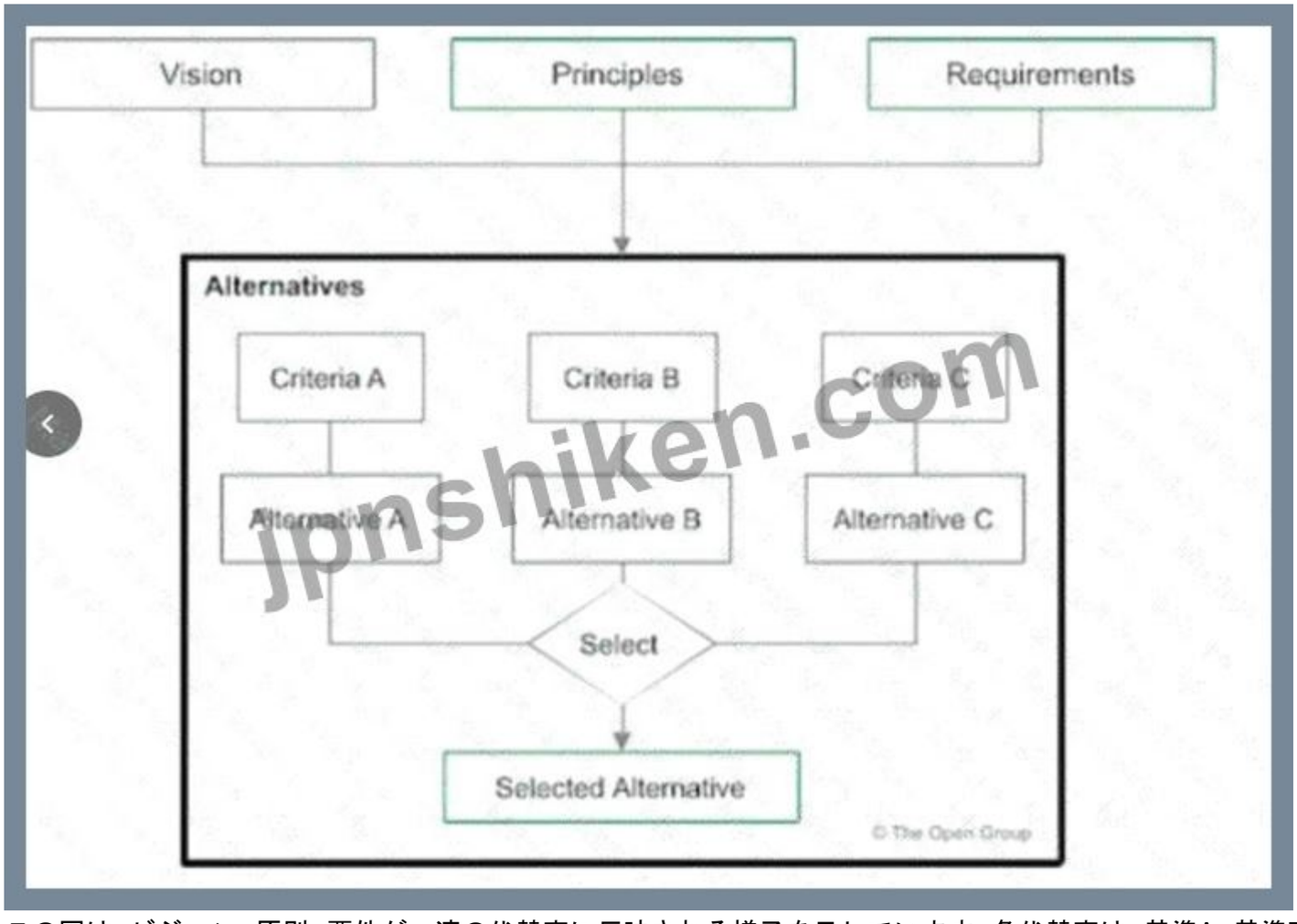
An architecture viewpoint is a specification of the conventions for constructing and using an architecture view to address specific stakeholder concerns1.
Therefore, the correct answer is option A, which identifies the items labeled as "A" and "B" in the image as an architecture viewpoint and an architecture view, respectively. References:
1: ISO/IEC/IEEE 42010:2011 - Systems and software engineering - Architecture description1
2: TOGAF Standard, Version 9.2 - Part IV: Architecture Content Framework - 31. Architectural Artifacts2

質問**: 53**
アジャイル開発を検討する際には、プロジェクトをサポートするアーキテクチャによって、企業が必要とする製品、製品の境界、および製品オーナーが持つ制約が特定されます。
これは企業の_____を定義します。
A. 操作
B. バックログ
C. ワークフロー管理
D. ライフサイクル経済学
正解**: (**正解を表示します**)**
When considering agile development, Architecture to Support Project will identify what products the enterprise needs, the boundary of the products, and what constraints a product owner has. This defines the enterprise's backlog. A backlog is a list of features or tasks that need to be done to deliver a product or service. It is prioritized by the product owner based on the value and urgency of each item. Reference: The TOGAF Standard | The Open Group Website, Section 3.3.5 Architecture to Support Project.

質問**: 54**
以下のうち、ビジネスシナリオを最もよく表しているのはどれですか？
A. 望ましい結果とともに提示されるビジネス上の問題。
B. ビジネスモデル開発のユースケース。
C. 変化への準備状況を定量化する方法。
D. ベースラインアーキテクチャとターゲットアーキテクチャの違いを特定する手法。
正解**: A (**コメントを発表する**)**
Comprehensive and Detailed Explanation From documents:
In TOGAF, a Business Scenario is an ADM technique used to capture and structure business requirements in a way that directly informs the development and validation of architectures. It frames a specific business problem (or opportunity) and articulates the desired outcomes/objectives, along with the business and technical context, the involved actors and roles (human and system), and the measures of success. This makes option A correct because it concisely captures the essence of a Business Scenario: a well-defined business problem coupled with the outcomes the business seeks to achieve.
A good Business Scenario typically includes:
The business problem/opportunity and drivers.
The business and technical environment/context in which the problem exists.
The desired outcomes/objectives and measures of success (how success will be recognized).

Actors and roles (both human and system) and their interactions.
Capabilities and high-level requirements implied by the scenario.
Business Scenarios are especially valuable in Phase A: Architecture Vision to validate scope, objectives, and business value, and they continue to be used throughout Phases B-D to test and validate the target architectures and to maintain requirements traceability via Requirements Management. They promote shared understanding among stakeholders and provide a concrete basis for evaluating solution options and assessing architecture fitness-for-purpose.
Why the other options are incorrect:
B). A use-case for developing a business model. While Business Scenarios and use-cases are related, a Business Scenario is broader. It provides context, problem, objectives, and measures of success; use-cases are often derived from or complement Business Scenarios to specify interactions, but a Business Scenario is not merely a use-case.
C). A method to quantify readiness for change. This describes Business Transformation Readiness Assessment, a separate TOGAF technique used to gauge an organization's readiness to execute change. It is not what TOGAF defines as a Business Scenario.
D). A technique to identify differences between a baseline and a target architecture. That is Gap Analysis, another distinct ADM technique used to determine what needs to change to move from the current state to the desired future state.
References (official TOGAF materials; no links):
The Open Group, TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines & Techniques - Business Scenarios; also Requirements Management, and Phase A: Architecture Vision (Part II) for where Business Scenarios are applied.
The Open Group, TOGAF Series Guide: Business Scenarios - definition, structure, and usage of Business Scenarios across the ADM.
The Open Group, TOGAF 9 Foundation Study Guide (latest edition) - coverage of Business Scenarios as an ADM technique and their relationship to use-cases.
The Open Group, TOGAF 9 Certified Study Guide (latest edition) - contrasts with related techniques (Gap Analysis; Business Transformation Readiness Assessment) and explains use within Phase A and Requirements Management.==========

質問**: 55**
質問全文：
TOGAF標準の図を参考にしてください。



jpnshiken.com

この図は、ビジョン、原則、要件が一連の代替案に反映される様子を示しています。各代替案は、基準A、基準B、基準Cに基づいて評価されます。その後、選択ステップが実行され、選択された代替案が決定されます。
これは何を示しているのでしょうか？

A. 反復
B. ビジネスシナリオ法
C. アーキテクチャ分割
D. アーキテクチャトレードオフ法

正解: **D (**コメントを発表する**)**

Comprehensive and Detailed Explanation From Exact Extract (150-250 words):

The graphic illustrates the Architecture Trade-off method , one of the ADM Guidelines and Techniques defined in the TOGAF Standard. The purpose of this method is to evaluate multiple candidate architecture alternatives against a defined set of criteria that are derived from the Architecture Vision , Architecture Principles , and Architecture Requirements . Rather than selecting a solution immediately, architects compare the alternatives, assess their strengths and weaknesses, and identify the option that provides the best overall balance between business value, cost, risk, complexity, stakeholder concerns, and architectural compliance.

The diagram exactly reflects the TOGAF trade-off process. Vision, Principles, and Requirements provide the evaluation context. Multiple alternatives are then assessed using defined criteria before a single preferred

alternative is selected. This structured decision-making process helps architects justify architectural decisions and resolve conflicting stakeholder concerns through objective comparison rather than subjective preference.
The other options do not match the diagram. Iteration refers to repeating ADM activities. The Business Scenario method is used to discover and validate business requirements. Architecture Partitioning is used to divide Enterprise Architecture into manageable sections for ownership and governance. None of these techniques involve evaluating competing architecture alternatives against selection criteria.
Therefore, according to the TOGAF Standard, the correct answer is D. The Architecture Trade-off method .

質問: **56**
エンタープライズアーキテクチャ機能の構築は、ADMのどのフェーズに含まれますか？
A. フェーズA
B. H相
C. フェーズG
D. 予備段階
正解: **(**正解を表示します**)**
The Preliminary Phase is the phase in TOGAF where an organization establishes or enhances its Enterprise Architecture Capability. This includes defining governance structures, roles, responsibilities, processes, tools, and architectural principles. The objective is to prepare the organization to successfully execute the ADM.
Phase A focuses on Architecture Vision for a specific initiative, not on creating the overall EA capability.
Phase G deals with implementation governance, and Phase H focuses on architecture change management.
None of these phases are responsible for establishing the EA practice itself.
The Preliminary Phase answers foundational questions such as how architecture will be governed, who owns architecture decisions, how compliance will be enforced, and how architecture work will be integrated with other organizational processes. Therefore, creation of an Enterprise Architecture Capability clearly belongs to the Preliminary Phase.

質問: **57**
アーキテクチャリポジトリにおいて、「アーキテクチャ機能」と呼ばれる情報クラスにはどのようなものが含まれますか？
A. リポジトリのガバナンスをサポートするためのパラメータ、構造、およびプロセス。
B. 組織固有のアーキテクチャフレームワーク。アーキテクチャ開発手法とアーキテクチャコンテンツのメタモデルを含む。
C. 企業全体のガバナンス活動の記録。
D. 新しいアーキテクチャを作成するために使用されるパターン、テンプレート、およびガイドライン。
正解: **A (**コメントを発表する**)**
Comprehensive and Detailed Explanation From documents:
The Architecture Repository in TOGAF provides a structured model for storing architectural output. It contains six classes of architectural information:
Architecture Metamodel - defines the structure of architectural content and relationships.

Architecture Capability - contains parameters, structures, and processes supporting the governance of the repository and the Architecture Board.
Architecture Landscape - architectural views at different levels (Strategic, Segment, Capability).
Standards Information Base (SIB) - standards to guide architecture development and solution building.
Reference Library - reference materials such as patterns, templates, guidelines.
Governance Log - record of governance activity, compliance assessments, waivers, and approvals.
Focusing on Architecture Capability:
Defined by TOGAF as: "The parameters, structures, and processes that support governance of the Architecture Repository." It provides the framework for ensuring that the repository is managed, controlled, and aligned with the enterprise's architecture governance practices.
It includes organizational roles, responsibilities, and processes that ensure architecture practices are sustainable and repeatable.
Why the other options are incorrect:
B). This describes the Architecture Metamodel, not Architecture Capability.
C). This describes the Governance Log, which holds the record of governance activity.
D). This describes the Reference Library, which contains patterns, templates, and guidelines.
References (official TOGAF materials, no links):
The Open Group, TOGAF Standard, Version 9.2, Part V: Enterprise Continuum and Tools - Architecture Repository.
The Open Group, TOGAF 9 Certified Study Guide - detailed breakdown of the six classes in the Architecture Repository and their purpose.

質問**: 58**
企業全体レベルでエンタープライズアーキテクチャを管理 ·制御する方法について、以下のうちどれが正しいでしょうか？
A. コーポレートガバナンス
B. アーキテクチャガバナンス
C. ITガバナンス
D. テクノロジーガバナンス
正解**: (**正解を表示します**)**
According to the TOGAF Standard, 10th Edition, architecture governance is "the practice by which enterprise architectures and other architectures are managed and controlled at an enterprise-wide level" 1. Architecture governance ensures that the architecture development and implementation are aligned with the strategic objectives, principles, standards, and requirements of the enterprise, and that they deliver the expected value and outcomes. Architecture governance also involves establishing and maintaining the architecture framework, repository, board, contracts, and compliance reviews 1. The other options are not correct, as they are not the term used by the TOGAF Standard to describe the practice by which the enterprise architecture is managed and controlled at an enterprise-wide level. Corporate governance is "the system by which an organization is directed and controlled" 2, and it covers aspects such as leadership, strategy, performance, accountability, and ethics. IT governance is "the system by which the current and future use of IT is directed and controlled" 2, and it covers aspects such as IT strategy, policies, standards, and services. Technology governance is "the system by which the

technology decisions and investments are directed and controlled" 3, and it covers aspects such as technology selection, acquisition, deployment, and maintenance. References: 1:
TOGAF Standard, 10th Edition, Part VI: Architecture Governance, Chapter 44: Introduction. 2: TOGAF Standard, 10th Edition, Part I: Introduction, Chapter 3: Definitions. 3: TOGAF Series Guide: Using the TOGAF Framework to Define and Govern Service-Oriented Architectures, Part II: Using the TOGAF Framework to Define and Govern Service-Oriented Architectures, Chapter 5: Technology Governance.

質問**: 59**
TOGAFのアーキテクチャ原則テンプレートのどのセクションで、他の原則との関係性を説明すべきでしょうか？
A. 名前
B. 根拠
C. 声明
D. その意味合い
正解**: (**正解を表示します**)**
According to the TOGAF template for Architecture Principles, the Rationale section should describe the relationship to other principles, as well as the business benefits and the intentions of adhering to the principle. The Rationale section should use business terminology and point to the similarity of information and technology principles to the principles governing business operations. The Rationale section should also explain how the principle supports the achievement of the business objectives and key architecture drivers. References:
Architecture Principles Template
The TOGAF Standard, Version 9.2 - Architecture Principles
The Open Group Exam OGEA-103 Topic 1 Question 4 Discussion

質問**: 60**
文を完成させてください。_____ は、汎用的なソリューションを組織のニーズに合わせて活用し、特化させる方法を説明するために使用できます。
A. アーキテクチャリポジトリ
B. ソリューションの展望
C. TOGAF ADM
D. エンタープライズ ･コンティニュアム
正解**: (**正解を表示します**)**
Comprehensive and Detailed In-Depth Explanation from Expert in Enterprise Architecture, guiding in TOGAF and ArchiMate:
The Enterprise Continuum is a TOGAF concept that provides a logical classification mechanism for architecture and solution assets, ranging from:
Generic, industry-wide solutions
To organization-specific architectures and implementations
It explains:
How generic architectures and solutions are adapted, specialized, and reused The relationship between Foundation, Common Systems, Industry, and Organization-Specific assets Why Option D is correct:

The Enterprise Continuum explicitly describes how generic solutions are leveraged and specialized to meet enterprise-specific needs.
Why the other options are incorrect:
A). Architecture Repository: Stores assets but does not explain specialization.
B). Solutions Landscape: Describes deployed solutions, not classification or specialization.
C). TOGAF ADM: A development method, not a classification concept.

質問**: 61**
以下の活動は、何の一部ですか？
リスク分類
リスクの特定
初期リスク評価
A. セキュリティアーキテクチャ
B. フェーズA
C. フェーズG
D. リスクマネジメント
正解**: (**正解を表示します**)**
Risk management is a generic technique that can be applied across all phases of the Architecture Development Method (ADM), as well as in the Preliminary Phase and the Requirements Management Phase2.
Risk management involves the following steps1:
*Risk identification: This step involves identifying the potential risks that may affect the architecture project, such as technical, business, organizational, environmental, or legal risks. The risks can be identified through various sources, such as stakeholder interviews, workshops, surveys, checklists, historical data, or expert judgment.
*Risk classification: This step involves categorizing the risks based on their nature, source, impact, and priority. The risks can be classified according to different criteria, such as time, cost, scope, quality, security, or compliance. The classification helps in prioritizing the risks and allocating resources and efforts to address them effectively.
*Initial risk assessment: This step involves assessing the likelihood and impact of each risk, and determining the initial level of risk. The likelihood is the probability of the risk occurring, and the impact is the severity of the consequences if the risk occurs. The initial level of risk is the product of the likelihood and impact, and it indicates the urgency and importance of the risk. The initial risk assessment helps in identifying the most critical risks that need immediate attention and mitigation.
References: 1: The TOGAF Standard, Version 9.2 - Risk Management 2: TOGAF ADM: Top 10 techniques - Part 9: Risk Management

有効的な**OGEA-103-JPN**問題集はJPNTest.com提供され、**OGEA-103-JPN**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**OGEA-103-JPN**試験問題集を提供します。JPNTest.com OGEA-103-JPN試験問題集はもう更新されました。ここで**OGEA-103-JPN**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセ

ス、https://www.jpntest.com/shiken/OGEA-103-JPN-mondaishu　199問、３０%ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: **62**
シナリオ
あなたはテクノロジー企業において、チーフエンタープライズアーキテクトに直属するエンタープライズアーキテクトの役割を担います。
同社は、エンタープライズアーキテクチャ(EA)の実践における方法論および指針となるフレームワークとして、TOGAF標準を採用しています。最高技術責任者(CTO)がこの活動のスポンサーを務めています。EAの実践では、アーキテクチャ開発に反復的なアプローチを採用しています。これにより、意思決定者はビジネスのさまざまな側面について貴重な洞察を得ることができています。
事業の性質上、社内システムに保存されているデータや情報は会社の主要資産であり、極めて機密性の高いものです。社員は業務で頻繁に出張し、公共インフラを介して通信する必要があります。そのため、メッセージの暗号化、仮想プライベートネットワーク(VPN)を使用した安全なインターネット接続、その他の標準的なセキュリティ対策を実施しています。また、全社員に対しコンピュータセキュリティに関する意識向上トレーニングを実施しています。しかしながら、十分な教育とシステムセキュリティ対策を講じているにもかかわらず、インフラやソフトウェアに関しては依然としてサードパーティのサプライヤーに頼らざるを得ない状況です。
最高セキュリティ責任者(CSO)は、同様の企業を標的としたランサムウェア(身代金要求に使用される悪意のあるソフトウェア)攻撃の増加を指摘しています。CSOは、教育やサポートにどれだけ費用をかけても、企業が重大な攻撃の被害に遭い、重要なデータへのアクセスを完全に失う可能性があることを認識しています。
リスク評価は完了し、会社はランサムウェアをカバーするサイバー保険を探しました。しかし、この保険の価格は非常に高額です。CTOは最近、身代金を支払った企業の4社に1社がデータを取り戻せず、ほぼ同数の企業が身代金を支払わずにデータを復旧できたという調査結果を目にしました。そのため、CTOは身代金支払いをカバーするサイバー保険に加入しないことを決定しました。
データ保護を向上させるために、現在のアーキテクチャを強化するためにどのような手順を踏むかを説明するよう求められています。
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. 貴社は、現在のエンタープライズアーキテクチャに対する変更を管理するための最新のプロセスが社内に整備されていることを確認します。提起された懸念事項の範囲に基づき、インフラストラクチャレベルでの管理を推奨します。変更は、テクノロジーアーキテクチャのベースライン記述に対して行う必要があります。変更は、アーキテクチャ委員会の承認を得て、変更管理手法を用いて実施する必要があります。
B. ランサムウェア攻撃への対応能力を検証する範囲で、アーキテクチャコンプライアンスレビューを依頼します。関係部署を特定し、各部署から代表者を指名してもらいます。次に、回復力強化の要件に対応するチェックリストを作成します。指名された代表者にチェックリストを配布し、記入してもらいます。記入済みのチェックリストを確認し、問題点を特定して解決します。最後に、推奨事項を決定し、提示します。
C. 既存のサプライヤーから提供される、ITセキュリティインシデントの検知、対応、復旧能力を向上させる可能性のある技術アップデートを監視します。ランサムウェア攻撃に対する災害復旧計画演習を準備・実行し、現在のエンタープライズアーキテクチャのパフォーマンスを分析します。分析結果に基づいて、現在のエンタープライズ

アーキテクチャのギャップ分析を作成します。特定されたギャップに対処するための変更要求を作成します。実装された変更をアーキテクチャリポジトリに追加します。
D. 事業継続要件を評価し、現在のエンタープライズアーキテクチャのギャップを分析します。状況に対処するための変更を提案し、変更要求を作成します。アーキテクチャ委員会に依頼して、変更要求を評価および承認してもらいます。承認後、新しいアーキテクチャ作業依頼を作成し、変更を実装するためのADMサイクルを開始します。
正解: (正解を表示します)
Comprehensive and Detailed Step-by-Step Explanation
Context of the Scenario
The scenario highlights significant risks due to ransomware attacks and the need to strengthen the company's Enterprise Architecture to improve data protection and resilience. TOGAF emphasizes the Architecture Compliance Review as a mechanism for ensuring the architecturemeets its objectives and addresses specific concerns such as security, resilience, and compliance with organizational goals.
The organization has already conducted a risk assessment but requires actionable steps to:
Address ransomware attack risks.
Increase the resilience of the Technology Architecture.
Ensure proper alignment with governance and compliance frameworks.
Option Analysis
Option A:
Strengths:
Highlights the need for up-to-date processes for managing changes in the Enterprise Architecture.
Recognizes the importance of governance through the Architecture Board and change management techniques.
Weaknesses:
The approach focuses solely on the Technology Architecture baseline but does not address the need for specific steps such as compliance review, gap analysis, or tailored resilience measures for ransomware risks.
It provides a broad and generic approach rather than a targeted plan for ransomware and data protection issues.
Conclusion: Incorrect. While it adheres to governance processes, it lacks specific actions to improve resilience and address the immediate security concerns.
Option B:
Strengths:
Proposes an Architecture Compliance Review, which is a core TOGAF process used to evaluate architecture implementation against defined objectives, ensuring it is fit for purpose.
Involves identifying stakeholders (departments) and tailoring checklists specific to ransomware resilience.
Emphasizes issue identification and resolution through structured review processes.
Weaknesses:
Does not explicitly address longer-term updates to the Enterprise Architecture, but this can be inferred as a next step following compliance recommendations.
Conclusion: Correct. This is the most suitable approach based on TOGAF principles, as it uses an established process to evaluate and improve the architecture's resilience.
Option C:
Strengths:

Includes monitoring for updates from suppliers to enhance detection and recovery capabilities, which is relevant to addressing ransomware risks.
Proposes a gap analysis to identify shortcomings in the current Enterprise Architecture and recommends addressing gaps through change requests.
Incorporates disaster recovery planning exercises, which are useful for testing resilience.
Weaknesses:
While thorough, the approach lacks the Architecture Compliance Review process, which is a more structured way to ensure the architecture meets resilience requirements.
Monitoring suppliers and running disaster recovery exercises are operational steps rather than strategic architectural improvements.
Conclusion: Incorrect. While it includes valid activities, it does not adhere to TOGAF's structured approach for architecture assessment and compliance.
Option D:
Strengths:
Proposes analyzing business continuity requirements and assessing the architecture for gaps, which is relevant to the scenario.
Suggests initiating an ADM cycle to address gaps, which aligns with TOGAF principles.
Weaknesses:
Focusing on initiating a new ADM cycle may be premature, as the immediate priority is to evaluate the existing architecture and address specific resilience concerns.
Does not mention compliance review or tailored resilience measures for ransomware attacks, which are central to the scenario.
Conclusion: Incorrect. It proposes a broader approach that may not adequately address the immediate concerns highlighted by the CSO.
TOGAF References
Architecture Compliance Review: A structured process used to evaluate whether an architecture meets the stated goals, objectives, and requirements (TOGAF 9.2, Chapter 19). It is particularly useful for identifying and addressing resilience requirements in scenarios involving security risks.
Stakeholder Engagement: Identifying and involving stakeholders (e.g., departments) is a critical part of architecture governance and compliance review (TOGAF 9.2, Section 24.2).
Change Management: The Architecture Compliance Review supports identifying necessary changes, which are then managed through governance and change management processes (TOGAF 9.2, Section 21.6).
By choosing Option B, you align with TOGAF's structured approach to compliance, resilience, and addressing security concerns.

質問**: 63**
質問全文：
意思決定プロセスにおいて、リスク評価とリスク分析の概念を適用した例として、次のうちどれが適切でしょうか？
A. リスクマネジメント
B. セキュリティアーキテクチャ

C. セキュリティガバナンス
D. 情報セキュリティ管理
正解: **(**正解を表示します**)**
Risk assessment and risk analysis are fundamental activities within Risk Management . TOGAF applies these concepts to support architecture and implementation decision-making by identifying risks, evaluating their likelihood and impact, determining priorities, and selecting appropriate treatments or mitigation strategies. Risk Management enables stakeholders to understand uncertainty and make informed architecture decisions throughout the ADM lifecycle. While security-related disciplines also perform risk assessments, the TOGAF definition in this question specifically refers to Risk Management .
Therefore, the correct answer is A .

質問: **64**
質問に答える前に、このシナリオをお読みください。
あなたは、レストランやその他の食品小売業者など、卸売業者への販売を専門とする大手食品サービス会社のチーフ ･エンタープライズ ･アーキテクトです。
御社の競合他社が革新的な製品シリーズを発売し、非常に積極的なマーケティングキャンペーンを展開しています。御社の販売代理店は次々と御社の製品には興味がなく、競合他社の製品を販売すると表明しています。
CEOは、この状況に対処するためには抜本的な改革が必要だと述べている。同社製品の新たな市場を開拓する必要があり、事業の方向転換を図り、既存の卸売市場だけでなく小売市場にも注力する必要があると明言している。
検討すべき点の一つは、企業が事業モデルを変更する能力と意欲、そしてそれが一時的な変更なのか恒久的な変更なのかという点です。さらに、企業文化もリスク要因の一つとなります。同社は、比較的知名度が高く安定した顧客基盤を持つ、地域特有の慣習や理解に基づいた事業運営に慣れてきました。
CEOは社内のEAプログラムのスポンサーです。あなたは営業、物流、生産、マーケティングチームと連携し、アーキテクチャ活動を開始できるようにしました。アーキテクチャビジョン、アーキテクチャ原則、要件はすべて合意済みです。ターゲットアーキテクチャの開発を進める中で、主要なステークホルダーの好みがいくつか相容れないことが判明しました。相容れない点は主に市場投入までの時間、コスト削減、フル機能の製品群をリリースする必要性に関するものですが、他にも要因があります。
シナリオを参照してください
あなたは、主要な利害関係者の嗜好の不一致にどのように対処するかを問われています。
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. ステークホルダーの価値観や優先順位を理解することに努めます。現状と代替案とのギャップを明確にした、代替のターゲットアーキテクチャを開発します。ステークホルダーと協力して、1つまたは複数の代替案の機能を組み合わせることを検討します。
その後、正式な利害関係者レビューを実施し、どの代替案が目的に適しており、実行に移すべきかを決定する必要があります。そして、必要な資金を確保します。
B. CEOが会社の方向転換が必要だと述べているため、市場投入までの時間よりも製品ラインナップの充実度で妥協する方が良いと提案します。提案されたアプローチの妥当性を示すために、ターゲットアーキテクチャは必要最低限の範囲で開発します。説明は、現在のベースラインとのギャップがある部分のみに限定します。ターゲットアーキテクチャの詳細な開発を進めるにあたり、関係者の承認を得ます。

C. アーキテクチャのビジョン、原則、要件を使用して、代替案の基準を定義し、代替案のターゲットアーキテクチャの影響を示すアーキテクチャビューを作成します。計画中のプロジェクトへの影響を特定します。代替案の長所と短所を理解します。正式なステークホルダーレビューを実施して、どの代替案を進めるかを決定します。必要な資金を決定します。
D. ステークホルダーマップを確認し、すべての部門長の懸念事項に対処し、それらを反映させたことを確認します。不整合の解決に彼らを参加させます。コミュニケーションプランには、アーキテクチャの主要な機能と、ステークホルダーの要求を反映するために不整合がどのように解決されたかをまとめたレポートを含める必要があります。各主要ステークホルダーに、不整合の解決方法に満足しているかどうかを確認します。
正解**: (**正解を表示します**)**
According to the TOGAF standard, the Target Architecture is the description of a future state of the architecture being developed for an organization. It should be aligned with the Architecture Vision, Principles, and Requirements that have been agreed with the stakeholders. To address the incompatibilities between key stakeholder preferences, the TOGAF standard recommends creating and evaluating multiple alternative Target Architectures that meet different sets of criteria. These criteria should reflect the value preferences and priorities of the stakeholders, as well as the business drivers and objectives. The alternative Target Architectures should be illustrated using a set of architecture views that show the impact of each alternative on the business, data, application, and technology domains. The impact on planned projects should also be identified and analyzed. The strengths and weaknesses of each alternative should be understood and documented. A formal stakeholder review should then be conducted to decide which alternative is the most fit for purpose and should be moved forward with. The funding required for implementing the chosen alternative should also be determined and secured. References:
The TOGAF Standard, Version 9.2 - Phase B: Business Architecture - The Open Group The TOGAF Standard, Version 9.2 - Phase C: Information Systems Architectures - The Open Group
[The TOGAF Standard, Version 9.2 - Phase D: Technology Architecture - The Open Group]
[The TOGAF Standard, Version 9.2 - Phase E: Opportunities and Solutions - The Open Group]
[The TOGAF Standard, Version 9.2 - Phase F: Migration Planning - The Open Group]

質問**: 65**
質問に答える前に、このシナリオをお読みください。
あなたはテクノロジー企業でエンタープライズアーキテクトとして勤務しており、チーフエンタープライズアーキテクトに直属しています。同社は、エンタープライズアーキテクチャ(EA)の実践における方法論および指針となるフレームワークとして、TOGAF標準を採用しています。
事業の性質上、社内システムに保存されているデータや情報は会社の主要資産であり、極めて機密性の高いものです。社員は業務で頻繁に出張し、公共インフラを介して通信する必要があります。そのため、メッセージの暗号化、仮想プライベートネットワーク(VPN)を使用した安全なインターネット接続、その他の標準的なセキュリティ対策を実施しています。また、全社員に対しコンピュータセキュリティに関する意識向上トレーニングを実施しています。しかしながら、十分な教育とシステムセキュリティ対策を講じているにもかかわらず、インフラやソフトウェアに関しては依然としてサードパーティのサプライヤーに頼らざるを得ない状況です。

最高セキュリティ責任者(CSO)は、同様の企業を標的としたランサムウェア(身代金要求に使用される悪意のあるソフトウェア)攻撃の増加を指摘しています。CSOは、教育やサポートにどれだけ費用をかけても、企業が重大な攻撃の被害に遭い、重要なデータへのアクセスを完全に失う可能性があることを認識しています。
リスク評価が完了し、ランサムウェアを補償するサイバー保険を探しましたが、保険料が非常に高額でした。CTOは最近、身代金を支払った企業の4社に1社はデータを取り戻せず、ほぼ同数の企業が身代金を支払わずにデータを復旧できたという調査結果を目にしました。そのため、CTOは身代金支払いを補償するサイバー保険に加入しないことを決定しました。
最高技術責任者(CTO)は、EAプロジェクトのスポンサーです。このプロジェクトでは、アーキテクチャ開発に反復的なアプローチを採用しています。これにより、意思決定者はビジネスのさまざまな側面について貴重な洞察を得ることができました。
シナリオを参照してください
データ保護を向上させるために、現在のアーキテクチャを強化するためにどのような手順を踏むかを説明するよう求められています。
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. 主要なステークホルダーが事業継続対策のビジネス価値とコストを理解していることを確認し、企業が現在のエンタープライズアーキテクチャへの変更を管理するための最新のプロセスを導入していることを確認します。ランサムウェア攻撃への対策は、インフラストラクチャレベルで特定の技術制御を用いて対処することを推奨します。技術アーキテクチャのベースライン記述に変更を加える必要があります。これらの変更はアーキテクチャ委員会によって承認され、変更要求が承認される必要があります。
B. ランサムウェア攻撃への対応能力を検証する範囲で、アーキテクチャコンプライアンスレビューを実施します。関係部署を特定し、各部署から代表者を指名してもらいます。次に、事業継続性と回復力の向上という要件に対応するため、チェックリストを作成します。指名された代表者にチェックリストを配布し、記入してもらいます。記入済みのチェックリストをレビューし、問題点を特定して解決します。最後に、推奨事項を決定し、提示します。
C. 事業継続要件を特定し、現在のエンタープライズアーキテクチャのギャップを分析するためにアセスメントを実施します。このような攻撃を軽減するための変更に対応するアーキテクチャ作業の次のサイクルを開始するために、変更要求を作成します。アーキテクチャ委員会の会議を手配し、変更要求を評価および承認します。承認されたら、変更を実装するためのADMサイクルを開始するために、新しいアーキテクチャ作業要求を作成します。
D. 既存のサプライヤーに連絡を取り、インシデントの検知、対応、復旧能力を向上させる技術について問い合わせます。ランサムウェア攻撃のシミュレーションを行い、分析と評価を実施して、現在のエンタープライズアーキテクチャの回復力と復旧能力を評価します。その結果に基づいて、現在のエンタープライズアーキテクチャのギャップ分析を作成します。特定されたギャップに対処するための変更要求を作成します。実装した変更をアーキテクチャリポジトリに追加します。
正解**: (**正解を表示します**)**
The question asks:
"What steps would you take to strengthen the current architecture to improve data protection?" This requires understanding how TOGAF handles:
* Business continuity requirements
* Gap analysis in existing architecture
* Architecture change requests

* Triggering a new ADM cycle
* Governance via the Architecture Board

Option C is the only answer that aligns correctly with TOGAF's formal Architecture Change Management process (ADM Phase H) and how to progress from identifying gaps to initiating a new cycle.

Why Option C Is Correct

1. Starts with identifying business continuity requirements

TOGAF Phase A and Phase B require understanding business continuity and information security requirements as part of architecture development.

2. Analyzes the current architecture for gaps

Gap analysis is a required step in:

* Phase B (Business Architecture)
* Phase C (Data/Application Architecture)
* Phase D (Technology Architecture)

It is also part of Architecture Change Management (Phase H) when examining existing threats or deficiencies.

3. Creates a Change Request

In TOGAF, if gaps or new risks require architectural enhancements, a formal Change Request is submitted.

This is a mandatory TOGAF mechanism.

4. Architecture Board evaluates the Change Request

The Architecture Board approves major changes before a new cycle starts - exactly as described in option C.

5. Initiates a new ADM cycle with a RfAW

TOGAF explicitly states:

A new or major architecture change requires a Request for Architecture Work before beginning a new ADM cycle.

Option C follows this sequencing precisely:

* Identify requirements # analyze gaps # issue change request # Architecture Board approval # create RfAW # start new ADM cycle.

This is textbook TOGAF.

Why the Other Options Are Incorrect

A - Too narrow and focuses only on Technology Architecture

* The problem spans business continuity, data protection, and enterprise-wide readiness - not just infrastructure.
* Does not include gap analysis, stakeholder analysis, or initiating a formal ADM cycle.
* Incorrectly reduces ransomware mitigation to technology controls.

B - Architecture Compliance Review is inappropriate here

A Compliance Review is used to:

* Ensure implementation conforms to architectureNot to:
* Identify new risks
* Strengthen the architecture
* Conduct gap analysisThis option is misusing the review process.

D - Supplier-driven, not TOGAF-driven

* Involves contacting suppliers prematurely - not aligned with TOGAF's architecture-first methodology.
* Does not involve Architecture Board approval before pursuing solutions.
* Jumps into solutioning before architectural approval.

Relevant TOGAF References
* Phase H: Architecture Change Management
* Manage changes
* Evaluate impacts
* Generate change requests
* Architecture Board Roles
* Approves Change Requests
* Governs new ADM cycles
* Request for Architecture Work
* Used to formally launch a new ADM cycle

質問: **66**
質問に答える前に、このシナリオをお読みください。
あなたは大手スーパーマーケットでエンタープライズアーキテクトとして働いています。同社は多数の実店舗に加え、オンライン食料品店も運営しています。かつては多くの店舗が24時間年中無休で営業していましたが、近年はその数が減少しています。その代わりに、現在は夜間のオンライン注文の処理に注力しています。
同社は成熟したエンタープライズアーキテクチャ(EA)の実践体制を有しており、アーキテクチャ開発手法としてTOGAF標準を採用しています。EAの実践は事業のあらゆる側面に関与しており、事業の様々な部門の代表者で構成されるアーキテクチャ委員会が監督を行っています。EAプログラムは最高情報責任者(CIO)が主導しています。
各店舗は、売上と在庫を追跡するために標準的な方法を採用しています。この方法では、正確かつタイムリーな売上データを、需要予測、在庫レベルの調整、再発注の自動化が可能な中央のAIベースの在庫管理システムに送信します。中央在庫管理システムは、同社の中央データセンターに設置されています。
同社は主要な競合企業を買収した。最高経営責任者(CEO)は、合併によって製品の統合とコスト削減を通じて成長が実現すると考えている。小売業務とシステムの統合を含め、両組織を完全に統合することが決定された。これは、重複していたシステムが単一の標準的な小売管理システムに置き換えられることを意味する。また、同社は使用するアプリケーションの数を削減する予定だ。最高情報責任者(CIO)は、これらの変更を新合併会社全体に実施することで、大幅なコスト削減が実現すると見込んでいる。
競合他社が成功裏に導入した改善策の一つは、店舗内で顧客と従業員の両方が利用できる携帯端末の活用です。これにより時間の節約が実現し、顧客と従業員双方の満足度が向上しました。最高情報責任者(CIO)は全店舗への端末導入を承認しましたが、従業員数が多く、その多くがパートタイムであるため、携帯端末の使用方法に関する研修は簡潔に行うべきだと述べています。
合併を監督するためのアーキテクチャ業務依頼が承認されました。プロジェクトの範囲が決定され、あなたが担当することになりました。あなたの役割には、小売店舗のアーキテクチャ管理が含まれます。
シナリオを参照してください
あなたは、今回の変革において最も関連性の高いアーキテクチャ原則を確認するよう求められています。
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
[注：各回答に記載されている原則の順序は重要ではありません。企業はTOGAF標準、ADMテクニック、アーキテクチャ原則の章に記載されている一連の原則に従っているものと想定してください。この質問に答えるには、参考資料のADMテクニックにあるセクション2.6を参照する必要があるかもしれません。]
A. 企業への利益最大化、共通利用アプリケーション、データは資産、迅速な変更管理、技術独立性

B. 制御技術の多様性、相互運用性、データは資産である、データは共有される、事業継続性
C. 共通語彙とデータ定義、法令遵守、要件に基づく変更、レスポンシブな変更管理、データセキュリティ
D. 共通利用アプリケーション、データは資産、データはアクセス可能、使いやすさ、事業継続性
正解**: (**正解を表示します**)**
Key aspects of the scenario:
Business Objective:
A merger is happening to combine offerings, reduce costs, and achieve operational efficiency.
The goal includes fully integrating retail operations and systems, replacing duplicated systems, and reducing the number of applications used.
Technological Improvements:
A central AI-based inventory system is in place.
Hand-held devices for stores have improved customer and staff satisfaction and increased efficiency.
Scope of Architecture Work:
Integrating the merged systems.
Managing retail architecture to optimize operations.
TOGAF Alignment:
TOGAF principles aim to ensure the architecture supports business transformation effectively while aligning with governance and best practices.
Best answer analysis:
Option 1:
Maximize Benefit to the Enterprise: Aligns with the merger goals of cost reduction and efficiency.
Common Use Applications: Matches the goal to reduce duplicated systems.
Data is an Asset: Central AI system depends on accurate and reliable data.
Responsive Change Management: Necessary to support the transition and manage organizational impacts.
Technology Independence: Encourages selecting flexible, scalable solutions post-merger.
This option comprehensively aligns with the scenario.
Option 2:
Control Technical Diversity: Important but less emphasized than cost reduction and application unification.
Interoperability: Relevant, but less critical compared to principles addressing business value.
Data is an Asset: Relevant.
Data is Shared: Implied in centralized inventory but not directly stated.
Business Continuity: Important but not the main focus here.
This option partially fits but lacks emphasis on business outcomes.
Option 3:
Common Vocabulary and Data Definitions: Indirectly helpful but not central to the transformation.
Compliance with the Law: Always critical, but no explicit legal issues are mentioned.
Requirements-Based Change: General principle but not transformation-specific.
Responsive Change Management: Relevant.
Data Security: Important but not a central concern in the scenario.
This option focuses more on governance and less on merger goals.
Option 4:

Common Use Applications: Relevant to reducing duplicate systems.
Data is an Asset: Relevant.
Data is Accessible: Fits with AI system and handheld devices but is a subset of "Data is an Asset." Ease of Use: Relevant to handheld devices but not a core transformation principle.
Business Continuity: Important but secondary to cost and efficiency.
This option focuses more on usability and accessibility rather than transformation objectives.

質問**: 67**
その説明をよく考えてみてください。
評価の典型的な内容には、プロジェクトの進捗状況と現状の概要、およびプロジェクトのアーキテクチャ／設計が含まれます。
どのような評価方法が説明されていますか？
A. 組織
B. 能力
C. リスク
D. コンプライアンス
正解**: (**正解を表示します**)**
Within the TOGAF framework, assessments are used to ensure that architecture work is conformant with governance parameters. A compliance assessment (sometimes called architecture compliance or compliance review) is the evaluation of a project's architectural artifacts-its design, architecture decisions, progress status-against the established architecture standards, principles, and constraints. The content of a compliance assessment typically includes reviewing the project status, the architectural design alignment, and identifying noncompliance issues or deviations. Because it focuses on how well the project matches the architecture, rather than on capabilities, organizational structure, or risk per se, the described contents correspond to a compliance assessment. The compliance assessment helps governance bodies enforce architectural consistency and correct deviations during implementation.

質問**: 68**
どのADMフェーズに初期導入計画が含まれますか？
A. H相
B. フェーズE
C. フェーズA
D. 予備
正解**: (**正解を表示します**)**
In TOGAF, Phase E (Opportunities & Solutions) is the first phase that transitions from architecture models into actionable implementation. Within Phase E, architects identify candidate implementation projects or work packages, assess dependencies, cost/benefit, constraints, and derive a highlevel implementation and migration strategy and initial plans. That means the first planning around how to carry out the architecture begins in Phase E. Later phases refine and govern the implementation (e.g. in Phase F and G), but the initial planning belongs in Phase E. Thus Phase E includes the initial implementation planning.

質問: **69**
文を完成させてください。ビジネスシナリオは_____を説明しています
A. ベースラインアーキテクチャとターゲットアーキテクチャ間のギャップ
B. 異分野研修要件などの業務領域のギャップ
C. これらの問題が発生するビジネスおよび技術環境
D. 開発中のアーキテクチャに関する一般的な規則とガイドライン
正解: **(**正解を表示します**)**
A business scenario describes business and technology environment in which those problems occur. It provides a realistic context for identifying and addressing business problems and opportunities, as well as their impact on the enterprise's architecture. Reference: The TOGAF Standard | The Open Group Website, Section 3.3.1 Business Scenarios.

質問: **70**
ギャップ分析手法の目的を最もよく表しているのは、次のうちどれですか？
A. 非機能要件を検証する
B. アーキテクチャの品質指標を確立する
C. アーキテクチャのサービスレベルを決定する
D. 欠落している機能を特定する
正解: **D (**コメントを発表する**)**
Gap analysis is a technique that is used to validate an architecture by highlighting the shortfall between the Baseline Architecture and the Target Architecture. One of the purposes of gap analysis is to identify missing functions that are either deliberately omitted, accidentally left out, or not yet defined in the Target Architecture. Missing functions are marked as gaps that need to be filled by developing or procuring the building blocks.

質問: **71**
次のうち、アーキテクチャ原則の目的を説明しているのはどれですか？
A. 対象アーキテクチャの導入が成功した場合に生じる可能性のある影響を説明する。
B. 戦略目標の達成に向けて事業を統制する方法について共通理解を確立する
C. 企業の文化と価値観についてより深く理解するため
D. スポンサー組織とエンタープライズアーキテクトの間で契約を締結する
正解: **(**正解を表示します**)**
Architecture Principles are general rules and guidelines that inform and support the way in which an organization sets about fulfilling its mission. They reflect a level of consensus among the various elements of the enterprise, and form the basis for making future IT decisions. One of the purposes of Architecture Principles is to establish a common understanding of how to control thebusiness in pursuit of strategic objectives, by providing a framework for evaluating and agreeing on the changes that affect the enterprise's architecture3 References: 3: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 23: Architecture Principles : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part IV: Architecture Content Framework, Chapter 31: Architecture Principles

質問: **72**

あなたは大手企業でエンタープライズアーキテクトとして働いています。この企業は多数の小売店を運営するほか、数百ものブランドが提携できるオンラインマーケットプレイスも展開しています。同社は成熟したエンタープライズアーキテクチャ(EA)の実践体制を確立しており、アーキテクチャ開発手法にはTOGAF標準を採用しています。EAの実践は事業のあらゆる側面に関わっており、事業の様々な部門の代表者で構成されるアーキテクチャ委員会が監督を行っています。EAプログラムは最高情報責任者(CIO)が主導しています。
多くの店舗は24時間営業している。各店舗は売上と在庫を追跡するために標準的な方法を採用しており、正確かつタイムリーな売上データを中央のAIベースの在庫管理システムに送信する。このシステムは需要を予測し、在庫レベルを調整し、再発注を自動化できる。中央在庫管理システムは、同社の中央データセンターに設置されている。
同社は主要な競合企業を買収した。最高経営責任者(CEO)は、合併によって製品の統合とコスト削減を通じて成長が実現すると考えている。小売業務とシステムの統合を含め、両組織を完全に統合することが決定された。重複していたシステムは、単一の標準的な小売管理システムに置き換えられる。最高情報責任者(CIO)は、これらの変更により、合併後の新会社全体で大幅なコスト削減が見込まれると予想している。
競合他社は、店舗内で顧客と従業員の両方が携帯端末を利用できるようにすることに成功しており、時間の節約により顧客満足度が向上している。最高情報責任者(CIO)は、これらの端末を全店舗に展開することを承認したが、パートタイム従業員が多いため、研修は短時間で行うべきだと述べている。
この変革に最も関連性の高いアーキテクチャ原則を確認するよう求められました。TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最適な回答でしょうか？
A. 共通語彙とデータ定義、法令遵守、要件に基づく変更、レスポンシブな変更管理、データセキュリティ
B. 制御技術の多様性、相互運用性、データは資産である、データは共有される、事業継続性
C. 共通利用アプリケーション、データは資産、データはアクセス可能、使いやすさ、事業継続性
D. 企業への利益最大化、共通利用アプリケーション、データは資産、迅速な変更管理、技術独立性
正解: **(**正解を表示します**)**
In this scenario, the enterprise is undergoing significant transformation due to a merger and the adoption of new technology (hand-held devices). Several key principles from TOGAF ' s ADM Techniques-particularly those focused on promoting enterprise-wide standardization, adaptability, and data utilization-are pertinent here:
Maximize Benefit to the Enterprise:This principle emphasizes that all architectural decisions should deliver maximum business value. Given that the company is integrating systems to cut costs and improve offerings, maximizing the benefit is crucial. Ensuring that the EA efforts align with enterprise-wide benefits supports the goal of optimizing costs and enhancing offerings, which aligns with the CEO's vision for the merger.
Common Use Applications:Standardizing applications across the merged entity will be essential to achieve cost savings and to simplify operations. The goal of reducing the number of applications fits with this principle, ensuring that reusable and widely adopted applications support business functions across the organization. Adopting this principle will also aid in harmonizing the systems from both organizations and avoiding unnecessary diversity.
Data is an Asset:Data plays a central role in the company ' s operations, especially with the use of AI-driven inventory management and the integration of systems. Treating data as an asset is essential for reliable and accurate decision-making. This principle ensures that data is viewed as a critical enterprise resource and is managed with care, maintaining integrity, accuracy, and value.
Responsive Change Management:The organization's ability to adapt quickly and effectively to changes, such as integrating new handheld devices and merging systems, is essential. This principle will facilitate the smooth

transition required for integrating the new handheld devices and the merger-related system updates while minimizing disruption to store operations.
Technology Independence:Since the enterprise will likely encounter varied technologies from the merger, it is crucial to maintain flexibility. This principle advocates for using technology solutions that are adaptable and not bound to a single vendor or specific technology. This ensures that the enterprise can integrate various technological components from both organizations and evolve with minimal constraints.
These principles align well with TOGAF ' s broader recommendations for guiding architectural changes, as found in Section 2.6 of the TOGAF ADM Techniques. They ensure that the EA practice is aligned with business objectives while maintaining flexibility, data integrity, and a focus on enterprise-wide benefits.
These guiding principles are critical for the successful execution of the integration and adoption of new technologies while achieving cost efficiencies and improving service delivery.
For reference, TOGAF ' s ADM Techniques highlight the importance of architectural principles in guiding transformational initiatives, ensuring that decisions are made consistently across the enterprise. Each principle supports organizational agility, system integration, and the efficient use of technology resources, all of which are vital for the enterprise ' s stated objectives.

質問: **73**
不確実性が目標に及ぼす影響とは、具体的にどのようなものを指すのでしょうか？
A. 脆弱性
B. リスク
C. 継続性
D. 脅威
正解: **(**正解を表示します**)**
Risk is defined as the effect of uncertainty on objectives, according to the ISO 31000 standard, which provides principles and guidelines for risk management1 Risk can be positive or negative, depending on whether the uncertainty affects the achievement or the failure of the objectives. Risk can also be expressed in terms of likelihood and impact, which indicate the probability and the consequence of the risk occurrence.
Risk management is the coordinated activities to direct and control an organization with regard to risk. Risk management is an integral part of the TOGAF standard, as it helps to identify, assess, and treat the risks that may affect the architecture development and implementation2 References: 1: ISO 31000:2018, Riskmanagement - Guidelines, Clause 3.1 2: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 32: Risk Management

質問: **74**
次の文を完成させてください。予備段階の目的は、次のことを実現することです。
A. エンタープライズアーキテクチャの組織モデル
B. アーキテクチャロードマップ
C. 実施ガバナンスモデル
D. プロジェクトの建築ビジョン
正解: **A (**コメントを発表する**)**

Comprehensive and Detailed In-Depth Explanation from Expert in Enterprise Architecture, guiding in TOGAF and ArchiMate:
In the TOGAF Architecture Development Method (ADM), the Preliminary Phase is a foundational phase whose primary purpose is to establish and prepare the Architecture Capability within the enterprise. This phase ensures that the organization is structurally, procedurally, and culturally ready to undertake architecture work in a consistent and governed manner.
A core outcome of this phase is the Organization Model for Enterprise Architecture, which defines:
Architecture roles and responsibilities (e.g., Chief Architect, Domain Architects) Reporting and decision-making structures Architecture governance bodies (such as Architecture Boards) Interaction with other governance and management processes Accountability and ownership for architecture activities The Organization Model enables repeatable, controlled, and effective execution of the ADM across initiatives.
Without this model, architecture work would lack authority, consistency, and governance alignment.
Why Option A is correct:
The Preliminary Phase explicitly focuses on defining and establishing the Organizational Model for Enterprise Architecture as part of building the enterprise's Architecture Capability.
Why the other options are incorrect:
B). Architecture Roadmap: This is developed later in the ADM when solution options, work packages, and migration paths are defined, mainly in Phases E (Opportunities & Solutions) and F (Migration Planning).
C). Implementation Governance Model: This is primarily addressed in Phase G (Implementation Governance), where architecture compliance and realization are governed.
D). Architecture Vision for the project: The Architecture Vision is the main deliverable of Phase A (Architecture Vision), which follows the Preliminary Phase.
Authoritative References (TOGAF Standard):
TOGAF ADM - Preliminary Phase: Objectives and Key Activities
TOGAF Architecture Capability Framework
TOGAF Architecture Governance concepts
These sources clearly state that the Preliminary Phase exists to define and establish the Organizational Model for Enterprise Architecture, making Option A the correct and fully aligned answer.

質問**: 75**
質問に答える前に、このシナリオをよく読んでください。
あなたは環境機関のエンタープライズアーキテクチャ(EA)チームに所属するエンタープライズアーキテクトとして雇用されています。この機関は複数の部門から構成され、環境保護、規制、保全活動の監督責任を担っています。
当該機関は、確立されたエンタープライズアーキテクチャ(EA)の実践体制を有しており、アーキテクチャ開発手法としてTOGAF標準を採用しています。EAプログラムに加え、事業計画、プロジェクト／ポートフォリオ管理、運用管理など、様々な管理フレームワークも活用しています。EAプログラムは最高情報責任者(CIO)が主導しており、CIOはEA部門において、プロジェクトの優先アプローチとしてアジャイルなアーキテクチャ設計を積極的に推進しています。
同機関は、人工知能(AI)が広く普及する世界に備えている。そのため、今後AIがどのような影響と役割を果たすのかを明らかにしようとしている。

最高情報責任者(CIO)は、組織全体のサービスにAIをどのように活用できるかを検討するアーキテクチャ設計依頼を承認しました。CIOは、計画されているAIアプリケーションを拡張するために、デジタルプラットフォームへの投資を優先すると述べています。AIを使用してタスクを自動化し、業務を円滑に進めることは大きなメリットと見られています。プロセス自動化と、手作業による反復作業の効率化は、生成型AIを組織の業務に適用する主な利点として挙げられています。これには、例えば、何百通ものメールによる問い合わせを受けるヘルプセンターのエージェントのバックオフィス業務の自動化が含まれます。これにより、顧客へのサービスも向上し、より効率的でパーソナライズされた、個々のニーズに合わせたサービスを提供できるようになります。
多くの機関のリーダーは、AIへの過度な依存を懸念している。一部のリーダーは、従業員が新たなスキルを習得する必要があると考えている。一部の従業員は、AIによって職を失うのではないかと不安を抱いている。また、AIの成功に必要なデジタルプラットフォームのセキュリティとサイバーレジリエンスを懸念するリーダーもいる。
質問：
シナリオを参照してください。
EAチームリーダーは、懸念事項にどのように対処すべきか、また、プロジェクトの新しいアーキテクチャに伴うリスクをどのように管理すべきかを尋ねてきた。
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. 組織図を作成して、組織内の各部門間の連携を示すことをお勧めします。これにより、EAチームは、この戦略的変更の影響を受ける組織内のすべての部門を特定し、関与させることができます。次に、AI関連プロジェクトに適用できる複数のビジネスモデルを作成する必要があります。関係者との会議を開催し、モデルの解釈方法や、懸念事項がどのように対処されているかを説明します。リスク管理は、セキュリティアーキテクチャ開発の一環として行われます。
B. 主要なステークホルダーを正式に特定することを推奨します。これには、変更を成功させるために最も役立つ人々を含めるべきです。彼らのニーズに対応するためにコミュニケーションプランを作成する必要があります。このプランには、ステークホルダーの要件と懸念事項への対応に基づいてアーキテクチャの主要な特徴をまとめたレポートを含める必要があります。各主要ステークホルダーと面談し、彼らの懸念事項が対処されていることを確認します。開発中のアーキテクチャがリスク管理に明確に対応していることを確認します。
C. あなたは、さまざまな種類の利害関係者をグループ分けする分析を行うことを推奨します。
これらは、企業機能、エンドユーザー組織、プロジェクト組織、システム、外部などのカテゴリに分類できます。必要な情報と詳細がすべて考慮されるように、各ステークホルダーカテゴリごとにモデルを開発する必要があります。ステークホルダーとの会議を開催し、懸念事項が対処されていることを確認する必要があります。リスク管理は、実装ガバナンスフェーズで検討されます。
D. プロジェクトの影響を受ける主要人物の権力、影響力、関心を評価することを推奨します。これには、各利害関係者の立場、懸念事項、課題、文化的要因を文書化することが含まれます。この情報は、アーキテクチャの提示方法と説明方法に影響を与えます。各グループの懸念事項と関連する見解を定義し、アーキテクチャビジョン文書に記録することができます。リスクに対処するための要件は、アーキテクチャ要件仕様書に記録し、定期的な評価とフィードバックを通じて確認する必要があります。
正解: **(**正解を表示します**)**
Option D is the best answer because it most closely follows the TOGAF guidance for Phase A - Architecture Vision , where stakeholder management and risk identification are fundamental activities. The scenario emphasizes multiple stakeholder concerns, including AI adoption, workforce impact, security, cyber resilience, and

organizational change. TOGAF recommends performing stakeholder analysis by assessing each stakeholder's power, influence, interest, concerns, issues, and cultural considerations . This information is then used to determine appropriate viewpoints, communications, and architecture views.
TOGAF also requires that stakeholder concerns be reflected in the Architecture Vision , which provides a shared understanding of the proposed architecture and demonstrates how stakeholder concerns will be addressed. At the same time, architecture-related risks and the requirements needed to mitigate them should be captured in the Architecture Requirements Specification , where they can be traced and managed throughout the ADM lifecycle. Continuous review and feedback ensure that risks remain visible and that requirements continue to reflect stakeholder needs as the architecture evolves.
Option A incorrectly limits risk management to Security Architecture. Option B includes stakeholder identification and communication but omits TOGAF ' s emphasis on stakeholder analysis, viewpoints, and formal recording of risks and requirements. Option C incorrectly postpones risk management until Implementation Governance. Therefore, Option D is the answer most closely aligned with the TOGAF Standard.

質問**: 76**
TOGAF標準によれば、システムに関心を持つ個人を表す用語は何ですか？
A. 利害関係者
B. 消費者
C. リードアーキテクト
D. スポンサー
正解**: (**正解を表示します**)**
According to the TOGAF Standard, 10th Edition, a stakeholder is "an individual with an interest in a system"
1. A stakeholder can be anyone who is affected by the system, or who can influence or be influenced by the system. Stakeholders can have different roles, perspectives, and concerns regarding the system, and they can be internal or external to the organization. Stakeholder management is a technique that helps to identify, analyze, and engage the stakeholders of an architecture project, and to address their needs and expectations 2.
The other options are not correct, as they are not the term used by the TOGAF Standard to describe an individual with an interest in a system. A consumer is "an individual or group that uses a product or service"
1. A lead architect is "an individual who is responsible for leading the development of an architecture" 1. A sponsor is "an individual who provides funding and support for an architecture project" 1. References: 1:
TOGAF Standard, 10th Edition, Part I: Introduction, Chapter 3:Definitions. 2: TOGAF Standard, 10th Edition, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 24: Stakeholder Management.

有効的な**OGEA-103-JPN**問題集はJPNTest.com提供され、**OGEA-103-JPN**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**OGEA-103-JPN**試験問題集を提供します。JPNTest.com OGEA-103-JPN試験問題集はもう更新されました。ここで**OGEA-103-JPN**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、https://www.jpntest.com/shiken/OGEA-103-JPN-mondaishu **199**問、３０%ディスカウント、特別な割引コード**: JPNshiken**」

質問: **77**
アーキテクトは、最終的なターゲットアーキテクチャに影響を与える可能性のある、隠れた意図、原則、要件を引き出すために、ステークホルダーにどのような情報を提示できるでしょうか？
A. ソリューションとアプリケーション
B. 代替案とトレードオフ
C. ビジネスシナリオとビジネスモデル
D. 建築の景観と建築の視点
正解: **(**正解を表示します**)**
According to the TOGAF Standard, Version 9.2, an architecture view is a representation of a system from the perspective of a related set of concerns1. It consists of one or more architecture models that demonstrate how the system addresses the stakeholder concerns1.
An architecture viewpoint is a specification of the conventions for constructing and using an architecture view to address specific stakeholder concerns1. It defines the perspective, scope, notation, and techniques for creating an architecture view of a system1.
Architects can present architecture views and viewpoints to stakeholders to extract hidden agendas, principles, and requirements that could impact the final Target Architecture, because23:
Architecture views and viewpoints help to communicate and visualize the architecture in a way that is meaningful and relevant to different stakeholders, addressing their specific interests and needs.
Architecture views and viewpoints help to elicit and validate the stakeholder concerns and requirements, ensuring that they are aligned with the business goals and objectives, and that they are consistent and feasible within the architecture context.
Architecture views and viewpoints help to identify and resolve any conflicts, gaps, or trade-offs among the stakeholder concerns and requirements, ensuring that they are balanced and prioritized in the architecture design and decision-making.
Architecture views and viewpoints help to demonstrate and verify the value and benefits of the architecture to the stakeholders, ensuring that they are satisfied and committed to the architecture outcome and governance.
1: The TOGAF Standard, Version 9.2, Chapter 22: Architecture Views, Viewpoints, and Stakeholders
2: The TOGAF Standard, Version 9.2, Chapter 4: Introduction to Part II, Section 4.2: What is an Architecture Framework?
3: The TOGAF Standard, Version 9.2, Chapter 31: Architectural Artifacts, Section 31.1: Basic Concepts

質問: **78**
TOGAF 標準は、4 つのアーキテクチャ ドメインの開発をカバーしています。ビジネス。
データ、テクノロジー、そして_____。
A. セグメント
B. 移行
C. 能力
D. アプリケーション
正解: **(**正解を表示します**)**

The TOGAF standard covers the development of four architecture domains: Business, Data, Technology and Application. These domains represent different aspects of an enterprise's architecture and provide a consistent way of describing, analyzing, and designing them. Reference: The TOGAF Standard | The Open Group Website, Section 2.2 Architecture Development Method (ADM).

質問**: 79**
予備段階の目的は_____です。文を完成させてください。
A. 対象アーキテクチャについて説明します
B. 企業戦略を定義する
C. 利害関係者とその要求事項を特定する
D. エンタープライズアーキテクチャ機能の設計
正解**: (**正解を表示します**)**
The purpose of the Preliminary Phase is to architect an Enterprise Architecture Capability that meets the needs and expectations of the enterprise's stakeholders and supports and enables subsequent phases of architecture development and transition. This phase involves defining the scope, principles, framework, and governance for the Enterprise Architecture Capability. Reference: The TOGAF Standard | The Open Group Website, Section 3.2 Preliminary Phase.

質問**: 80**
質問に答える前に、このシナリオをお読みください。
あなたは、臨床研究およびヘルスケアテクノロジー企業でエンタープライズアーキテクトとして勤務しています。この企業は、新しいアイデアと技術革新によってヘルスケアを変革することに尽力しています。企業には、事業のさまざまな側面をカバーする複数の部門があります。
同社のエンタープライズアーキテクチャ(EA)部門は、TOGAF標準に準拠した、成熟した高度に発達したアーキテクチャガバナンスおよび開発プロセスを有している。
EAプログラムに加えて、同社は多数の管理職プログラムを実施している。
使用されているフレームワーク。アーキテクチャ委員会は、会社の各部門からの代表者で構成されています。最高情報責任者(CIO)は、エンタープライズアーキテクチャプログラムのスポンサーです。CIOは、プロジェクトの優先的なアプローチとして、EA部門内でのアジリティの高いアーキテクチャ設計を積極的に推進しています。
同社の競合他社の多くは、業務に人工知能(AI)を導入し始めており、これが医療提供のあり方を大きく変える可能性を秘めている。EA部門は以前からAIに関心を持っており、最近、アーキテクチャ変更要求を提出し、承認された。その結果、CIOは、社内におけるAI導入の検討を目的としたアーキテクチャ作業依頼を承認した。
評価対象となる分野は以下のとおりです。
従業員は日々の業務でどのようにAIを活用できるでしょうか？
AIは患者の医療へのアクセスをどのように向上させ、その体験をいかにスムーズなものにできるのか？
AIは、業務効率を高めるための新しい職場プラットフォームやツールをどのように提供できるのでしょうか？
経営幹部の中には、働き方の変化や、それが目標達成につながるのかどうかについて懸念を抱いている者もいる。多くの幹部は、会社全体のAI導入において、リスク管理プロセスが十分であると確信していない。また、従業員からも、AIの責任ある利用に関する具体的なガイドラインや方針が十分に整備されているのかという疑問の声が上がっている。

シナリオを参照してください
あなたはアーキテクチャ開発を担当することになり、プロジェクトにおける懸念事項への対処方法とリスク管理について指示を受けました。どのように着手しますか？
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. ステークホルダー分析を実施することを推奨します。これにより、アーキテクトは共通の関心を持つステークホルダーのグループを定義し、ステークホルダーマップを作成することができます。各グループの懸念事項と関連する見解を定義し、アーキテクチャビジョン文書に記録する必要があります。リスクを軽減するために、定期的なフィードバックを確保するために、ターゲットアーキテクチャを段階的に開発するという要件を含めます。
B. すべてのステークホルダーを特定し、最も影響力のあるステークホルダーに対応するためのコミュニケーションプランを作成することを推奨します。このプランには、各部門に関するアーキテクチャの主要な特徴を要約し、ステークホルダーの要求を反映したレポートを含める必要があります。
各主要関係者に対し、彼らの懸念事項が適切に対処されているかを確認してください。リスク軽減策は、開発中のアーキテクチャの構成要素として明確に盛り込む必要があります。
C. ステークホルダーへの影響と企業へのメリットを示すために、シンプルなソリューションコンセプト図を作成することをお勧めします。また、AIベースのソリューション導入による様々な機会を示すメリット図も作成します。主要なステークホルダーと会議を開き、図を確認します。その後、アーキテクチャ開発の優先順位と順序を決定します。アーキテクチャロードマップを定義する際には、リスク評価を行います。
D. ビジネス、データ、アプリケーション、テクノロジーの各アーキテクチャ案についてモデルを作成することを推奨します。これらのモデルは、リスクを最小限に抑え、システムが各部門の現地規制に準拠していることを保証するために使用できます。問題の説明と要件とともに、これらはアーキテクチャビジョン文書に含める必要があります。関係者との正式なレビューを実施し、関係者の懸念事項がアーキテクチャビジョンに反映されていることを確認する必要があります。
正解**: A (**コメントを発表する**)**
In this scenario you are right at the start of an ADM cycle: a Request for Architecture Work has been approved to investigate AI, and there are strong stakeholder concerns and risk questions. According to the TOGAF standard, the correct place to start is Phase A: Architecture Vision, with a strong focus on stakeholder management and capturing their concerns and required views.
Option A is the only answer that correctly reflects this:
Stakeholder analysis & Stakeholder Map (Phase A core task)TOGAF explicitly states that in Phase A you must:
Identify stakeholders
Analyze and group them by common concerns
Use a Stakeholder Map to understand their influence, interest, and required engagement Determine which views/viewpoints are needed to address their concerns in the architecture description coe.
qualiware.com+1
Option A says:
"analysis of the stakeholders ... define groups of stakeholders who have common concerns and include development of a Stakeholder Map. The concerns and relevant views should then be defined for each group and recorded in the Architecture Vision document." This is exactly how TOGAF describes stakeholder management and views in Phase A:
Stakeholder Map to classify and prioritize stakeholders

Concerns and required views captured and traced
These elements feeding into the Architecture Vision deliverable Visual Paradigm TOGAF+1 Concerns, views, and Architecture VisionTOGAF emphasizes that architecture views are constructed to address specific stakeholder concerns; you do not just build generic models. opengroup.org+1 Option A explicitly links concerns # views # Architecture Vision, which aligns with TOGAF guidance for early phases.
Capturing this in the Architecture Vision provides a high-level, shared understanding of what the AI initiative is trying to achieve and how stakeholder issues (e.g., responsible AI, risk processes, change in way of working) will be addressed.
Risk management and "architecting with agility"In the scenario, the CIO has encouraged architecting with agility. TOGAF is compatible with incremental and iterative development of the target architecture, especially when there is high uncertainty and risk. conexiam.com Option A includes:
"a requirement that there be progressive development of the target architecture to ensure there is regular feedback." This "progressive development" and frequent feedback loop is exactly how you mitigate risk in an AI-heavy, change-sensitive initiative:
Frequent stakeholder feedback
Early validation of assumptions
Ability to adjust scope, constraints, and principles as risk and understanding evolve This directly addresses management's worry about the change in the way of working and whether risk management and responsible AI policies are adequate: these become explicit stakeholder concerns and requirements that are iteratively refined.
Why the other options are weaker / not TOGAF-aligned as a starting point Option B Focuses mainly on a Communications Plan and powerful stakeholders.
While TOGAF does expect a stakeholder communications plan, it is derived from a proper stakeholder analysis and Stakeholder Map, not a substitute for it.
It also treats risk as a "component of the architecture" rather than something to be addressed early through stakeholder concerns, principles, and iteration.
Option C
Jumps straight to a solution concept diagram and benefits diagram and defers risk evaluation to when the Architecture Roadmap is defined (Phase E).
In TOGAF, risk and stakeholder concerns must be addressed already in Phase A and refined throughout, not postponed to roadmap development.
Option D
Proposes creating draft Business, Data, Application, and Technology models and putting them into the Architecture Vision.
This is too detailed for the starting point: Phase A is about high-level vision, not full draft core architecture models (those belong in Phases B, C, D).
It also doesn't emphasize Stakeholder Mapping and grouping by concerns, which is central to resolving the worries about way of working, risk, and responsible AI.
In summary, Option A is the best and TOGAF-consistent way to begin:
Start in Phase A: Architecture Vision
Perform stakeholder analysis and create a Stakeholder Map
Define stakeholder concerns and relevant views

Record them in the Architecture Vision
Add an explicit requirement for progressive (iterative) development of the target architecture for continuous feedback and risk mitigation

質問: **81**
TOGAF標準が扱う4つのアーキテクチャ領域とは何ですか？
A. ビジネス、データ、アプリケーション、テクノロジー
B. 機能、セグメント、エンタープライズ、フェデレーション
C. ベースライン、候補、移行、ターゲット
D. アプリケーション、データ、情報、知識
正解: **(**正解を表示します**)**
The TOGAF standard divides Enterprise Architecture into four primary architecture domains: business, data, application, and technology. These domains represent different aspects of an enterprise and how they relate to each other. The business domain defines the business strategy, governance, organization, and key business processes. The data domain describes the structure of the logical and physical data assets and data management resources. The application domain provides a blueprint for the individual applications to be deployed, their interactions, and their relationships to the core business processes. The technology domain describes the logical software and hardware capabilities that are required to support the deployment of business, data, and application services. Other domains, such as motivation, security, or governance, may span across these four primary domains. References:
The TOGAF Standard, Version 9.2 - Core Concepts
Domains - The Open Group
TOGAF Standard - Introduction - Definitions - The Open Group
The TOGAF Standard, Version 9.2 - Definitions - The Open Group
TOGAF and the history of enterprise architecture | Enable Architect

質問: **82**
アーキテクチャロードマップの目的を最もよく表しているのは、次のうちどれですか？
A. 最終的なアーキテクチャプロジェクトを関係者に効果的に伝えるためのものです。
B. スポンサーから送信され、アーキテクチャ開発サイクルの開始を促します。
C. スポンサーと建築設計事務所との間の契約合意の基礎を形成する。
D. 作業パッケージをタイムライン上に一覧表示し、ターゲットアーキテクチャへの進捗状況を示します。
正解: **(**正解を表示します**)**
The purpose of the Architecture Roadmap is to provide a high-level view of how the Baseline Architecture will transition to the Target Architecture over time. It lists work packages on a timeline showing progress towards the Target Architecture, as well as dependencies, risks, and benefits. The Architecture Roadmap forms part of the Implementation and Migration Plan and guides the execution of the architecture projects.
References: https://pubs.opengroup.org/architecture/togaf9-doc/arch/chap20.html

質問: **83**

展示する
アーキテクチャ開発サイクルを示す図を考えてみましょう。項目2としてラベル付けされたADMのフェーズに一致する説明はどれですか？
A. 前段階で定義されたアーキテクチャの実装計画を実施する
B. 新しいアーキテクチャへの変更を管理するための手順を確立する
C. アーキテクチャ要件の管理プロセスを運用する
D. 実装のアーキテクチャ上の監督を提供する
正解: **D (**コメントを発表する**)**
Based on the illustration, the phase of the ADM labeled as item 2 is the Implementation Governance phase. This phase provides architectural oversight for the implementation. It ensures that the implementation project conforms to the architecture. It also provides a framework for monitoring and managing the implementation.
The Implementation Governance phase involves the following activities:
Finalizing the Architecture Roadmap and the supporting Implementation and Migration Plan Assigning an Architecture Board to oversee the implementation Establishing Architecture Contracts with the implementation partners Reviewing and approving the implementation project plans and deliverables Performing Architecture Compliance reviews to ensure alignment with the architecture Performing Architecture Audit reviews to ensure quality and performance of the architecture Resolving any architecture issues or change requests that arise during the implementation Maintaining the architecture lifecycle and ensuring its continuity The Implementation Governance phase is essential for ensuring that the architecture is realized as intended and that it delivers the expected business value and outcomes.
Implementation Governance

質問: **84**
次の図表をご覧ください。
これは、エンタープライズアーキテクチャの実務者にとって重要などの概念を示しているのでしょうか？
A. エンタープライズアーキテクトは、ステークホルダーとのコミュニケーションにガントチャートを使用する必要があります。
B. エンタープライズアーキテクチャは、限られた固定期間で段階的に開発されなければならない。
C. アーキテクチャを生成するには、ADM フェーズを順序立てて実行する必要があります。
D. 関連情報が生成されるまで、ADMの各フェーズは同時に実行されなければなりません。
正解: **C (**コメントを発表する**)**
The chart shown is a Gantt chart, which is commonly used for project management to illustrate a project schedule. In the context of TOGAF (The Open Group Architecture Framework), which is a framework for enterprise architecture, this Gantt chart is demonstrating the sequenced approach to the Architecture Development Method (ADM). The ADM is the core process of TOGAF which provides a tested and repeatable process for developing architectures. The ADM is described as being iterative, over the whole process, between phases, and within phases. For each iteration of the ADM, a fresh decision must be taken about each of the parameters (scope, granularity, time period, and architecture assets).
The ADM consists of a number of phases that have to be followed in sequence:
Preliminary Phase: Framework and principles

Phase A: Architecture Vision
Phase B: Business Architecture
Phase C: Information Systems Architectures, including Data and Application Architectures Phase D: Technology Architecture Phase E: Opportunities and Solutions Phase F: Migration Planning Phase G: Implementation Governance Phase H: Architecture Change Management Requirements Management Each phase is dependent on the outputs of the previous phase and the Requirements Management phase runs throughout. The Gantt chart clearly shows the dependency and sequence in which these phases occur, implying that a structured approach is followed to produce the enterprise architecture.
The TOGAF Standard, Version 9.2, a standard of The Open Group
The TOGAF documentation available at https://publications.opengroup.org/standards/architecture and https://publications.opengroup.org/guides/architecture

質問**: 85**
質問に答える前に、このシナリオをお読みください。
あなたは、自動運転技術開発会社にシニアアーキテクトとして採用されました。同社の使命は、コネクテッドカーと自動運転をサポートする、業界をリードする統合技術およびソフトウェアプラットフォームを構築することです。
同社は、エンタープライズアーキテクチャ(EA)フレームワークの基盤としてTOGAF標準を採用している。
社内のアーキテクチャ開発は、TOGAFシリーズガイド 『TOGAF ADMに準拠したエンタープライズアーキテクチャ開発のための実践者向けアプローチ」に記載されている目的ベースのEA機能モデルに従っています。
戦略を支えるアーキテクチャが完成し、5年間のロードマップを含む長期的なターゲットアーキテクチャが定義されました。これにより、今後2年間で実施すべきプロジェクト群の必要性が明らかになりました。
このポートフォリオには、走行中の車両から得られる群知能データを利用した旅行支援システムの開発が含まれています。
現在のアーキテクチャ開発段階は、同社が提供を計画している主要な旅行支援サービスを支えるビジネスアーキテクチャに重点を置いています。これらのコアサービスは、車両によって生成される群データを管理 ·処理し、将来の自動運転への道を開きます。
同社がプラットフォームを通じて提供を予定している様々な種類のデータの提示とアクセスは、アーキテクチャ上の課題となっている。アプリケーションポートフォリオは、多数の国における様々なサードパーティのクラウドサービスやV2X(車両間通信)サービスプロバイダーと安全に連携し、大規模なデータ管理を可能にする必要がある。V2Xのセキュリティは、関係者にとって重要な懸念事項である。規制当局は、例えば、車両が送受信するデータを集計してドライバーの走行経路を追跡したり再構築したりできないようにするなど、ユーザーのプライバシーが常に保護されるべきであると述べている。
シナリオを参照してください
現在のアーキテクチャ開発段階において、どのようなリスクとセキュリティ上の考慮事項を含めるべきかについて説明を求められましたか？
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. 旅行支援システムに必要な第三者との関係に焦点を当て、信頼フレームワークを定義します。このフレームワークでは、各関係者との関係を記述します。デジタル証明書はフレームワークの重要な要素であり、関係者間の信頼

構築に使用されます。信頼フレームワークが法令に準拠するように、すべての国における法規制の変更を監視します。
B. パートナーと交換するデータ資産について、定性的なリスク評価を実施します。この評価では、特定された脅威、発生可能性、および発生した場合の影響に基づいて、高、中、低の優先順位が設定されます。この優先順位に基づいて、リスク戦略を詳細に記述したビジネスリスクモデルを作成し、どの程度の軽減策が必要かを判断するための分類を含めます。
C. リスク管理において重要な要素であるデータ品質に重点を置きます。保護が必要なデータセットを特定し、各データセットについて、データ品質に関する所有権と責任を割り当てます。各データセットにはセキュリティ分類を定義して適用します。データセットの所有者は、特定の状況下で、データセット上の特定の活動について信頼できるプロセスを承認できるようになります。
D. セキュリティドメインモデルを作成し、同じレベルの資産を単一のセキュリティポリシーで管理できるようにします。データはパートナー間で共有されるため、パートナーを含めるセキュリティフェデレーションを構築します。これには、契約上の取り決め、交換されるデータの責任範囲の定義、およびセキュリティ上の影響が含まれます。特定のデータ資産に関連するリスクを特定するリスク評価を実施します。
正解**: (**正解を表示します**)**
A security domain model is a technique that can be used to define the security requirements and policies for the architecture. A security domain is a grouping of assets that share a common level of security and trust. A security policy is a set of rules and procedures that govern the access and protection of the assets within a security domain. A security domain model can help to identify the security domains, the assets within each domain, the security policies for each domain, and the relationships and dependencies between the domains1 Since the data is being shared across partners, a security federation is needed to establish a trust relationship and a common security framework among the different parties. A security federation is a collection of security domains that have agreed to interoperate under a set of shared security policies and standards. A security federation can enable secure data exchange and collaboration across organizational boundaries, while preserving the autonomy and privacy of each party. A security federation requires contractual arrangements, and a definition of the responsibility areas for the data exchanged, as well as security implications2 A risk assessment is a process that identifies, analyzes, and evaluates the risks that may affect the architecture.
A risk assessment can help to determine the likelihood and impact of the threats and vulnerabilities that may compromise the security and privacy of the data assets. A risk assessment can also help to prioritize and mitigate the risks, and to monitor and review the risk situation3 Therefore, the best answer is D, because it describes the risk and security considerations that would be included in the current phase of the architecture development, which is focused on the Business Architecture.
The answer covers the security domain model, the security federation, and the risk assessment techniques that are relevant to the scenario.
1: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 35: Security Architecture and the ADM 2: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part IV: Architecture Content Framework, Chapter 38: Security Architecture 3: The TOGAF Standard, Version 9.2, Part III: ADM Guidelines and Techniques, Chapter 32: Risk Management

質問**: 86**

ADMのどのフェーズで、解決すべき問題の定義、利害関係者の特定、彼らの懸念事項、および要件の把握に重点が置かれますか？
A. フェーズ
B. 予備段階
C. フェーズ
D. フェーズA
正解**: (**正解を表示します**)**
Phase A: Architecture Vision is the first phase of the Architecture Development Method (ADM) cycle, which is the core of the TOGAF standard. The main purpose of this phase is to define the scope and approach of the architecture development, and to create the Architecture Vision, which is a high-level description of the desired outcomes and benefits of the proposed architecture. To achieve this purpose, this phase focuses on defining the problem to be solved, identifying the stakeholders, their concerns, and requirements, and establishing the business goals and drivers that motivate the architecture work. This phase also involves obtaining the approval and commitment of the sponsors and other key stakeholders, and initiating the Architecture Governance process.
The TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: Architecture Development Method (ADM), Chapter 5: Introduction to the ADM : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: Architecture Development Method (ADM), Chapter 18: Phase A: Architecture Vision : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: Architecture Development Method (ADM), Chapter 18.3: Inputs : The TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: Architecture Development Method (ADM), Chapter 18.4: Steps

質問**: 87**
質問に答える前に、このシナリオをお読みください。
あなたの役割は、エンジニアリングサービスと自動製造システムを提供する国際的なサプライヤーのリードエンタープライズアーキテクトに対するコンサルタントです。このサプライヤーは、産業生産自動化向けに標準製品とカスタマイズ製品の両方を組み立てる3つの製造工場を所有しています。これらの工場はそれぞれ独自の計画および生産スケジューリングシステム、そして自動生産ラインを駆動するアプリケーションと制御システムを運用しています。
エンタープライズアーキテクチャ部門は数年前から活動しており、TOGAF標準に基づいた成熟した、十分に整備されたアーキテクチャガバナンスおよび開発プロセスを有しています。エンタープライズアーキテクチャはCIOが統括しています。
先日行われた経営会議で、上級副社長が、競合他社のCIOが、複数の計画 ･スケジューリングシステムを中央データセンターに設置された共通の企業資源計画(ERP)システムに置き換えることで生産効率が向上したと述べているインタビュー記事を取り上げた。その後、議論が交わされ、CIOは、状況は比較対象にならないし、現在のアーキテクチャは既に最適化されていると反論した。
これを受けて、アーキテクチャ委員会は、このようなアーキテクチャ変革が効率性の向上につながるかどうかを判断するための調査を対象とするアーキテクチャ作業依頼を承認しました。あなたは、このプロジェクトに取り組むアーキテクチャチームのサポート担当に任命されました。
工場管理者にとってよく知られた懸念事項は、遠隔地の集中型システムから計画策定や生産スケジューリングを行うことのセキュリティと信頼性に関するものです。また、どのシステムを選択するにしても、各工場の現地パートナーで構成される現在のサプライチェーンネットワークをサポートできる必要があります。

シナリオを参照してください
あなたは、建築プロジェクトをどのように開始するかを説明するよう求められています。
TOGAF標準に基づくと、次のうちどれが最も適切な回答でしょうか？
A. ベンダーの資料を調査し、現在承認済みのサプライヤーリストに掲載されているベンダーと一連のブリーフィングを実施します。調査結果に基づき、概要ビュー、高レベル要件、およびビジネス、情報システム、テクノロジーの観点からのベースライン環境とターゲット環境の高レベル定義を含む、暫定的なアーキテクチャビジョンを定義します。
そして、それを利用して主要な関係者の間で合意形成を図るのです。
B. ベンダーがステークホルダーの懸念事項に対応する既製ソリューションの可能性を実証できるパイロットプロジェクトを実施します。パイロットプロジェクトを実施することで、後のプロセスにおける時間とコストを節約できます。そのパイロットプロジェクトの調査結果に基づいて、アーキテクチャの進化を推進する一連の要件を策定します。要件が完成したら、正式なステークホルダーレビューを実施し、目標アーキテクチャの開発に進むための許可を求めます。
C. ビジネスシナリオ手法を用いて、各製造工場で一連のインタビューを実施します。これにより、現地のパートナーとのシステムおよび統合について理解を深めることができます。ステークホルダー分析を用いて、プロジェクトにおける主要な関係者を特定し、彼らの懸念事項を把握します。次に、アーキテクチャに関する主要な高レベルのステークホルダー要件を特定し、文書化します。その後、ベースラインアーキテクチャとターゲットアーキテクチャの高レベル定義を作成します。
D. 各製造工場ごとにベースラインアーキテクチャとターゲットアーキテクチャを開発し、選択されたビューポイントに対応するビューがステークホルダーの主要な懸念事項に対応していることを確認します。ビジネスケース、パフォーマンス指標、および測定基準を定義し、アーキテクチャがビジネスニーズを満たしていることを確認します。次に、アーキテクチャ間の統合ギャップ分析を実施してアプローチを検証し、目標状態を達成するために必要な機能強化を決定します。
正解: **(**正解を表示します**)**
The best answer is C. You would hold a series of interviews at each of the manufacturing plants using the business scenarios technique. This will allow you to understand the systems and integrations with local partners. You would use stakeholder analysis to identify key players in the engagement, and to understand their concerns. You will then identify and document the key high-level stakeholder requirements for the architecture. You will then generate high level definitions of the baseline and target architectures.
This answer is based on the TOGAF standard, which recommends the following steps to initiate the architecture project1:
Establish the architecture project
Identify stakeholders, concerns, and business requirements
Confirm and elaborate business goals, business drivers, and constraints Evaluate business capabilities Assess readiness for business transformation Define scope Confirm and elaborate Architecture Principles, including business principles Develop Architecture Vision Define the Target Architecture value propositions and KPIs Identify the business transformation risks and mitigation activities Secure stakeholder and sponsor approval The answer C covers most of these steps, by using the business scenarios technique to elicit and validate the business requirements, goals, drivers, and constraints, as well as the current and future states of the architecture2. The answer C also uses stakeholder analysis to identify and engage the key stakeholders, and to address their

concerns and expectations3. The answer C also generates high level definitions of the baseline and target architectures, which can be used to develop the Architecture Vision and the value propositions4.
The other answers are not the best approach for architecture development, because:
Answer A focuses on researching vendor literature and conducting briefings with vendors, which is not the best way to understand the business needs and the current situation of the enterprise. Answer A also defines a preliminary Architecture Vision without involving the stakeholders or validating the requirements, which may lead to misalignment and lack of consensus.
Answer B conducts a pilot project that will enable vendors to demonstrate potential solutions, which is premature and costly at this stage of the architecture project. Answer B also does not address the stakeholder concerns or the current systems and integrations, which may result in gaps and risks. Answer B also develops the requirements after the pilot project, which may not reflect the actual business needs and goals.
Answer D develops baseline and target architectures for each of the manufacturing plants, which may not consider the enterprise-wide perspective and the potential benefits of a common ERP system. Answer D also does not involve the stakeholders or address their concerns, which may result in resistance and conflict.
Answer D also does not define the business case or the performance metrics, which are essential for demonstrating the value and feasibility of the architecture.
1: The TOGAF Standard, Version 9.2 - Architecture Vision 2: The TOGAF Standard, Version 9.2 - Business Scenarios 3: [The TOGAF Standard, Version 9.2 - Stakeholder Management] 4: [The TOGAF Standard, Version 9.2 - Architecture Definition Document]

質問**: 88**
TOGAF ADMを説明する以下の記述を検討してください。
* すべてのADM活動は、継続的なアーキテクチャ定義と実現の反復サイクルの中で実行されます。
要件管理フェーズは継続的なフェーズです
* 初期段階の出力は、後の段階で修正される可能性があります。
* あるフェーズが開始されると、前のフェーズは終了します。
どの記述が正しいですか？
A. 2、3、4
B. 1、2、3
C. 1、2、4
D. 1、3、4
正解**: (**正解を表示します**)**
Comprehensive and Detailed Explanation
Let's examine each statement against the TOGAF ADM principles:
All ADM activities are carried out within an iterative cycle of continuous architecture definition and realization
Correct. The ADM is iterative in three dimensions: across the cycle, between levels (enterprise, segment, capability), and within phases. This means architecture development is never linear but part of a continuous cycle of definition and realization.
The Requirements Management phase is a continuous phase

Correct. Requirements Management is central to the ADM cycle. It operates continuously, ensuring requirements are identified, stored, and addressed throughout all phases, not only in a single step.
Output from an early phase may be modified in a later phase
Correct. The ADM is iterative and allows feedback between phases. For example, new requirements identified in later phases may lead to modifications of deliverables from earlier phases.
When a phase starts, the previous phase closes
Incorrect. The ADM is not strictly sequential. Phases can overlap, iterate, and provide feedback loops. One phase starting does not imply that the previous phase is closed; instead, phases interact dynamically.
Correct Mapping
Statements 1, 2, and 3 are correct.
Statement 4 is incorrect.
Correct answer is B (1, 2 & 3).
Why the other options are incorrect
A (2, 3 & 4): Includes statement 4, which is incorrect.
C (1, 2 & 4): Includes statement 4, which is incorrect.
D (1, 3 & 4): Includes statement 4, which is incorrect.
References
The Open Group, TOGAF Standard, Version 9.2, Part II: ADM - overview of ADM iterations, Requirements Management, and feedback between phases.
The Open Group, TOGAF 9 Certified Study Guide - emphasizes ADM as iterative and requirements- driven.

有効的な**OGEA-103-JPN**問題集はJPNTest.com提供され、**OGEA-103-JPN**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**OGEA-103-JPN**試験問題集を提供します。JPNTest.com OGEA-103-JPN試験問題集はもう更新されました。ここで**OGEA-103-JPN**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、https://www.jpntest.com/shiken/OGEA-103-JPN-mondaishu 「**199**問、３０%ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」